

第三 釋義 本章ハ舊刑法第三編第一章第十二節中誹毀罪ノ規定ニ第四百二

十六條第十二號ヲ加ヘ修正ヲ加ヘタルモノナリ

以下各本條ニ付キ説明スヘシ

第二百三十條第一項ハ舊刑法第三百五十八條ヲ修正シタルモノニシテ舊刑法ハ誹毀ノ方法ニ因リ刑ヲ二ツニ區別スト雖モ屢説明スル如ク本法ハ及可的裁判官ノ自由裁量ニ任スル主義ナルヲ以テ斯ノ如キ區別ヲ廢シ數種ノ刑ヲ規定シテ適宜ノ刑ヲ擇ハシメタリ第二項ハ舊刑法第三百五十九條ト全ク同一ノ規定ナリ

本罪ノ成立ニ付テハ二個ノ學說アリ其一ハ一定ノ人ノ名譽心ヲ毀損スル即チ名譽上ノ苦痛ヲ與フルニ因リテ成立スト説クモノナリ其一ハ單ニ名譽即チ社會上ノ位置ニ危害ヲ與フルニ因リテ成立スト論ス誹毀罪ハ其指示セラレタル人ノ感情ヲ標準トスルモノニ非スシテ其人ノ社會ニ有スル位置ニ對シテ危險ヲ與フル罪ナリ故ニ或人カ其位置及ヒ身分ヲ願ミス賭博ニ耽ル惡癖アリト云フコトヲ表示シタリトセンニ假令其指示セラレタル人カ之ニ對

シ何等ノ感情ヲ有セサルモ斯ル風説ハ人格ヲ貶シ社會上ノ位置ヲ墜シ名譽ヲ毀損スルヲ以テ即誹毀罪タルヲ失ハス

第二百三十一條ハ舊刑法第四百二十六條第十二號ヲ修正シタルモノニシテ同條ハ公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者ニ關スル規定ナレトモ人ヲ誹毀スル方法ハ此等ノ手段ニ止マラス尙ホ他ニ幾多ノ方法アルヘキニ依リ本法ハ廣ク人ヲ侮辱シタル場合ノ規定ヲ設ケタリ

第二百三十二條前段ハ舊刑法第三百六十一條ト同一趣旨ノ規定ニシテ告訴人ヲ明示セサル理由ハ前已ニ述ヘタリ後段ハ新ニ設ケタル規定ナリ公務員ニ對スル誹毀ハ直接ニ誹毀セラレタル者ニ害ヲ及ホスニ止マラス延テ公ノ威信ニ關スルモノアルカ故ニ本人ニ於テ告訴セサルモ其誹毀ノ事實ニシテ寬假スヘカラサルモノアルニ於テハ之カ監督長官タルモノハ將來ノ職務執行上甚大ノ影響アルヲ以テ勞ヒ處分ヲ要求セサルヘカラス故ニ上司ニ於テ處罰ノ必要アリト認ムル場合ニ於テハ本人ノ告訴ナキモ其請求ニ依リ處罰スルコトヲ妨ケサルノ趣旨ヲ明ニセリ唯公務員ニ對スル誹毀ニ付キ斯ル特

例ヲ設クルハ頗ル失當ナリ既ニ官吏誹毀罪ヲ廢シテ一般ノ誹毀罪ニ間擬シ公務員タルト私人タルトニ付キ特例ヲ設ケサル本法ノ主義ト矛盾スルノミナラス誹毀セラレタル本人ニ於テ告訴ノ意思ナキモノニマテ上司ノ干涉ヲ許スハ不當ナリトノ非難ナキニアラサレトモ公權ノ施行ハ私權ノ行使ト自ラ異ナル所アリ重要ノ職務執行ニ對シテ重大ナル侮辱誹毀ヲ加ヘラレタルトキハ將來ノ施設ニ付キ頗ル影響ヲ及ホスヘシ人各見ル所ヲ異ニス下司ノ見ト上司ノ見ル所トハ同一ナル能ハス下司ノ認メテ以テ將來ノ職務執行ニ害ナシト認ムル事項モ上司ニ於テハ重要ナル妨害ト見ルコトアルヘシ其他種々ノ事情ニ妨ケラレ告訴ヲ敢テスルコト克ハサル場合アルヘキニ依リ上司ニ於テ請求ヲ爲スハ監督權ノ作用トシテ寔ニ已ムヲ得サルモノト云フヘシ

第三十五章 信用及ヒ業務ニ關スル罪

第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信

用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第一 沿革

第一案 第二百七十八條 物價ノ昂低ヲ生セシメ若クハ妨クル爲メ暴行脅迫又ハ偽計ヲ以テ米穀其他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用品又ハ薪炭油ノ船積陸揚若クハ運輸賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ニ記載シタル以外ノ物品ニ關シテ同一ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ減ス

第二百七十九條 暴行脅迫又ハ偽計ヲ以テ糶賣又ハ請負入札ノ自由ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百八十條 農工商ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ其作業執務ノ條件ヲ變更セシムル爲メ通謀シテ他ノ職工若クハ雇主ニ對シ暴行脅迫又ハ僞計ヲ用ヒ農工商ノ業務ヲ妨害シ得ヘカラシメル者ハ一月以上六月以下ノ有役禁錮ニ處シ其首魁煽動者ハ三月以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二百八十一條 農工商ノ雇主其雇人ノ雇賃ヲ減セシメ又ハ作業執務ノ條件ヲ變更セシムル爲メ通謀シテ他ノ雇主ニ對シ暴行脅迫又ハ僞計ヲ用ヒ農工商ノ業務ヲ妨害シ得ヘカラシメタル者ハ一月以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二案 缺如

第三案 缺如

第四案 缺如

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第四百十二條 不動産、動産ヲ所有スル權、不動産、動産ノ入額ヲ得ル權、不動産、動産ヲ貸賃ヲ得テ貸與フル權、起作供給商業ノ得利、土地ノ開墾及ヒ其他利分ヲ得ル權ヲ糶賣ニ爲ス時其糶賣ノ前又ハ其糶賣ノ間ニ暴行脅迫ヲ爲シテ其糶賣又ハ價ヲ附クルノ自由ヲ妨ケタル者ハ十五日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス五千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
贈遺又ハ契約ニ因リ價ヲ附クル者ノ其糶賣ノ場所ニ至ルヲ止メシメン者ハ同上ノ刑ニ處セラル可シ

第四百十三條 外國ニ輸出スル佛蘭西ノ製造品ノ性質種類大小ヲ定ムル爲メ設ケタル行政規則ニ背キシ者ハ二百フランクヨリ少カラス三千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ且其品物ヲ沒收セラル可シ但シ此二箇ノ刑ハ其時ノ景況ニ因リ之ヲ合セテ言渡シ又ハ其一箇ノミヲ言渡ス可シ

第四百十四條(千八百六十四年五月廿五日如左改ム) 暴行脅迫偽計ヲ以テ強テ工丁ノ雇賃ヲ昂低セント爲スタメ又ハ製造工作ヲ自由ニ行フノ妨ヲ爲スタメ一時ニ製造工作ヲ停止セシメ或ハ停止セシメント試ミ爲シ又ハ其停止ヲ久シカラシメ或ハ久シカラシメント試ミ爲シタル者ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス三千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ其二箇ノ刑中ノ一箇ノミノ言渡ヲ受ク可シ

第四百十五條(千八百六十四年五月廿五日如左改ム) 豫メ協議シタル謀計ニ因リ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ時ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ其犯人ニ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第四百十六條(千八百六十四年五月廿五日如左改ム) 工丁雇主起作人豫メ協議シタル謀計ニ因リ罰金又ハ禁制ヲ言渡シ製造工作ヲ自由ニ行フノ妨ヲ爲シタル時ハ六日ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑

ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ケ又ハ此二箇ノ刑中ノ一箇ノミニ處セララル可シ

千八百六十四年五月廿五日法律第二條第四百十四條第四百十五條第四百十六條ハ土地ノ所有者及ヒ土地ヲ借受ル者又ハ刈收ヲ爲ス者及ヒ田野ニ於テ使用スル雇夫ニモ亦通シ用フ可シ

千七百九十一年五月廿八日及ヒ十月六日ノ法律ノ第二編第十九條及ヒ第二十條ハ廢ス

第四百十七條 佛蘭西國ノ工作ヲ妨害セント爲スノ意ヲ以テ其工作場ノ指揮者雇人工丁ヲ故ラニ外國ニ出行セシメシ者ハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第四百十八條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 製造所指揮者雇人及ヒ工丁外國人又ハ外國ニ居住スル佛蘭西人ニ其製造ノ奧祕ヲ漏洩シ又ハ漏洩セント試ミ爲シタル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル

時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五百フランクヨリ少カラス二萬フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

若シ其奧秘ヲ佛蘭西國內ニ居住スル佛蘭西人ニ漏洩セシ時ハ其犯人三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

若シ官ニ屬スル兵器彈藥ヲ製造スル奧秘ヲ漏洩シタル時ハ其犯人必ラス此一條ノ第一項及ヒ第三項ニ記シタル刑ノ至重ノ刑ニ處セラル可シ
第四百十九條 故意ヲ以テ公ケニ詐偽或ハ讒誣ノ風評ヲ流布シ又ハ賣主ノ望ム所ノ價ヨリ更ニ高價ヲ附ケ又ハ同一ノ商品ヲ所有セル重立テル者ヲ協議セシメテ其商品ヲ賣ルヲ停止セシメ或ハ特ニ定メタル價ニ非

サレハ賣ラサルヲ定メシメ又ハ其他如何ナル方法ヲ論セス偽計ヲ用ヒ商品義務國貨證票ノ價ヲ貿易ノ自由ニ因リ相競フテ自然ニ定マル可キ價ヨリ更ニ低昂セシメタル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五百フランクヨリ少カラス一萬フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第四百二十條 若シ穀物及ヒ粗悪ノ穀物又ハ穀粉及ヒ諸般ノ粉ト爲ス可キ物又ハ麪包葡萄酒及ヒ其他ノ飲料ニ付キ前條ニ記シタル罪ヲ犯セシ者ハ二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且千フランクヨリ少カラス二萬フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ

白耳義刑法

- 第二百八十九條 凡官署ノ允許ヲ受ケ公業ヲ爲ス者ヲ事ニ依テ妨ル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處ス可シ
- 第二百九十條 凡聚群暴行或ハ脅迫ヲ以テ公衆ヲ妨クル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ
- 第二百九十一條 凡以上二條ノ犯罪人ハ尙ホ二十六「フランク」ヨリ五百「フランク」迄ノ罰金ヲ科スルコトアリ
- 第二百九條 凡製造家僕雇工等已ニ其家ヲ出ル者ト雖モ奸惡ヲ抱テ製造ノ祕密ヲ他人ニ告ル者ハ三月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ五十「フランク」ヨリ二千「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ
- 第三百十條 凡雇賃ヲ昂低セントシ或ハ製造ヲ害セントシ暴行脅迫等ヲ以テ工作ニ従事スル主僕ヲ妨ル者ハ八日ヨリ三月マテノ獄ニ處シ二十「フランク」ヨリ一千「フランク」マテノ罰金ヲ科ス可ク若クハ唯此一箇ヲ科ス可シ

乘人ヲ招募シ工作場若クハ工作主人ノ家傍ニ至リ其主人及ヒ雇人ノ自由ヲ害スル者モ同罪トス

第三百十一條 凡奸計ヲ以テ商品紙幣國債證券ノ價額ヲ昂低セシムル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處シ三百「フランク」ヨリ一萬「フランク」迄ハ罰金ヲ科ス可シ

第三百十二條 凡各縣城堡府廓等ノ部將縣官及ヒ權官等其管下ノ地ニ於テ前條ノ法ヲ犯ス者若クハ其犯ニ與ミスル者ハ本刑ノ外尙第三十一條一二三ノ奪權ニ處ス可シ

第三百十三條 凡衆ヲ連結シ若クハ暴行脅迫ヲ用ヒ菜穀市場ヲ抄掠スル者或ハ強ヒテ廉價ニ賣買セシムル者ハ三月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

其首謀挑撥人ハ六月ヨリ三月マテノ獄ニ處シ五年ヨリ十年迄ノ監察ヲ受ケシム可シ

第三百十四條 凡動靜財産入額動靜財産ノ貸付方及ヒ發起人等賣買ヲ爲

スニ當リ暴行脅迫ヲ用ヒ糶賣入札ノ自由ヲ妨ル者ハ十五日ヨリ六月ノ獄ニ處シ百フランクヨリ三千フランク迄ノ罰金ヲ科ス可シ

英吉利刑法典

凡工匠人衆ヲ聚メ雇工賃錢ヲ増加セント欲シ因テ人ヲ侵襲スル者ハ輕罪ニ坐シ二年ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ

凡他人ノ市場ニ於テ穀麥菜蔬等ヲ販賣スルヲ恐喝シテ妨障シ或ハ人ノ爲メニ品物ヲ運輸スルヲ恐喝シテ支留スル者ハ警察裁判所ニ於テ三ヶ月ノ入獄及ヒ贖金ニ處斷ス

奧太利刑法

第四百七十九條、第四百八十條、第四百八十一條

本三條ハ已ニ廢止シテ之ニ充ツルニ千八百七十年四月七日ノ律ヲ以テセリ(律令全集第四十三號其條例即チ左ノ如シ)

第一條 千八百五十二年五月二十七日ノ普通刑法中第四百七十九條、第四百八十條、第四百八十一條中ニ掲載セル條規ハ自今廢止ス

第二條 授業者家業人主長製造所鑛山製鍊勸農自他諸様ノ職業發起人等

互ニ相謀テ工事ヲ中止シ或ハ傭夫ヲ放チ以テ其給料ヲ減下シ其他總テ傭丁不利ノ取極メヲ爲シ或ハ亦之ニ反シテ授業者手職人ノ子手代僕婢其他傭夫互ニ相約シテ其服業ヲ中止シ以テ其給料ノ増加其他總テ自己ノ利益ヲ要スル者竝ニ右兩黨ノ一ニ荷擔シテ之ヲ保護シ其約ニ叛カサラシメントスルノ一致定約等ハ未タ刑法上ニ於テ其罪ヲ論ス可カラス

第三條 然レトモ第二條ニ記載セル取極メノ一ヲ確守シ之ヲ弘行シ或ハ強テ施行セント欲シ授業者若クハ受業者ノ其業ヲ授受スルニ對シ自由ノ決定ヲ妨ケ恐嚇若クハ強威ヲ用ヒシトキハ其所業尙ホ未タ嚴刑ニ觸レサルニ於テハ違式罪トシ八日以上三月以下ノ禁獄ニ處ス可シ

第四條 其他凡ソ職人相謀テ其製造物ヲ騰貴セシメン爲メ第二條及ヒ第三條ノ如キ所業ヲ爲ス者モ亦右兩條規則ニ從テ之ヲ處ス可シ

魯西亞刑法

第一千三百五十八條 製造場ノ役夫輩主人ヲ強要シテ其受領ス可キ賃金ヲ

騰貴セシメンカ爲メニ其主人ト約定シタル時間ヲ終ラサル前ニ勞役ヲ止メンコトヲ密謀スル主謀人ハ三週間ヨリ少カラス三月ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セラル可シ
而シテ其他ノ罪人ハ七日ヨリ少カラス三週間ヨリ多カラサル時間ノ拘留ニ處セラル可シ

第一千三百五十九條 若シ製造場主ハ其製造場ノ役夫ト約定シタル時間ヲ終ラサル前ニ其役夫ノ賃金ヲ擅ニ低減シ又ハ其賃金ノ代リニ商品麥穀或ハ其他ノ物件ヲ之レニ受領セシムルトキハ百ル以下ノ贖金ニ處セラル可シ
而シテ其贖金ノ外之カ爲メニ役夫ニ蒙ラシメタル損失ヲ返償セサル可カラス

瑞西刑法典案

第三百三十四條 惡意的ニ且ツ良知ニ反シ人ノ信用ヲ損害シ又ハ危害シタル者ニハ申請ニ依リ禁錮又ハ一百フランク乃至一萬フランクノ罰金ヲ

第三

科刑スルコトヲ得此二個ノ刑ハ之ヲ併科スルコトヲ得

釋義

本章ハ舊刑法第二編第八章ヲ修正シタルモノナリ今其主要ナル點ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 舊刑法第二編第三章ハ商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪ト題シ其適用ノ範圍狹キニ失スルヲ以テ本法ハ廣ク信用及ヒ業務ニ對スル罪ト題シ總テ人ノ信用ヲ毀損シ又ハ其業務ヲ妨害スル場合ヲ包含セシムルトト爲セリ

第二 舊刑法ハ數條ヲ設ケ種々ノ場合ヲ分別シテ規定スルモ時勢ノ進ムニ從ヒ業務ノ狀況一樣ナラス凡テノ場合ヲ悉ク網羅スルハ到底不可能ノコトニシテ若シ其一ヲ脱セン乎彼此權衡ヲ失シ不公平ヲ生スルノ虞アルヲ以テ本法ハ概括的ノ規定ヲ設ケ一切ノ場合ニ應スルコトトナシ脱漏ノ虞ナカラシム

以下各本條ニ就キ説明スヘシ

第二百三十四條ハ虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若

クハ其業務ヲ妨害シタル場合ノ規定ニシテ専ラ實業家ヲ保護スル精神ニ出ツ
偽計トハ人心ヲ眩惑セシムヘキ一切ノ不法行為ヲ云ヒ必スシモ人ヲ錯誤ニ
陥ラシムルコトヲ必要トセス此點ニ於テ詐偽又ハ欺罔ヨリモ其範圍廣ク詐
偽欺罔ハ固ヨリ此中ニ包含スヘキモ凡テ人心ヲ眩惑セシムル不法行為ハ一
切含蓄セラル

第二百三十四條ハ威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル場合ノ規定ナリ威力ト
ハ暴行竝ニ暴行ニ對スル脅迫恐喝ヲ含ムハ勿論其他單ニ地位又ハ權勢ニ因
テ人ヲ畏怖セシムル行為ハ一切包含ス

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲
シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタ
ル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之
ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二
年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免
レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキ
ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ
強盜ヲ以テ論ス

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ
懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年

以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條 直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其罪ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第一 沿革

第一案 第三百四十九條 自己ヲ利シ又ハ人ヲ害スルノ意ヲ以テ人ニ屬スル動産ヲ不正ニ奪取シタル者ハ盜罪ト爲シテ處罰ス

第三百五十條 自己ノ所有ニ屬スト雖モ物權ニ因リ他人ノ占有スル物件又ハ裁判所ノ差押ニ因リ他人ノ監守スル物件ヲ奪取シタル者ハ盜罪ヲ以テ論ス

共同所有權ヲ有スル者他ノ共同所有者ヲ害スルノ意ヲ以テ其物件ヲ奪取シタルトキ亦同シ

第三百五十一條 盜罪ヲ犯シタル者再ヒ盜罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ三犯以上ノ者亦同シ

第三百五十二條 暴行脅迫ヲ用ヒスシテ盜罪ヲ犯シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百五十三條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ

六月以上五年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百五十四條 門戶、牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ家宅其他ノ建造物ニ入り竊盜ヲ犯シタル者モ亦前條ニ同シ

第三百五十五條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百五十六條 兇器ヲ携帯シテ人ノ家宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第三百五十七條 前數條ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三百五十八條 家宅其他ノ建造物外ニ於テ竊盜ヲ犯シ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂クルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス

第三百五十九條 此款ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上三年以下ノ監視ヲ付スルコトヲ得

第三百六十條 父母、祖父母、夫妻、子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟

姉妹互ニ竊盜ヲ犯シタル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ヲ免ス

若シ他人自己ノ利ヲ圖リ共ニ犯シタル者ハ宥恕ヲ與フルノ限ニ在ラス

第三百六十一條 暴行、脅迫ヲ用ヒテ盜罪ヲ犯シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三等有期徒刑ニ處ス

竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行、脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

方略ヲ用ヒテ人ヲ睡眠若クハ昏絶セシメ其他精神ヲ喪失セシメテ盜罪ヲ犯シタル者亦同シ

第三百六十二條 強盜ヲ犯シタル者左ニ記載シタル情狀ノ一箇アルトキハ本刑ニ一等ヲ加ヘ二箇以上アルトキハ二等ヲ加フ

- 一 門戶、牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ家宅ニ入り犯シタルトキ
- 二 二人以上共ニ犯シタルトキ

三 兇器ヲ携帯シテ犯シタルトキ

第三百六十三條 強盜暴行脅迫ニ依リ人ヲシテ第二百八十九條ニ

記載シタル疾病創傷ニ至ラシメタルトキハ一等有期徒刑ニ處シ

第二百九十條第一項ニ記載シタル疾病創傷ニ至ラシメタルトキ

ハ二等有期徒刑ニ處ス

若シ殺意ナクシテ人ヲ死ニ致シタルトキハ無期徒刑ニ處シ殺意

アリタルトキハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處シ因テ

死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百六十五條 暴行脅迫ヲ用ヒ權利義務ニ關スル證書ヲ作リテ

之ヲ交付セシメ又ハ證書ヲ滅盡セシメタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百六十六條 此款ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ一年以上五

年以下ノ監視ニ付ス

第二案 第二百七十三條 人ノ動産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年

以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十四條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救

護ス可キ者ノ生命身體自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅

迫シテ動産ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期徒刑

役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ

得セシメタル者亦同シ

第二百七十五條 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以

下ノ懲役ニ處ス但事情ニ因リ本刑ヲ免除シ監視ニ付スルコトヲ得

第二百七十六條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若ク

ハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ

以テ論ス

第二百七十七條 人ヲ昏醉セシメテ其動産ヲ竊取シタル者ハ強盜

ヲ以テ論ス

第二百七十八條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十九條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ前條ノ刑ニ因ル

第二百八十條 第二百七十四條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ用ヒルノ動産ヲ奪取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十四條 第二百七十三條、第二百七十四條、第二百七十七條及ヒ第二百八十條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ第五百十三條及ヒ第五百十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十五條 直系血族及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テ第二百七十三條及ヒ第二百八十條乃至第二百八十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族ニ非ナル共犯者ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百八十六條 自己ノ動産ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ所有ニ屬シ又ハ官署若クハ公署ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

第二百八十七條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但第二百七十五條ノ罪ハ此限ニ在ラス

第二百八十八條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案 第二百七十二條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十三條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護ス可キ者ノ生命身體自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅

・ 迫シテ財物ヲ竊取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百七十四條 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但状況ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百二十五條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ煙滅スル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十六條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十七條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十八條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十九條 第二百七十三條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ用ヒ他ノ財物ヲ奪取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十三條 第二百七十二條第二百七十三條第二百七十六條又ハ第二百七十九條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ第五百二十二條又ハ第五百十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十四條 直系血族及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テ第二百七十二條又ハ前五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
親族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百八十五條 自己ノ財物ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

第二百八十六條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但第二百七十四條ノ罪ハ此限ニ在ラス

第二百八十七條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四案 第二百七十一條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十二條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護ス可キ者ノ生命身體自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シテ財産ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲

役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百七十三條 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百七十四條 竊盜財産ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十五條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ竊取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十六條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十七條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上

ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十八條 第二百七十二條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ用ヒ他人ノ財産ヲ奪取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十二條 第二百七十一條、第二百七十二條、第二百七十五條又ハ第二百七十八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ第五百十一條又ハ第五百十二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十三條 直系血族及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テ第二百七十一條又ハ前五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス
第二百九十四條 自己ノ財物ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ

占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本條ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百八十五章 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但第二百七十三條ノ罪ハ此限ニ在ラス

第二百八十六條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二 參照法律 佛蘭西刑法

第三百七十九條 何人ニ限ラス己レニ屬セサル物ヲ盜ミタル罪ヲ名ケテ盜罪ト云フ

第三百八十條 夫ノ其婦ノ物ヲ盜ミ或ハ婦ノ其夫ノ物ヲ盜ミ又ハ鰥夫或ハ寡婦其死去シタル配偶者ノ物ヲ盜ミ又ハ子及ヒ卑屬ノ親其父母及ヒ

尊屬ノ親其子及ヒ卑屬ノ親ノ物ヲ盜ミ又ハ同上ノ級ノ姻屬ノ親互ニ相
盜ム時ハ損失ノ償ヲ爲ス可キノミトス
其他ノ者其贓物ノ全部又ハ一部ヲ隱藏シ又ハ己レノ利益ト爲シタル時
ハ盜罪ノ刑ニ處セラル可シ

第三百八十一條

- 第一 夜間盜ヲ爲シ
- 第二 二人以上ニテ盜ヲ爲シ
- 第三 盜者數人又ハ一人表攜ノ兵器及ヒ暗藏ノ兵器ヲ持セシ時
- 第四 其盜者人ノ居住シ或ハ居住ス可キ家屋又ハ房室或ハ其家屋ニ屬
スル房舍ノ外部ヲ破壞シ或ハ攀援シ或ハ偽鑰ヲ用ヒ其家屋又ハ房屋
或ハ房舍内ニ於テ其罪ヲ犯シ又ハ上等官吏或ハ文武官吏ノ名稱ヲ詭
リ又ハ上等官吏或ハ文武官吏ノ衣服ヲ僭用シ又ハ文武官吏ノ命ヲ僞
リ其罪ヲ犯シ
- 第五 暴行ヲ爲シ又ハ兵器ヲ用ヒント脅迫シテ其罪ヲ犯シ

此五箇ノ景狀ヲ合シテ盜罪ヲ犯シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百八十二條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 暴行ヲ以テ盜罪
ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ若シ其犯罪ノ時行フタル暴
行ニ因リ人ニ斫痕或ハ傷痕ヲ遺シタル者ハ其所行ノミヲ以テ無期ノ徒
刑ニ處セラル可シ

第三百八十三條 第三百八十一條ニ記シタル五箇ノ所行中其二箇ヲ行ヒ
道路ニ於テ盜罪ヲ犯シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

若シ第三百八十一條ニ記シタル五箇ノ所行中其一箇ヲ行ヒ道路ニ於テ
盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

其他ノ場合ニ於テハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可シ
第三百八十五條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム)

- 第一 夜間盜ヲ爲シ
- 第二 一人ノ居住スル家屋又ハ佛蘭西ノ法律ニ循ヒ允准セシ法教ノ爲メ
設ケタル建造物内ニ於テ盜罪ヲ犯シ

第三 二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ且其犯人中ノ數人又ハ一人表携ノ兵器
或ハ暗藏ノ兵器ヲ持シ
此三箇ノ所行中其二箇ヲ行フテ盜罪ヲ犯シタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セ
ラル可シ

第三百八十六條

第一 夜間二人以上ニテ盜罪ヲ犯シ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニ
テ人ノ居住ニ用フ可キ家屋或ハ佛蘭西國ノ法律ニ循ヒ法教ノ爲メ設
ケタル建造物ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時
第二 盜罪ヲ犯セシ場所人ノ居住シ或ハ居住ニ用フ可キ家屋ニ非スシ
テ且晝間一人ニテ盜ヲ爲シタル時ト雖モ其犯人表携ノ兵器或ハ暗藏
ノ兵器ヲ持セシ時
第三 奴婢或ハ其他ノ雇人縱令其主ニ對シ盜罪ヲ犯スニ非スト雖モ其
主家ニ在ル者及ヒ其主ニ隨行シテ赴キシ家屋ニ居ル者ニ對シ盜罪ヲ
犯セシ時又ハ雇主ノ家屋製造所倉庫ニ住スル工丁或ハ年季ノ弟子其

住スル場所ニ於テ盜罪ヲ犯シ又ハ工業ヲ爲ス者通常其工業ヲ爲ス家
屋ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時

第四 旅舎ノ主人陸路運送人水路運送人又ハ其使用スル者其職業ニ付
キ委託ヲ受ケシ者ノ全部又ハ一部ヲ盜ミシ時
此等ノ場合中ノ一ニ於テ盜罪ヲ犯セシ時ハ其犯人ヲ徒刑場内ニ於テ使
役スル刑ニ處ス可シ

第三百八十八條 物ヲ負載セシメ或ハ車ヲ挽カシメ或ハ騎行ニ用フル馬
及ヒ其他ノ獸類又ハ大小ノ家畜獸又ハ耕作ノ器具ヲ田野ニ於テ盜ミ又
ハ盜マント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時
間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ
多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ
期ヲ定メ伐リ出ス可キ木材又ハ石礦ニアル石又ハ池沼ニ養フ魚ヲ盜ミ
シ者ハ同上ノ刑ニ處セラル可シ
既ニ地ヨリ刈收セシ穀類或ハ其他地ヨリ生スル要用ノ產物又ハ刈收シ

テ堆積シタル穀草類ヲ田野ニ於テ盜ミ又ハ盜マント試ミ爲シタル者ハ十五日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

車或ハ物ヲ負載セシムル獸類ヲ用ヒ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニテ前文ニ記シタル盜罪ヲ犯セシ者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

未タ地ヨリ刈收セサル穀類又ハ其他地ヨリ生スル要用ノ産物ヲ籃籠或ハ其他此類ノ器具ヲ用ヒ又ハ車或ハ物ヲ負載セシムル獸類ヲ用ヒ又ハ夜間一人或ハ晝間二人以上ニテ盜ミ又ハ盜マント試ミ爲シタル者ハ十五日ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス二百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此一條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ其犯人ハ前文ニ記セシ主タル刑ノ外其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限政府ノ監察ヲ受ケシムル事ヲ得可シ

第三百八十九條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 盜罪ヲ犯ス可キ爲メ土地間ノ經界ヲ爲ス物ヲ除去シ又ハ除去セント試ミ爲シタル者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第三百九十條 人ノ居住スル家屋トハ現ニ人ノ居住スルニ非スト雖モ人ノ居住ス可キ爲メ建造シタル諸般ノ家屋小屋廠舎又ハ搬運ヲ爲ス可キ

モノト雖モ人ノ居住ス可キ小屋又ハ廠舎又ハ用法ノ如何ヲ問ハス且外圍ノ内ニ別ニ塙塙ヲ以テ圍繞シタルヲ問ハス園庭又ハ穀類及ヒ耕作ノ器具ヲ藏スル小舎又ハ鷄鶩ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ厩及ヒ其他ノ建造物ノ如ク人ノ居住ス可キ家屋ニ附加ス可キ建造物ヲ指シ云フ

第三百九十一條 繞圍ヲ設ケシ地トハ溝渠杭板植築繩牆及ヒ其他何物ヲ論セス總テ塙塙ト爲ス可キ物ヲ以テ圍繞シ且鑰ヲ用ヒ及ヒ其他ノ方法ヲ以テ開閉スル門戸ナク又ハ透觀ス可キ門扉ヲ設ケ通常其門ヲ開キ置ク地ヲ指シ云フ但シ其塙塙溝渠ノ高深又ハ新舊ヲ問フコトナシ

第三百九十二條 造方ノ如何ナルヲ問ハス田野ニ於テ獸類ヲ入置ク爲メ設ケタル搬運ス可キ欄圍モ亦欄圍ヲ設ケシ地ト看做ス可シ但シ其欄圍獸類ノ看守人ノ爲メ設ケタル搬運ス可キ小屋又ハ其他看守人ノ爲メ風雨ヲ蔽フ可キ小屋ニ屬スル時ハ之ヲ人ノ居住スル家屋ニ屬セシ物ナリト看做ス可シ

第三百九十三條 塙塙瓦板門戸牌鎖及ヒ其他何物ヲ問ハス人ノ行路ヲ鎖

閉シ及ヒ防遮ス可キ爲メ設ケタル器具及ヒ諸般ノ繞圍ヲ強テ振開シ又ハ毀壞シ及ヒ除去スルヲ稱シテ破壞ト云フ

第三百九十四條 破壞ヲ分ツテ二種トス一ヲ外部ノ破壞トシ一ヲ内部ノ破壞トス

第三百九十五條 外部ノ破壞トハ家屋又ハ家屋ニ屬スル園庭又ハ穀類及ヒ耕作ノ器具類等ヲ藏スル小舎又ハ鷄鶩ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ其他繞圍ヲ設ケタル場所又ハ家屋ニ屬シタル場所又ハ房屋ニ入ルタメ爲シタル破壞ヲ云フ

第三百九十六條 内部ノ破壞トハ前條ニ記シタル場所ニ入リタル後其内ニアル門戸塙塙又ハ戸棚及ヒ其他總テ鎖ヲ施シタル家具ニ爲シタル破壞ヲ云フ

何物ヲ論セス總テ財産ヲ入レタル箱匣筒櫃又ハ括リタル行李及ヒ其他堅ク掩蓋シタル家具類ヲ其在ル場所ニ於テ破毀スルコトナク其儘ニテ奪ヒ去ルト雖モ亦内部ノ破壞ナリトス

第三百九十七條 塀牆、門戶、屋蓋及ヒ其他ノ繞圍ヲ越テ家屋及ヒ家屋ニ屬スル建造物園庭或ハ穀類及ヒ耕作ノ器具類ヲ藏スル小舎又ハ鷄、鶴ノ類ヲ蓄ヒ置ク小舎又ハ其他諸般ノ建造物園庭及ヒ繞圍ヲ爲シタル地ニ入ルヲ名ケテ攀援ト云フ

出入ノ爲メニ設ケシ者ニ非サル地道ヨリ潛入シタルハ攀援ト同罪ナリトス

第三百九十八條 偽造變造ノ搭輪合輪及ヒ偽鑰又ハ家屋ノ所有者及ヒ借受人旅舎ノ主人及ヒ旅舎ニ宿スル者ノ鎖、弔鎖及ヒ其他鎖閉セシ物ヲ開クニ用フヘキ爲メ設ケタルニ非サル輪合輪及ヒ搭輪ヲ名ケテ偽造ノ鑰トス

第三百九十九條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 鑰ヲ假造シ及ヒ變造シタル者ハ三月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且二十五「フランク」ヨリ少カラス百五十「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ若シ其犯人鑰ノ製造ヲ以テ業ト爲ス時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十「フラ

ンク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ノ全部又ハ一部ヲ行フノ禁ヲ受ケ且裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ但シ此規則ト他ノ重罪ヲ犯セシ時更ニ重キ刑ニ處セラル可キ規則ト相觸ルルコトナカル可シ

第四百條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 脅迫又ハ暴行ヲ以テ義務契約算還ノ旨ヲ記シ又ハ此等ノ事ヲ爲サシムル書類、證書類ニ姓名ヲ手署セシメシ者又ハ其書類、證書類ヲ渡サシメタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第四百一條 前數條ニ記セサル竊盜ノ罪ヲ犯セシ者及ヒ犯サント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フランク」ヨリ少カラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケン日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル
時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ク可シ
又其犯人ハ裁判所ノ言渡ヲ以テ同上ノ期限間政府ノ監察ヲ受ケシムル
事ヲ得可シ

白耳義刑法

第四百六十一條 詐謀ヲ用ヒ己レノ有ニ非サル物ヲ取ルヲ盜ト云フ

第四百六十二條 夫婦相盜ミ或ハ夫其亡妻ノ物ヲ盜ミ或ハ妻其亡夫ノ物

ヲ盜ミ或ハ尊屬卑屬ノ親相盜ミ或ハ以上同級ノ親族相盜ム者ハ刑律ニ
入ラス唯償還ヲ爲サシム可キノミトス

若シ外人ニシテ前文ノ盜ニ與スル者或ハ其物件ヲ藏匿スル者ハ常律ニ
依テ論ス可シ

第四百六十三條 本章ニ記載スル事件外ニ於テ行フ盜ハ一月ヨリ五年マ
テノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ五百フランク迄ノ罰金ヲ科ス可シ

第四百六十四條 婢僕其主人ノ物件若クハ其主家ニ在ル他人ノ物件若ク

ハ其主人ニ隨行シ他ノ家ニ至ルトキ其家ニ在ル人ノ物件ヲ盜ム者或ハ
工人若クハ其徒其主人ノ家或ハ工場或ハ倉庫ニ於テ盜ム者或ハ常ニ
人ノ住家ニ工作シ其家ニ於テ盜ム等ハ皆三月以上ノ獄ニ處ス可シ

第四百六十五條 前條ノ盜罪ハ本刑ノ外第三十三條ノ奪權ニ處シ尙ホ二
年ヨリ五年マテノ監察ヲ受ケシムルコトアリ

第四百六十六條 前數條ノ法ヲ犯サントシテ成ラサル者ハ八日ヨリ三年
迄ノ獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランク迄ノ罰金ヲ科ス可シ

第四百六十七條 左ノ盜ヲ行フ者ハ監役ニ處ス可シ

破壞或ハ超越或ハ僞鍵ヲ用テ盜ム者

官吏其官職ニ依テ盜ム者

盜犯若クハ盜犯中ノ一人官吏ノ名號或ハ官吏ノ表記ヲ用ル者或ハ官
命ヲ詐稱スル者

第四百六十八條 暴行若クハ恐喝ヲ以テ盜ム者ハ監役ニ處ス可シ

第四百六十九條 盜賊既ニ財物ヲ取り得或ハ逃走ヲ容易ニセントシテ追

捕ヲ拒ミ暴行恐喝ヲ爲ス者ハ皆暴行恐喝ヲ用ル盗ト稱ス可シ

第四百七十條 錢貨財物動産及ヒ書券、證票、領收狀、契約書、署名書等總テ必要ニ屬スル書券、契約書、請取證書類ヲ劫掠スル者ハ皆第四百六十八條ニ依テ論シ強盗ト同罪トス

第四百七十一條 人ノ居宅若クハ其附屬ノ所ニ於テ暴行若クハ恐喝ヲ用テ盗ミ左ニ掲ル五事ノ一ヲ兼ヌル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

- 一 破壊、超越或ハ偽鍵ヲ用テ盗ム者
 - 二 官吏其官職ニ依テ盗ム者
 - 三 賊或ハ賊中ノ一人官吏ノ名號若クハ官吏ノ表記ヲ用ヒテ盗ム者若クハ官令ト偽リテ盗ム者
 - 四 夜間二人以上ニテ盗ム者
 - 五 兇器ヲ持スル者
- 若シ以上ノ二事ヲ兼ヌル者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

第四百七十二條 公路ニ於テ暴行若クハ恐喝ヲ用ヒ盗ム者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

者シ前條五事ノ一ヲ兼ヌル者ハ十五年ヨリ二十年迄ノ懲役ニ處ス可シ

第四百七十三條 第四百六十八條、第四百六十九條、第四百七十條、第四百七十一條及ヒ、第四百七十二條ノ法ヲ犯シ因テ篤疾、廢疾、機器損失或ハ重傷ニ致ス者ハ十五年ヨリ二十年マテノ懲役ニ處ス可シ

若シ其人ヲ拷打スル者モ罪亦同シ

第四百七十四條 暴行恐喝ヲ爲シ誤テ殺ス者ハ終身懲役ニ處ス可シ

犯中ニ人ノ居宅若クハ大道ニ於テ數人共ニ暴行恐喝スル者モ罪亦同シ

第四百七十五條 盜若クハ劫ノ爲メ或ハ跡ヲ滅セント欲シ故殺スル者ハ死刑ニ處ス可シ

第四百七十六條 意外ノ景況ニ阻セラレ盜或ハ劫ヲ果ササルモ第四百七十三條及ヒ第四百七十四條ノ犯罪ハ其本刑ニ處ス可シ

第四百七十八條 凡夜中盜ヲ爲スト稱スル者ハ日没一時間後ヨリ日出

時間前マテノ盗ヲ云フ

第四百七十九條 凡居宅住屋ト稱スル者ハ家屋諸建物室房等ヲ云フ又總テ假リ小屋類ノ轉移ス可キ者モ住居ニ充ル者ハ皆此名稱ニ屬ス可シ

第四百八十條 凡居宅ノ附屬ト稱スル者ハ中庭（鳥獸等ヲ飼フノ處）バスクール（鳥獸等ヲ飼フノ處）園（鳥獸等ヲ飼フノ處）「ガラ、シジユ」（稻麥等ノ收入物）厩等總テ籬垣内ニ在ルモノヲ云フ或ハ籬籬

笆中ニ小籬笆ノ設ヲ爲ス者モ亦此類ニ屬ス可シ

第四百八十一條 凡郊野ニ在ルノ牧場モ其場内ニ獸畜ノ番人小屋アルモノハ皆居宅ノ附屬トス可シ

第四百八十六條 凡籬垣門戶室房及ヒ其他墻塀ヲ越ヘ家屋中庭園圃牧場等ノ内ニ入ル者地道ノ如キ通常出入ニ備ヘサル所ヨリ入ル者等ハ皆超越シ入ルト稱ス可シ

第四百八十七條 凡鉤（錠ヲ開クニ用ル）「ロシニヨル」（鉤ノ一種）「バスマルツ」（何所ノ錠ニ似セ錠ハ鐵造或ハ銅造）凡テ其錠ヲ備ヘサル錠

紛失シタル錠、盜マレタル錠等ヲ總稱シテ偽錠ト云フ

破壊ニ依リ罪狀ノ重キニ從フ可キ物件ヲ偽錠ヲ用テ開ク者ハ皆重キニ從フ可シ

獨逸刑法

第二百四十二條 他人ニ屬シタル動産ヲ不正ニ己レノ所有物トセントスルノ目的ニテ其物ヲ奪フタル者ハ盜罪トナシ禁獄ノ刑ニ處ス可シ之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ

第二百四十三條 盜罪ヲ犯シ左ノ情狀アルトキハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一項 禮拜ニ供シタル物ヲ其禮拜ノ爲ニ設ケタル場所内ニテ之ヲ盜ミタル者

第二項 家屋又ハ塙塀ノ内ニテ盜犯ヲ爲スニ其外部ヲ破壞シ又ハ攀援シ又ハ其内部ヲ破壞シ又ハ其他ノ動産ヲ毀ケタル時

第三項 家屋又ハ塙塀内ニ入ル爲メ又ハ門戶塙塀又ハ其他動産物ヲ開

ク爲メ盜犯ニテ之レ等ヲ開ク爲メニ用ヒタル他ノ偽鑰又ハ器械ヲ用ヒタル時

第四項 街衢公園水路(船ノ通行)鐵道郵便官司ノ建築内又ハ其所屬ノ場所又ハ鐵道停車場又ハ其所屬ノ場所ニ於テ旅人ノ荷物又ハ其他運送スヘキ物件ヲ盜ミタル時又ハ其物件ヲ閉チ又ハ包ミタル網等ヲ破毀シ又ハ之ヲ掠取シタル時又ハ平生其物件ヲ開ク爲ニ用ヒサル偽鑰又ハ器械ヲ用ヒタル時

第五項 盜罪ヲ犯スニ其首從ノ内一人武器ヲ携ヘタル時

第六項 數人徒黨ヲ爲シ引續キ強盜若クハ竊盜ヲ犯シタル時

第七項 盜罪ヲ犯スノ目的ニテ竊ニ人家ニ入り其内ニ隠レ夜間盜ヲ爲シタル時其盜ヲ爲シタル時間其人家ニ人ノ居セサル時モ亦同シ又其家屋ニ屬スル墻塼及ヒ其墻塼内ニ建タル各種ノ建造物並ニ人ノ住シタル船モ人家ト同ク論ス
若シ酌量輕減アリト雖モ三月ノ禁獄ヨリ減スヘカラス

第二百四十四條 強竊盜又ハ強盜ト同シク論スヘキ犯罪又ハ其窩主ヲ爲シタルニヨリ獨乙裁判所ニテ處決セラレタル者再ヒ其同種ノ重罪輕罪ヲ犯シ其再犯ノ罪若シ竊盜ニ該レハ(第二百四十二條)十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ若シ強盜ニ該レハ(第二百四十三條)二年ヨリ短カラサル徒刑ニ處ス可シ若シ酌量輕減アルトキハ竊盜ナレハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ強盜ナレハ一年ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

第二百四十五條 唯前刑ノ一部ヲ終ヘ又ハ其全部或ハ一部ヲ赦宥セラレタル時モ亦第二百四十四條ヲ通シテ用ユヘシ然レトモ若シ處スル所ノ刑ヲ了ヘ又ハ其刑ヲ赦宥セラレタル時ヨリ再ヒ盜罪ヲ犯スマテノ時間已ニ十年ヲ過キタル者ハ此例ニアラス

第二百四十六條 己レニ屬セサル動産ヲ假ニ之ヲ所有シ又ハ照管シタル動産ヲ故ナク己レノ所有ト爲シタル者ハ騙取ノ犯罪トナシ三年ヨリ長カラサル禁獄ニ處シ若シ委託ヲ受ケタル物ナレハ五年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

若シ酌量輕減アルトキハ三百ターレルヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ

第二百四十七條 人其親族後見人教師又ハ奴僕雇直ヲ與ハ使役スル人又ハ寄寓主ニ對シ盜罪又驅取ノ罪ヲ犯シタル時ハ其訴アルニ非サレハ其罪ヲ論ス可カラス又其訴ヲ解クコトヲ得ヘシ
尊屬ノ親ヨリ卑屬ノ親ニ對シ夫婦互ニ爲シタル盜罪驅取ハ刑無シ然レトモ其尊親ニ非サル共犯及ヒ犯後加功者ニハ同上ノ罰ヲ用ユ可カラス

第二百四十八條 盜罪又ハ驅取ノ罪ヲ犯シタルニ依リ禁獄ニ處セラレタルトキハ仍ホ公權ヲ剝奪シ又其盜罪ニヨリ徒刑ニ處セラレタル時ハ其餘警視ノ監護ニ附スルコトヲ得可シ

第二百四十九條 人ニ對シテ暴行ヲ爲シ又現ニ其身體ヲ傷スヘク又生命ニ罹ルヘク脅迫シテ己レニ屬セサル動産ヲ故ナク己レノ所有トセン爲メ奪フタル者ハ強盜罪トナシ徒刑ニ處スヘシ

若シ酌量輕減アリト雖モ六月ノ禁獄ヨリ減ス可カラス

第二百五十條 盜罪ヲ犯シ左ノ情狀アルトキハ五年ヨリ短カラサル徒刑ニ處ス可シ

第一項 強盜犯ノ首又其附從ノ内一人武器ヲ携ヘタル時

第二項 引續キ強盜若クハ竊盜ヲ爲スヘキ爲メ數人徒黨ヲ組ミ之ヲ犯ストキ

第三項 街衢鐵道公園海上及ヒ水路ニ於テ強盜ヲナシタルトキ

第四項 竊盜若クハ強盜ヲ犯スノ目的ニテ竊ニ人家ニ入り又ハ暴行ヲ爲シ其人家ニ入り又ハ其盜罪ヲ發ス目的ニテ人家ニ隱レ夜間強盜ヲ爲シタルトキ(第二百四十九條)

第五項 強盜又ハ強盜ト等シク論スヘキ重罪ニ因リ已ニ獨乙裁判所ニ於テ處決セラレタル者自他第二百四十五條ニ記シタル規則モ亦通シテ用フヘシ

若シ酌量輕減アリト雖モ一年ノ禁獄ヨリ減ス可カラス

第二百五十一條 強盜ヲ爲シタル時人ノ身體ヲ擄打シ因テ人ヲ重傷ニ致シ又ハ死ニ致シタル者ハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ處スヘシ

第二百五十二條 盜犯現ニ覺逐セラレ其盜品ヲ占有セン爲メ人ニ對シ暴行ヲ爲シ又ハ現ニ其身體生命ニ懼ル危難ニ及フヘク脅迫シタル者ハ皆強盜ト同ク論ス

第二百五十三條 自ら不正ノ利ヲ得ントスル爲メ又ハ之ヲ人ニ得セシメントスル爲メ暴行脅迫ヲ以テ人ヲシテ強テ事ヲ爲サシメ又之ヲ止メシメ又ハ之ヲ肯セシメタル者ハ勒索ノ罪トナシ一月ヨリ短カラサル禁獄ニ處スヘシ之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ

第二百五十四條 勒索ヲ爲スニ謀殺放火洪水ヲ以テ恐喝シタル者ハ五年ヨリ長カラサル徒刑ニ處スヘシ

第二百五十五條 勒索ヲ爲スニ人ニ對シ暴行ヲ爲シ又ハ現ニ其身體生命ニ懼ル危難ニ及フヘク脅迫シタル者ハ強盜ト同ク論ス

第二百五十六條 勒索ニヨリ禁獄ニ處セラレタル者ハ公權ヲ剝奪スルコトヲ得可シ強盜勒索ニヨリ徒刑ニ處セラレタル者其餘警視ノ監護ニ付スヘシ

英吉利刑法典

一 竊盜未タ全ク持去セスト雖モ其處ヲ動移スル者ハ全ク盜取スルト罪同シ假令ハ人ノ馬牛ヲ牧野ヨリ曳出シ或ハ旅人ノ客舎ニ屬スル所ノ器物ヲ其室内ヨリ持出シ或ハ厨内ヨリ磁器ヲ取出シ之ヲ床上ニ置クカ如キ竝ニ未タ全ク持去セスト雖モ仍ホ竊盜罪ニ坐スルヲ云フ

一 竊盜ヲ犯ス者ハ一般ノ規則ニ重罪ニ坐シ五年ノ徒刑或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ

若シ年十六以下ノ者犯セハ更ニ打背罪ヲ加フ

若シ三犯スル者前二犯ハ贖金ニ該リ或ハ再犯スル者前輕罪ノ惡キ者ヲ犯セハ並ニ七年ニ及フ徒刑ニ處ス若シ前重罪ヲ犯ス者ハ十年ニ及フ徒刑ニ處斷ス

- 一 奴婢家長ノ財物ヲ盜ム者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ十四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ若シ年十六以下ノ男子犯ス者ハ判事ノ適意ニ依テ打背罪ヲ加フ
- 一 若シ監守及ヒ捕吏等官ニ屬スル所ノ財物ヲ盜ム者モ罪亦同シ
- 一 奴僕雇人家長ノ財物ヲ那移出納シテ己レニ入ルル者ハ罪家長ノ財物ヲ盜ムニ同シ監守及ヒ捕吏那移出納シテ己レニ入ルル者ハ監守及ヒ捕吏官物ヲ盜ムニ同シ
- 一 若シ英國銀行ノ算吏及ヒ奴僕雇人等文案ヲ捏造シ財物ヲ那移シテ己レニ入ルル者ハ終身ニ至ル徒罪ニ處斷ス
- 一 人ノ家屋ヲ借居シ其借用スル所ノ諸品器ヲ竊取スル者ハ重罪ニ坐シ贓ニ計ヘ五封度以上ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ或ハ七年ニ止ル徒罪ニ處ス五封度以下ハ止タ二年ニ止ル入獄ニ處斷ス
- 一 製造場ヨリ絹麻綿毛等ノ糸及ヒ器械等ヲ竊取スル者ハ贓ヲ計ヘ十シルリング以上ハ十四年ニ及フ徒罪ニ處斷ス

- 一 奴婢家長ノ命令ニ違反シ私ニ其穀物ヲ取出シ縱ヒ家長ノ馬牛羊犬等ニ授與スト雖モ仍ホ治安裁判所ニ於テ即日贖金ニ處斷ス
- 一 馬牛羊豚ヲ竊取スル者ハ五年ヨリ十四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ
- 一 船舶ニ諸物品ヲ積載運出シ因テ盜取スル者ハ贓ヲ計ヘ五封度以上ハ五年ヨリ十四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ
- 一 夫其妻ノ財物ヲ取り擅ニ私用スルト雖モ法律ニ於テ夫婦ハ一人ト見做セハ盜罪ヲ以テ之ヲ論ス可カラス
- 一 故ラニ財物若クハ證書等ニ係ル他人ノ封書ヲ盜ミ或ハ郵便吏役ヲ停留シテ封書ヲ盜ントスル者ハ重罪ニ坐シ罪前條ニ同シ
- 一 若シ故ラニ他人ノ封書ヲ隱匿シテ吏役ニ附與セサル者ハ輕罪ニ坐シ贖金及ヒ入獄ニ處斷ス
- 一 夫婦共ニ謀リ婦自ラ之ヲ行フト雖モ婦ハ法ニ於テ平常夫ノ使令ニ聽

從シテ事ヲ行ヘハ止タ其夫ヲ罪ニ坐シ婦ハ坐セス

其謀反大逆及ヒ人命若クハ窩娼等ハ此限ニアラス

若シ婦夫ノ衣物ヲ盜取スル者モ亦法ニ於テ夫婦ハ一物トスレハ婦ヲ盜罪ニ坐スルコトヲ得ス

若シ婦ニ姦夫アリテ之レカ爲メニ夫ノ衣物ヲ盜ミ附與スルニ姦夫明ニ其盜贓ナルヲ知テ收受スレハ止タ姦夫ヲ盜罪ニ坐シ婦ハ坐セス

一 財物若クハ證書類ヲ強取スル者ハ重罪ニ坐シ贓ニ計ヘ五封度以上ハ五年ヨリ十四年ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ未タ盜取セサル者ハ五年ノ徒罪或ハ入獄ニ處斷スル若シ兇器ヲ持テ或ハ二三人ヲ連糾シ或ハ因テ人ヲ毆傷スル者ハ並ニ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處シ打背罪ヲ加フ

一 文書ヲ以テ人ヲ恐喝シ其財物證書等ヲ強奪セントスル者ハ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處シ或ハ入獄打背罪ニ處斷ス財物證書等ヲ盜ント欲シ強テ乞求スル者ハ五年ノ徒罪或ハ入獄ニ處斷ス

若シ文書ヲ送リ人ヲ死罪或ハ七年以上ノ徒罪ニ誣陷シ財物ヲ強奪セントスル者ハ五年ヨリ終身ノ徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處シ若クハ苦役監牢打背罪ヲ加フ

若シ人ヲ罪ニ誣ヒ恐嚇シテ證書ヲ破壊變改收受若クハ姓名押印ヲ爲サシメ或ハ他人ノ名印ヲ詐爲セシムル者モ罪亦同シ止タ打背罪ヲ除免ス
一 夜人ノ門戸ヲ叩キ開クニ及ンテ突入シ或ハ家ヲ借居セント詐稱シ内ニ在テ強盜ヲ犯ス者ハ自ラ家屋ヲ破壊セスト雖モ仍ホ夜破入人房屋律ニ依テ論ス

一 強盜謀殺強盜等ヲ犯サント欲シ夜(時九時ヨリ曉六時)人ノ居住スル房屋墻垣門窓等ヲ破壊シテ侵入スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ノ徒罪ニ坐シ或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ

若シ已ニ内ニ在テ重罪ヲ犯シ後破壞シテ脱出スル者及ヒ一時家内ニ人ナク或ハ止タ窓戸ヲ排擠シ鎖鑰ヲ解脱シ若クハ闕ヲ越ヘ或ハ止タ手ヲ入ルル者ト雖モ皆同シ

其幕居牙廠等ノ暫時ノ爲メニ建置シテ永久ノ爲メニアラサル者或ハ白
晝ニ人ノ居住スル家ト雖モ夜ハ之レニ寢居セサル者ハ此限ニ在ラス

一 宮社寺院等ヲ破壊シテ侵入シ因テ内ニ在テ重罪ヲ犯ス者ハ神位ヲ輕
侮スル罪ニ坐シ夜破入人房屋律ト罪同シ

若シ未タ内ニ在テ重罪ヲ犯ササル者ハ二年ニ過キナル入獄ニ處シ或ハ
七年ニ止ル徒罪ニ處斷ス

一 夜人ノ房屋ヲ破壊ス可キ兇器ヲ持チ或ハ面色ヲ塗リ容體ヲ變シ人ノ
家屋内ニ在ル者ハ輕罪ニ坐シ五年ノ徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キナル入
獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フ

若シ再犯スル者或ハ前重罪ヲ犯シ後此罪ヲ犯ス者並ニ十年ニ至ル徒罪
ニ處シ或ハ入獄ニ處斷ス其法上ニ同シ

魯西亞刑法

第二百四十一條 凡ソ寺院ノ物品及ヒ金圓ヲ竊取セシ者ハ凡テ之ヲ寺院
ニ對スル強盜トス但寺院禮拜所寺庫其他平素或ハ臨時寺外ニ蓄積セル

場所ニ於テスト雖モ凡テ殊ナル處ナシ唯タ其尤モ加重ノ情ト爲スヘキ
ハ神器ヲ竊取シ或ハ暴行ヲ用ヒ若クハ押入ヲ爲ス者之ナリ

第二百四十三條 禮拜所或ハ寺庫ヘ押シ入り神事ニ供スヘキ物品ヲ略切
セシ者ハ重刑ノ第二類第四等ニ處セラル可シ又黨與ヲ結ヒ同上ノ器ヲ
密カニ竊取セシ者ハ重刑ノ第二類第六等ニ處セラル可シ

第二百四十四條 寺院或ハ拜禮所ヘ押入り神器ニ非ス唯タ神事ニ用ユル
ヲ以テ器重ニ屬スルモノ(洗禮器皿批酌ノ如キ)ヲ奪取セシ者ハ重刑ノ第
二類第六等ニ處ス可シ又押込ニ非ス唯タ竊取セシトキハ本刑ニ一等ヲ
減スヘシ

第二百四十五條 第二百四十三條ニ記載セシ神器ヲ押入り奪取シタルト
キ(但シ寺院及ヒ寺庫ニ非ス唯タ寺院ニ屬スル他ノ貯蓄場ニ於テ之ヲ掠
ム)ハ重刑ノ第二類第六等ニ處ス可シ又竊取ナルトキハ本刑ニ一等ヲ減
ス可シ

第二百四十四條ニ記載セル神事ニ用ユヘキ器具ヲ寺院

第二百四十六條

刑罰 第二類

或ハキ

一二五二

室ニ非ナル他ノ場所即チ倉庫或ハ禮拜所ニ押入掠取スルトキハ
重刑ノ第二類第七等刑ニ處ス可シ又同上ノ器ヲ倉庫或ハ禮拜所へ押入
セス密カニ掠取セシ者ハ重刑ノ第三類第一等刑ニ處セラル可シ

第二百四十七條 寺院寺室ニ押入シ金圓或ハ燈火ノ猶ホ未タ神前或ハ燈
籠中ニ供セサルモノ或ハ他ノ神事ニ用ヒサル物品ヲ掠取セシ者ハ重刑
ノ第二類第七等刑ニ處セラル可シ又同上ノ掠取ヲ爲スニ押入ヲ爲サス
然レトモ豫メ謀圖シ決意ヲ以テ之ヲ犯爲セシトキハ重刑ノ第三類第二
等刑ニ處セラル可シ或ハ又押入ヲ爲サス又豫謀セサルトキハ懲治刑ノ
第一類第二等刑ニ處セラル可シ

第二百四十八條 寺院ニ屬スル金圓或ハ物品ノ神事ニ供奉セサル物ヲ禮
拜所其他寺院外ノ倉庫ニ押入シ奪掠スルトキハ重刑ノ第三類第二等刑
ニ處セラル可シ若シ又本罪ヲ犯スニ方リ押入ヲ爲サス然レトモ豫謀シ
テ之ヲ犯ストキハ懲治刑ノ第一類第三等刑ニ處セラル可シ

第二百四十九條 寺院へ奉納ス可キ爲メ供奉所へ具ヘシ金圓或ハ院外ニ

設立セシ聖像ヲ掠取セシ者モ亦前條ノ刑ニ處セラル可シ

第二百五十條 凡ソ管守ノ任アリ或ハ事神ノ時之ヲ使用スヘキ職ヲ佩フ
ル者ニシテ寺院強盜ノ重刑ヲ犯ストキハ其刑常人ニ一等ヲ加フ可シ

第二百五十一條 寺中神聖ニ屬スル物ヲ犯サス又寺院ノ掌管ニ非サル金
圓物品或ハ寺院若シハ其僧徒ノ爲メニ寄附セル金圓ト雖モ猶ホ未タ全
ク寺物ト成ラサル物ヲ掠奪セシ者ハ第二百五十九條ニ記載セル竊盜
罪或ハ第二百五十二條ニ掲クル他人ノ所有物掠略ノ罪ニ科スヘキ刑
ノ尤モ重キモノヲ以テ論スヘシ然レトモ若シ供奉ノ物品ニ係ルトキハ
第二百四十八條ニ從テ之ヲ刑ス可シ

第二百五十二條 總テ本款中ニ於テ寺院強盜罪ニ對スル刑例ハ設ヒ其寺
院正教或ハ國中ニ保護ヲ受ク可キ他ノ耶蘇教派ヲ論セス齊シク之ヲ受
ケシム可シ

第二百五十三條 常人ノ居宅或ハ寺院ニ屬セサル貯藏所へ押入シ神事ニ
供奉ス可キ物品ヲ情ヲ知テ奪掠セシ者ハ重刑ノ第三類第一等刑ニ處セ

ラル可シ然レトモ之ヲ竊取スルニ方リ押入セサルトキハ懲治刑ノ第一
 類第一等ニ處セラル可シ第二百四十三條及ヒ第二百四十四條ニ記載セ
 ル物品ヲ未タ神事ニ供奉セス又寺籍ニ書入セサル内ニ肆店或ハ調製所
 其他總テ寺院ニ屬セサル貯蓄場ニ於テ竊ム者ハ第二百四十七條乃至
 第二百七十一條中竊盜罪ニ科ス可キ刑ノ尤モ重キ者ヲ以テ論ス可シ
 第二百五十四條 寺院或ハ禮拜所ノ側傍ニ於テ聖像或ハ十字架ノ摸形ナ
 キ寄附臺中ニ在リシ金圓ノ寺院ニ屬セス唯タ貧者ヘノ施行或ハ他ノ信
 心ヨリ集メラレシモノヲ竊取セル者ハ第二百四十九條中押入ノ竊盜
 ニ科スヘキ刑ノ尤モ重キモノヲ以テ論ス可シ又寺院ニ寄附スヘキ爲メ
 同上ノ如ク集メシ金圓ヲ寺院ヘノ寄附タルコトヲ知ラスシテ竊取セル
 者モ同刑トス然レトモ若シ寺院ヘノ寄附タルコトヲ知ルカ或ハ知ラサ
 ル能ハサル者ニシテ本罪ヲ犯ストキハ第二百四十八條ニ從テ刑セラル
 可シ

第二百五十五條 寺院ニ屬スル物品ト雖モ猶ホ未タ供奉セス又神事ニ用

ヒサルモノヲ寺院禮拜所寺室寺庫ニアラサル他所ニ於テ竊取セル者ハ
 第二百四十七條ヨリ第二百七十一條間ニ記載セシ竊盜ノ例ニ從テ
 之ヲ刑ス可シ

第二百四十一條 數人相黨シ公然人家或ハ其場所ニ押シ入り暴行ヲ以
 テ強盜ヲ爲セシ時ハ其首犯ハ重刑ノ第二類第四等ニ處ス可シ

第二百四十三條 持兇器強盜ハ兇器ヲ使用セス又脅迫ノ具ト爲サスト
 雖モ齊シク持兇器強盜トシ重刑ノ第二類第七等ニ處セラル可シ

第二百四十四條 暴行脅迫ヲ以テ強盜ヲ爲セシ者ハ其情狀ニ從ヒ重刑
 ノ第二類第七等或ハ重刑ノ第三類第一等或ハ第二等ニ處ス可シ

總太利刑法

第四百十一條 強盜ヲ爲サント欲シ殘忍暴惡ノ所業ヲ以テ人ヲ死ニ致ス
 トキハ(第百二十四條ノ如ク其本犯共犯共皆之ヲ死刑ニ處ス可シ

第四百七十一條 自家ノ利ヲ謀リ他人ノ許シ無ク其勳産ヲ掠取スル者ハ之
 ヲ竊盜ノ罪ト云フ

第一百七十二條 凡ノ竊盜ノ重罪ト爲スヘキ所以ノ情狀タルヤ竊盜物ノ價額竊盜ノ仕方或ハ竊盜物ノ性質及ヒ竊盜人ノ性質ニ依テ然ルモノトス
 第一百七十三條 竊盜物ノ價額二十五、グルデン以上ニ及ハハ其價額ノミヲ以テ已ニ之ヲ重罪トス然ルニ此竊盜物ノ價額タルヤ一回若クハ數回ノ竊盜物一人若クハ數人ノ所有物一物若クハ數物ニ係ルヲ問ハス凡ソ二十五、グルデン以上ニ至レハ皆定メテ之ヲ重罪トス而シテ本價額ヲ定ムルハ竊盜人ノ利用ニ由ラス被害者ノ損失ヲ以テ之ヲ算定スヘシ

第一百七十四條 竊盜ノ所業ニ關シ定メテ之ヲ重罪トスルモノ左ノ如シ
 第一 竊盜者手銃或ハ他ノ人命ヲ害傷スヘキ兇器ヲ携帯スルカ或ハ其竊取セシ物品ヲ奪去スヘキ爲メ暴行若クハ危險ノ脅迫ヲ爲スニ於テハ全ク價額ノ多少ヲ問ハス之ヲ重罪トス

第二 左ノ場合ニ於テハ竊盜物六、グルデン以上ノ價額ニ及ヘハ皆ナ之ヲ重罪トス
 (イ) 火難洪水其他一般若クハ特ニ被害者災難ニ罹リシ際

(ロ) 一人若クハ數人ノ仲間ヲ嘯聚シ以テ竊盜ヲ爲ストキ
 (ハ) 寺社境内ニ在ル物品
 (ニ) 閉園内ノ物品
 (ホ) 樹木墻垣ヲ結ヒタル林藪内ノ樹木ヲ盜ミ若クハ森林ヲ若シク毀害シテ盜ミシトキ

(ト) (ヘ) 池中ノ諸魚
 野獸墻垣ヲ結ヒタル林藪中ニ於テスルカ又ハ特ニ暴悍ノ所業ヲ用ヒ或ハ獸獵ヲ以テ殆ント正業ト爲ス者ノ犯爲スルトキ
 註ニ曰ク獸園外ノ野猪熊猿狐狸狼等爾他凡ソ人ニ妨害ヲ爲スノ野獸ハ各人之ヲ捕リ得ヘシ千八百五十三年十二月十五日内閣布達第五千六百八十一號(奧國法律第七十三號)然レトモ獵人其狩獵區ニ於テ野獸ヲ射擊シ之ニ傷害ヲ負ハシムルト雜モ該獸猶ホ遁レテ他ノ獵區ニ入レハ追擊シテ復タ其獵區ニ入ル能ハス乃チ其進入セシ本地ノ領主全ク其掌領物トシ自在ニ之ヲ取扱ヒ得ヘシ同第五條故ニ其野

獸ヲ初メ刺傷スルカ或ハ他ニ之ヲ疵付ケントキ該獸遊レテ他領ニ入レハ斯ニ其死ヲ見出スト雖モ敢テ之ヲ執リ得可カラス(同第二十二條)

凡ソ夜網及ヒ狝ハ行政官ノ禁スル所ニシテ之ヲ犯ス者ハ乃チ違式罪トス(千八百五十三年五月十五日內閣布達(奧國法律第百六十三號中二千八百二十七號))
其他各區狩獵受場中ニ於テモ亦其住民仲間野獸盜ヲ犯爲スルノ罪ト爲ス有リ

第一百七十五條 單ニ竊盜物ノ性質ノミニ關シ竊盜ノ重罪ト爲ス有リ即チ

第一 凡ソ左ノ物品ヲ盜ム者ハ其價額ノ多少ヲ問ハス凡テ之ヲ重罪トス

- (イ) 直チニ神前ニ奉納セル物品ヲ掠メテ以テ宗教ノ德ヲ瀆蔑シ或ハ
- (ロ) 第八十五條(ハ)號下及ヒ第八十九條ニ掲載セル如キ物品ヲ掠メシトキ

第二 左ノ物品ヲ盜ミシ者其價額五グルデン以上ニ及ヘハ之ヲ重罪トス

- (イ) 田畑及ヒ樹上ノ果實又ハ養蠶ヲ以テ家業及ヒ國家經濟ノ一科ト爲セル地方ニ於テハ桑葉ヲ盜ム者或ハ

(ハ) 牧場中ノ畜獸

(ニ) 田畑ニ於テ其耕作器具

(ロ) 鑛山ニ於テ鑛物或ハ其坑中工場山上或ハ精練所ニ用フル諸器械

第一百七十六條 竊盜人ノ性質ニ關シ論スルニ重罪ヲ以テスヘキコト有リ

第一 其物品ノ價額ヲ問ハス凡ソ竊盜ヲ以テ常習ト爲ス者

第二 左ノ場合ニ於テハ竊盜物ノ價五グルデン以上ニ及ヘハ之ヲ重罪トス

- (イ) 重罪違式罪ヲ問ハス凡ソ竊盜人已ニ本罪ヲ以テ二回處刑ニ及ヒタルトキ

- (ロ) 雇人其主若クハ其家族ノ所有品ヲ掠メシトキ
- (ハ) 職人門人若クハ傭丁其主頭即チ其職事ヲ支配スル者ノ所有品ヲ

第七十七條 前條ノ竊盜ハ唯犯罪者ノ性質ニ關シテノミ之ヲ重罪ト爲シタルヲ以テ其共犯及ヒ關係者ハ凡テ論スルニ重罪ヲ以テス可カラス

第七十八條 凡ソ竊盜ノ重罪ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ掲載セルモノノ外別ニ罪科無キニ於テハ之ヲ六月以上一年以下ノ重徒刑ニ處ス可シ

然レトモ斯ク加等ノ情狀アルニ於テハ之ヲ一年以上五年以下ノ重徒刑ニ處スルコト有ル可シ

註ニ曰ク本條第二項ニ於テ一年以上五年以下ノ重徒刑ニ處スルアリトスルハ第七十三條ヨリ同第七十六條マテ掲載セル重罪俱發ノ場合爾他凡テ竊盜罪ノ特ニ重キ情狀有リ(第四十三條乃至第四十五條ノ如キ)諸般ノ形狀ニ於テ本書第四十八條ニ掲ケタル減等ノ情狀ニ全ク相反シ乃チ加等ノ情狀顯然スルトキ皆ナ然ルモノトス(千八百五十六年六月十五日內閣布達中甲號下法律纂輯第三百三號)其他凡ソ加等ノ情

狀有リ嚴刑ヲ要スルニ於テハ復タ第五十四條ヲ施行ス可ラサルヤ已ニ片言ノ辯ヲ要セサル所ナリ

第七十九條 然レトモ竊盜物ノ代價總計三百(グルデン)以上ニ及ヘルカ或ハ竊盜ノ所業タル特ニ慄慄暴行及ヒ偽計ヲ用ヒシカ或ハ竊盜者其犯爲ニ臨ミ果シテ暴行若クハ危險ノ強迫ヲ用ヒテ以テ奪略ヲ爲サントスルカ或ハ竊盜ヲ以テ已ニ常習ト爲セル者ハ五年以上十年以下ノ重徒刑ニ處セララル可シ

第八十條 竊盜ヲ爲スノ時夜中ニ係ルト雖モ第七十三條乃至第七十六條中ニ掲載セル罪狀ノ一顯然セサルニ於テハ未タ必ラスシモ犯爲ノ時ノミヲ以テ之ヲ重罪ト爲サス然レトモ其刑期ノ長及ヒ處刑ノ嚴ナルコト日中ニ於テ全ク同一人竊盜ヲ爲セシ者ヨリ必ス甚シキヲ要ス

第八十九條 其他竊盜若クハ監守盜及ヒ其共犯ノ違式罪ト爲スヘキモノ及ヒ夫婦間親子兄弟姉妹等ノ如キ一家同族ノ間ニシテ竊盜ヲ爲セシモノヲ違式罪トシ論スヘキ條例ハ本書第二編中ニ之ヲ掲クヘシ(其第四

百六十三條

第九十二條 然レトモ一人若クハ衆多ノ仲間ヲ率ヒテ其脅迫ヲ爲スカ又ハ兇器ヲ携持シ及ヒ此脅迫ヲ以テ果シテ財貨ヲ奪略シタルトキハ十年以上二十年以下ノ重徒刑ニ處スヘシ

第四百六十條 凡竊盜ノ第七十二條乃至第七十六條ノ規則ニ從ヒ重罪トシ刑スヘキニ至ラサル僅瑣ノモノハ之ヲ違式罪トシ一週以上六月以下ノ禁獄若クハ重禁獄ニ處ス可シ又犯罪ノ量況ニ應シ或ハ之ニ苛嚴ヲ加フルコト有ル可シ

第四百六十三條 夫婦間親子兄弟同居共通ノ活計ヲ營ムトキハ互ニ竊盜若クハ監守盜ヲ相ヒ爲ストキハ唯其家長ノ出訴ニ依テノミ第四百六十六條ノ規則ニ準據シ處刑スルコト有ル可シ

和蘭刑法

第三百十條 不法ニ自己ノ有ト爲サントノ目的ヲ以テ他人ニ屬スル一部又ハ全部ノ物件ヲ竊取スル者ハ盜罪ヲ以テ論シ四年以下ノ禁錮又ハ六

十、フロラン以下ノ罰金ニ處ス

第三百十一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ六年以下ノ禁錮ニ處ス

一 田野ニ於ケル家畜獸ノ盜罪

二 火災爆發、洪水、破船、船舶ノ乗上ケ、鐵道ノ災害、謀反、擾亂、軍亂ニ乘シテ犯シタル盜罪

二 夜間安眠ノ時間ニ人ノ住所又ハ住所ノ存スル圍地ニ於テ該地ニ不意ニ存在シ又ハ有權人ノ意思ニ反シテ存在スル者ノ犯シタル盜罪

四 二人以上集合シテ犯シタル盜罪

五 門戶、牆壁ヲ損壞、毀却シ又ハ踰越シ若クハ僞鑰、僞命ヲ用キ又ハ僞裝シテ犯地ニ通行シテ犯シタル盜罪

第三項ニ揭ケタル盜罪ニ第四項及ヒ第五項ノ條件ノ隨伴スルトキハ九年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百十二條 盜罪ノ豫備ヲ爲シ又ハ之ヲ容易ナラシメンカ爲メ或ハ現行犯ニテ急襲セラレタル場合ニ於テ自己又ハ從犯ノ爲メニ逃走ヲ容易

ナラシメ又ハ賊品ノ所持ヲ保確セシコトヲ目的トシテ他人ニ對シ暴行又ハ暴行ヲ加ヘント脅迫シタル所爲其ノ盜罪ニ隨件又ハ前後シタルトキハ九年以下ノ禁錮ニ處ス

左ノ諸件ニ於テハ十二年以下ノ禁錮ニ處ス

一 夜間安眠ノ時間ニ人ノ住所又ハ住所ノ存スル圍地ニ於テ又ハ公ケノ道路若クハ運轉中ノ汽車内ニ於テ暴行又ハ暴行ヲ加ヘント脅迫シテ盜罪ヲ犯シタルトキ

二 二人以上集合シテ本條ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 門戶牆壁ヲ損壞踰越シ又ハ偽鑰、偽命ヲ用キ又ハ偽裝シテ犯地ニ通行シ以テ本條ノ罪ヲ犯シタルトキ

四 本條ノ罪ヲ犯シタルニ因テ人ニ重傷ヲ致シタルトキ

本條ノ罪ヲ犯シタルニ因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ十五年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百十三條 盜罪ニ付キ裁判言渡アリタルトキハ第二十八條第一項乃

至第四項ニ列記シタル權利ノ剝奪ヲ命スルコトヲ得

第三百十四條 暴行、脅迫ヲ用ヒシテ不法ニ自己ノ所有トセントノ目的ヲ以テ他人ニ屬スル(一部又ハ全部)陶土、泥池ニ附着シタル儘ノ泥炭、砂土、石磨石、石炭ノ粗粉、肥料、芝草、土塊、石南科ノ植物、蛾形科ノ植物、海濱ニ打揚ケタル破壊物、蘆草、藤、苔、採伐シタル樹木、工事及ヒ運搬ヲ爲ササル木材、未タ採取セシテ樹上ニ存スル菓實又ハ木葉、地ニ生育シ又ハ採取後地上ニ存スル草又ハ地ノ果實(馬鈴薯ノ如ク)ヲ竊取シタル者ハ田野盜ノ罪ヲ以テ論シ一月以下ノ禁錮又ハ六十「フ」ロラン以下ノ罰金ニ處ス

本犯ノ時ニ於テ犯者同一ノ罪ニ付キ終審裁判ヲ受ケタルヨリ二年ヲ經過セサリシトキハ二月以下ノ禁錮ニ處ス

第三百十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

一 船舶、運搬車、駄獸又ハ索引ノ獸ヲ用キテ犯シタル田野盜

二 第二百十一條第二項乃至第五項ニ掲ケタル情狀ヲ以テ犯シタル田野盜

野盜

第二十五條第一項乃至第四項ニ列記シタル權利ノ剝奪ヲ命スルコトヲ得

第三百十六條 本章ニ特示シタル犯罪ノ本犯又ハ從犯ヲ別居セサル配偶者又ハ其犯罪ニ罹リタル財産ヲ分離セサル配偶者ナルトキハ其本犯又ハ從犯ニ對スル起訴アルコトナシ
本條ノ犯者別居又ハ財産分離ヲ爲シタル配偶者ナルカ又ハ直系若クハ傍系ノ二級ニ於ケル親屬姻族ナルトキハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

那威刑法

第二百五十八條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ之ヲ重大竊盜トス

一 行爲者竊取ノ意向ヲ以テ侵入第四百四十七條第一項ニ依リ又ハ案内者紐又ハ其他特別ノ器具ヲ使用シテ自身立入り又ハ他人ヲシテ立入りシメタル家宅船舶又ハ列車又ハ其一室閉鎖シタル中庭又ハ類似ノ被保管所又ハ居住所ヨリ其内部ニ於テ竊取シタルトキ

二 竊取ノ意向ヲ以テ立入りタル者夜間通常閉鎖スル場所ニ於テ竊取シタルトキ又ハ

三 家宅船舶列車閉鎖シタル中庭又ハ類似ノ被保管所又ハ居住所ヨリ又ハ其内部ニ於テ圍障物大匣箆筒又ハ類似ノ藏置物ヲ即座ニ又ハ他所ニ移シタル後暴力ヲ以テ破毀シ又ハ合鍵又ハ偽造鍵ニ依リ開披シテ竊取シタルトキ

第二百五十九條 左ニ記載シタル者竊盜ヲ爲シタルトキモ亦之ヲ重大竊盜トス

一 竊盜賊物隱秘制壓強盜又ハ類似ノ罪ノ犯行ノ爲メ集團セル數人
二 必要ナル場合ニ於テハ攻撃防禦又ハ強迫ノ爲メ使用スル目的ヲ以テ武器ヲ携帯シタル者
三 竊盜ノ目的ノ爲メ假裝シ又ハ公ケノ資格又ハ記號ヲ潛稱又ハ妄用シ又ハ虛偽ノ文書又ハ他人ニ宛テタル文書ヲ使用シタル者

第二百六十條 竊盜ハ左ノ場合ニ於テモ亦重大竊盜トス

一 罪責者情ヲ知リテ人ノ生命又ハ健康ニ對スル危險又ハ他人ノ所有權ヲ重大ニ妨碍スル危險ヲ惹起シ又ハ人ノ地位ヲ動搖セシメタル場合又ハ

二 信託關係ノ妄用ニ依リ價格一千クローン以上ノ物件ヲ竊取シタル場合

第二百六十一條 重大竊盜又ハ其協力者ニハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス同時ニ第二百五十八條乃至第二百六十條ニ記載シタル事由ノ數個アルトキハ八年以下ノ禁錮ヲ適用スルコトヲ得

罪ノ結果人ヲ死去又ハ重大ノ身體傷害又ハ健康損害ニ致シタルトキハ一年以上ノ禁錮ヲ科ス

第二百六十二條 第二百五十一條第二項、第二百五十八條乃至第二百六十條ノ事由ヲ有セスシテ第二百五十五條又ハ第二百五十七條ノ罪ヲ犯シ又ハ之ニ協力シタル者ニハ小盜ノ爲メ金刑又ハ六月以下ノ禁錮ヲ科刑ス但シ自身貯藏又ハ消費スル意向又ハ無償ヲ以テ他人ヲシテ此種ノ目

的ニ供セシムル意向ヲ以テ即座ニ消費スヘキ營養物又ハ飲食物又ハ價格五クローン以下ノ物件ヲ竊取シタル場合ニ限ル

第二百六十三條 横領盜竊盜又ハ小盜ノ爲メ宣告ヲ受ク可キ者其前本章又ハ第十七章第十八章第二十五章、第二十六章又ハ第二十七章又ハ第十八條、第四百四十七條、第二百四十四條、第二百六十六條又ハ第三百十八條ニ依リ禁錮ヲ科刑セラレタルトキハ其半ハ以下ヲ加重シ若シ前數回此方法ニ依リ科刑セラレタルトキハ其二倍以下ニ加重スルコトヲ得

第二百六十四條 小盜ノ爲メニ被害者ノ申請ナキトキハ公ノ起訴ヲ提起セス

一般ノ福利上訴追ヲ必要トセサル限リハ發見物以外ノ物件ノ横領盜ニ付テモ亦同シ

第二百六十五條 行爲者ノ親族ニ對スル横領盜及ヒ竊盜ハ被害者ノ申請ナキトキハ公ノ起訴ヲ提起セス

同一ノ家族タル者又ハ行爲者ヲ使役スル者ニ對スル横領盜又ハ單純竊

盗ト雖モ一個又ハ數個ノ罪ニ依リ領得シタル物件ノ價格二十クローンヲ超エサルトキ亦同シ
數人共同シテ犯行ヲ爲シタル場合ニ於テ前顯ノ規定ニ遵由シ行爲者中ノ一人ニ對シテノミ公ノ訴ヲ爲シ得ヘキトキハ起訴應ハ訴追ハ之ヲ一部ノミニ對シテ爲ス可キヤ、全部ニ對シテ爲ス可キヤ又ハ全部ニ對シテ爲ササル可キヤヲ裁判ス此罪ニ關スル贓物隱祕ハ此點ニ付キテハ之ヲ協力ト同視ス

第二百六十七條 權限ナキ利得ヲ爲シ又ハ爲サシムル意向ヲ以テ人ノ身體ニ對シ暴力ヲ行使シ又ハ人ヲ防禦不能ノ狀況ニ陥ラシメ又ハ此種ノ強迫ニ依リ人ノ生命又ハ健康ニ對スル畏怖ヲ喚起シテ以テ全部又ハ一部他人ニ屬スル物件ヲ占領シ又ハ行爲者又ハ其代理スル本人ニ財產上ノ損失ヲ加フヘキ行爲ノ實行ヲ強制シタル者又ハ其協力者ニハ強盜ノ爲メ十年以下ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ罪ノ結果人ノ死去又ハ重大ノ身體傷害又ハ健康損害ニ致シタルトキハ三年以上ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百六十八條 左ノ場合ニ於テハ強盜ニハ三年以上ノ禁錮ヲ科刑ス

- 一 罪責者數回強盜又ハ重大竊盜ノ爲メ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 二 罪ニ依リ犯意ヲ以テ身體又ハ健康ニ對スル損害又ハ顯著ナル痛苦ヲ加ヘタルトキ
 - 三 數人罪ヲ犯シタル場合ニ於テ其數人竊盜、贓物隱祕、制壓強盜又ハ類似ノ罪ノ犯行ノ爲メ集團シタルモノナルトキ又ハ其數人中ノ一人武装シタルトキ
 - 四 夜間人ノ住居スル室内ニ於テ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ行爲者第二百五十八條第一號及ヒ第二號又ハ第二百五十九條第三號ニ記載シタル方法ニ依リ立入りタルトキ
- 本條ニ掲出スル強盜ノ結果人ヲ死去ニ致シタルトキ又ハ行爲者已ニ本條ニ依リ科刑セラレタル者アルトキハ終身禁錮ヲ科スルコトヲ得
- 第二百六十九條 左ニ掲クル者ニハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
- 一 強盜ヲ犯ス爲メ集團シタル者

二 強盜ヲ犯ス爲メ船舶ニ武装シ又ハ其武装ヲ開始シタル者
又ハ其協力者

奥太利刑法草案

第二百四十九條 何人タリトモ人ニ對シテ暴力ヲ使用シ又ハ既ニ身體又ハ生命ニ危難ヲ加ヘントスルノ脅嚇ヲ用ヒ不法ニ領得スルノ目的ヲ以テ他人ノ動産ヲ奪掠スル者ハ強盜ノ罪アルモノトシテ十年以下ノ懲役又ハ六月ヨリ少カラサル禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第二百五十條 左ノ場合ニハ二年以上十五年以下ノ懲役ヲ以テ處刑セラルルモノトス
第一 強盜又ハ竊盜ヲ繼續シテ犯サンカ爲メ共同シタル多數共ニ強盜ヲ爲シタルトキ

第二 犯人強盜又ハ竊盜ヲ爲サンカ爲メ住家又ハ之ニ屬スル圍繞ノ場所又ハ人ノ住フ船舶中ニ侵入シ又ハ登入シ又ハ此ノ目的ヲ以テ潜伏シ夜間其ノ内ニ於テ強盜ヲ爲シタルトキ

第三 犯人既ニ強盜強盜ニ均シキ脅嚇圖利暴力ヲ使用スル竊盜又ハ其他數回竊盜ヲ以テ處刑セラレタル者ナルトキ

第四 強盜ヲ爲スニ當リ人ノ身體ヲ拷虐シタルトキ
第二百五十一條 若シ所爲カ重大ナル身體傷害ヲ生セシメ又ハ被害者ヲ死ニ致シタルトキハ五年ヨリ少カラサル懲役ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第二百五十六條 何人タリトモ他人ノ動産ヲ不法ニ領得スルノ目的ヲ以テ奪フ者ハ竊盜ヲ行フタル者トス

第二百五十七條 竊盜ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ五年以下ノ禁錮又ハ懲役ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第一 神ノ禮拜ニ供シタル建物ヨリ神ノ拜禮ニ捧ゲタル又ハ慈惠ノ目的ヲ以テ收集シタル物件ヲ盜ミタルトキ

第二 排壞シ登入シ又ハ其内ノ容闖ヲ破毀シ又ハ模造若クハ廢棄セル鑰又ハ其他所有者カ開鑰ニ用ヒサル器械ヲ使用シテ建物又ハ圍繞ノ

場所ヨリ盗ミタルトキ

- 第三 公ケノ道路、街道、公ケノ場所、水路又ハ鐵道又ハ郵便用ノ建物又ハ其ノ附屬地又ハ鐵道停車場ニ於テ結締又ハ外包ヲ切斷又ハ解放シ又ハ模造若クハ廢棄セル鑰又ハ其他所持主カ開鑰ニ用ヒサル器械ヲ使用シテ旅人ノ荷物又ハ其他遞送ノ物件ヲ盗ミタルトキ
- 第四 正犯又ハ幫助者ノ一人兇器ヲ携帯シタルトキ
- 第五 繼續シテ強盜又ハ竊盜ヲ犯サンカ爲メ共同シタル多數共ニ竊盜ヲ爲シタルトキ
- 第六 犯人竊盜ヲ爲サンカ爲メ住家又ハ之ニ屬スル圍繞ノ場所又ハ人ノ住フ船舶中ニ忍ヒ入り又ハ同一ノ目的ヲ以テ潜伏シ夜間ニ至リ其内ニ於テ竊盜ヲナシタルトキ
- 第七 火災水災若クハ這般ノ公ケノ苦惱ニ際シ竊盜ヲ爲シタルトキ
- 第八 其行爲ニ依テ人ノ身體又ハ生命ニ危險ヲ來シ他人ノ財産ヲ甚シク毀損シ又ハ公ノ目的ニ供スル蒸氣又ハ其他ノ器械的動力ヲ以テ

營ム鐵道、蒸氣船ノ業ヲ障ケ電信、電話、瓦斯、水越歷ノ經過又ハ鑛山業ヲ障ク可キコトヲ犯罪者カ知リタルトキ

第九 物件ノ價額カ五十「フロリン」ヲ超ヘタルトキ

第十 軍人(後備兵)其現役中又ハ後備軍ニ屬スル者教練、定期演習又ハ點呼ノ爲メ召集中其ノ同僚又ハ長官ヨリ又ハ長官カ其配下ヨリ己レカ番兵又ハ護衛兵トシテ守又ハ護衛ヲ命セラレタル物件ヲ竊取シ又ハ他人ヲシテ之ヲ竊取セシメタルトキ

第二百五十八條 第二百五十七條第二號、第四號、第五號、第六號ニ記載シタル加重ノ情狀ノ二個カ俱發シ又ハ物件ノ價格カ千「フロリン」ヲ超ヘタルトキハ十年以下ノ懲役又ハ三月ヨリ少カラサル禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス

第二百五十九條 第二百五十七條ニ依リ加重セラル可キ情狀ニ該當セサル竊盜ハ六月以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス

第二百六十條 竊盜、強盜、強盜ニ等シキ脅嚇、圖利又ハ犯罪庇護ノタメ内國

ニ於テ數回處刑セラレタル者最後ノ刑ヲ終リ又ハ免セラレタル以來尙
ホ五年ヲ經過セサルニ再ヒ竊盜ノ罪ヲ犯シタルトキハ前ニ此等罰ス可
キ所爲ノ一ニ就テ科シタル刑ノ中最モ重キ刑ノ二倍ヲ言渡スコトヲ得
ルモノトス但之ニ依テ十年ヲ超ユル懲役ヲ科スルヲ許ササルモノトス

第二百六十一條 何人タリトモ竊盜ヲ爲スノ目的ヲ以テ防禦シ能ハサル
又ハ思辨ヲ失フタル狀況ニ人ヲ陥ラシメ又ハ竊盜ノ現行犯ヲ發覺セラ
ルルニ當リ其ノ竊取セル物件ヲ失ハサランカタメ人ニ對シテ暴行ヲ加
ヘ又ハ現ニ身體又ハ生命ニ危難ヲ加フルノ脅嚇ヲナシタル者ハ暴行竊
盜ノ罪アル者トシテ強盜ト同シク處刑セラレヘキモノトス

第二百六十四條 凡ソ既遂ノ竊盜又ハ既遂ノ受寄盜ノタメニ科スル自由
刑ト共ニ竊盜シ又ハ受寄盜シタル物件ノ二倍以下ノ罰金ヲ科スルヲ得
ルモノトス

犯罪者カ既ニ一度竊盜強盜又ハ強盜ニ均シキ脅嚇圖利ノタメニ有罪判決
ヲ受ケタル者ナルカ又ハ六月以上ノ禁錮又ハ懲役ヲ言渡サル可キ場合ニ

ハ竊盜ノタメニ科スル刑ト共ニ監視ニ付スルノ言渡ヲナスヲ得ルモノトス

第二百六十五條 竊盜又ハ受寄盜シタル又ハ此等ノ所爲ノ未遂ニ依テ侵
害シタル物件ノ價額ハ其物件カ所爲ノアリタル當時保チタル普通價額
(法律第三百五條甲乙)ニ依テ算定スヘキモノトス

第二百六十六條 夫婦トシテ共同生活スル間ニ配偶者相互間ニ於テ爲シ
タル又ハ上系及ヒ下系ノ親屬又ハ姻族間選擇父母若クハ養父母ト其兒
子間又ハ其他ノ一家内ニ生活スル親族又ハ受寄盜ハ止タ告訴アリタル
場合ニ於テノミ糺罪スヘキモノトス
這般ノ場合ニ於テハ懲役ヲ科スルヲ得サルモノトス

瑞西刑法典案

第七十條 不法ニ自己又ハ第三者ヲ利益スル爲メ他人ニ屬スル物件ヲ取
去リタル者ニハ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス
竊盜ニハ左ノ場合ニ於テ十年以下ノ懲役ヲ科刑ス

業務的又ハ團體的ニ竊盜ヲ爲シ又ハ危險又ハ無耻ノ方法ニ依リ竊盜

ヲ爲シタルトキ

竊盜ヲ爲シタル日時竊盜ノ爲メ禁錮刑ヲ執行シタル日時ヨリ尙ホ一年ヲ經過セサルトキ又ハ竊盜又ハ強盜ノ爲メ懲役刑ヲ執行シタル日時ヨリ尙ホ五年ヲ經過セサルトキ

竊盜ニハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役ヲ科ス

竊盜ヲ爲シタル目的ニ於テ既ニ竊盜又ハ強盜ノ爲メ五個ノ自由刑ヲ執行シ其最後ノ懲役刑ノ執行以來尙ホ五年ヲ經過セサリシトキ

第七十一條 子又ハ孫及ヒ行爲者ト同居セサル配偶者ニ對スル竊盜ニハ科刑セス父母及ヒ祖父母及ヒ行爲者ト同居スル者ニ對スル竊盜及ヒ行爲者ト同居セサル配偶者ニ對スル竊盜ニハ申請ニ依リテノミ科刑ス

第七十二條 竊取スル爲メ又ハ竊盜ヲ爲シ逮捕セラレタル各人ニ對シ眞誠ノ暴力ヲ加ヘ又ハ危険ヲ以テ之ヲ脅迫シ又ハ之ヲ昏迷セシメタル者ニハ懲役ヲ科刑ス
右ノ場合ニ於テハ其刑ハ五年以上ノ懲役トス

強盜殺害ヲ以テ人ヲ脅迫シ又ハ甚大ニ人ヲ傷害シタルトキ(第六十三條及ヒ第六十四條)

團體的ニ強盜ヲ實行シタルトキ

公ノ交通機關ナル道路場所又ハ船舶ニ於テ強盜ヲ爲シタルトキ

強盜ヲ爲シタル日時強盜又ハ竊盜ノ爲メ懲役期ヲ執行シタル日時ヨリ五年ヲ經過セサリシトキ

身體苛責ニヨリ強盜ヲ爲シタルトキ又ハ苛責ノ結果人ヲ死去セシメタルトキハ終身懲役ヲ宣告スルコトヲ得

羅馬法

大法官ノ時ニ至ルマテノ十二版法ニ因ル竊盜

十二版法モ漸次法律家ノ爲メニ改正ヲナセリ其要點ハ左ノ如シ

第一犯罪ノ本旨ト所業ニ係ルコト

強盜ハ尙ホ竊盜罪ト區別セスト雖モ此時代ヨリシテ此區別ヲナスヘキノ考ヲ起セリ

此時代ノ重ナル改正ハ竊盜ニ係ル民事上ノ事件タリ茲ニ先ツ此時代ニ於テ新タニ其主旨ヲ擴張セルノ點ヲ論ス可シ

(一) 不動産ニ付テモ竊盜罪アリ

獨リ貨財ヲ竊取スル者ヲ竊盜ト認ム可キニアラス又他ノ所有權アル者ノ所有權及ヒ使用權ヲ奪取スル者モ亦タ竊盜ナリ法律家ハ是ニ於テ所有權ノ詐取使用權ノ竊盜及ヒ所有權ノ竊盜ニ付キ區別ヲ爲セリ
(イ) 所有權ノ詐取ハ自己ニ附託セラレタル物件ヲ橫奪シ違法ノ使用ヲナスコトニシテ假令ハ孤兒ニ屬スル遺產ヲ後見人或ハ財産管理
人ノ盜取スルコト又ハ貸金ヲ受取リタル後チ尙ホ其典物ヲ債主ニテ盜取使用スルコト又ハ依頼者ノ名ニテ他人ニ送ル可キ金圓ヲ受取リ之ヲ己レノ名ヲ以テ送り或ハ拂フ者他人ノ貨物ヲ發見シ其他人ニ屬スルコトヲ知り掠奪スルモノ假令ハ暴風ノ爲メ船ヨリ遺棄セル物件埋藏發掘物確タル所有主ノ埋藏シタルモノニテ貯藏物トハ混スル勿レノ如ク其他債主ト偽ハリ金圓物件ヲ領取スルモノ借

主ノ借用證文債主ノ受取書ヲ竊取スル如キ皆ナ此部類ニ屬スルナ

(ロ) 使用權ノ竊盜ハ物件ノ使用權ヲ侵スモノニシテ假令ハ抵當預リ人ノ物主ノ意ニ反シテ其物件ノ使用ヲナシ或ハ使用人ノ所有主ヨリ許サレタル範圍外ノ使用ヲ爲スカ如キ類

(ハ) 所有權ノ竊盜ハ法律上ノ所有權ヲ奪取スルヲ云フ假令ハ債主ニ抵當トセル物件ヲ使用スルモノ又ハ土地所有者ノ其土地ヲ賣リタル後新所有者ヨリ奪取スルカ如キ者

(二) 竊盜ノ本旨及ヒ所業ニマテ又所業ヲ誘導スル犯行者ノ意思モ屬スルナリ此意思ニハ又領受スル所ノ物件ヲ他人ノ物件ナリトノ知覺ノ隨フアリ總別竊盜ノ惡意ハ自己ノ貨財ヲ増殖シ其利益ヲ得ントスルニアルナリ故ニ何人ニテモ物件ヲ破碎センカ爲メニ他人ノ物件ヲ取ルハ竊盜ト云フヘキニ非ス

(三) 盜取セントスル内心ニ相應スル形體ノ行爲ヲ羅馬人ハ竊取ト云フ

羅馬人ハ何レノ處ニテモ竊盜ノ或ル事ヲ行ヒ其事ノ目的タル物件ヲ竊取シ之レヲ己レニ屬セントスルノコト明瞭ナルトキハ己遂ノ竊盜トシテ裁判ス然レトモ止夕室内ニ進入スルノミニテハ尙ホ竊盜ヲ表スルニ足ラス是レハ侮辱罪ニ當ルナリ

竊盜ト均シク罰スヘキ者ハ己レノ奴隸ニ命令シテ竊盜ヲ爲サシメタル者則チ首謀及ヒ指示誘導スル者幫助及ヒ贓物寄藏人はナリ然レトモ教唆者ノ實際ノ行爲アラヌ扶助ヲナス幫助人ノ意思アラサルハ罰ス可カラス幫助人ノ竊盜ト均シク罰ス可キコトニ付テハ末條ヲ見ルヘシ

總別竊盜未遂犯ニ法律上ヲ科スルコトハ其所犯概ネ竊盜ノ罰ニ當ラスシテ侮辱罪ト爲リ暴行スル者ハ暴行條ニ據テ罰セリ是等モ末條ニ詳カナリ

第二 刑罰及ヒ訴訟ニ係ルコト

往古蒙昧ノ時ノ罰ハ當時ニ適セス奴隸ヲ處スルモ仍ホ重キヲ覺ユルニ至

リ遂ニハ罰金ニ變シ追捕サル竊盜ト追捕サレサル竊盜トヲ區別シ盜品價值ノ四倍或ハ三倍又ハ二倍ノ類ヲ科セリ又此時其罰金ヲモ科セス單ニ盜品ヲ返還スルニ止メ或ハ止タ其價值ヲ償フヲ以テ十分ナリトセリ親族間ノ竊盜ニ付テハ特別ノ定メアリ即チ

(イ) 夫婦間ノ盜取ハ竊盜ト認ムヘキニ非ス單ニ其所罰ヲ爲スヘキノミ然レトモ若シ一方ノ者離縁ヲ期シテ竊取スルトキハ離縁ノ後盜品償還ノ訴ヲ爲スヲ得

(ロ) 息子奴隸及ヒ附籍者等ノ盜取ハ又罰金ヲ科スヘキニ非ス家長タル者其所業ノ如何ニヨリ罰スルノ權アリ

帝國時代ニ於テノ改正
此時代ニ於テ強盜ト竊盜トヲ區別シ且ツ大法官ハ竊盜ハ動産上ニ限レリトス

此時代ノ罰ハ左ノ如シ

(一) 遺産横奪ノ犯罪

舊時期滿免除ノ譯ヨリシテ尙ホ遺子ノ所有權ヲ得サル間ニ遺產ヲ奪取シ
期滿免除ヲ得シコトアリ依テ遺子ノ財產ヲ早ク得ントスル爲メ其價值ヲ
拂ヒシコトアリ亦此ノ如キ無主ノ遺產ヲ使用スルコトハ竊盜トナサヌ又
之レカ罰ナカリシナリ「ハドリアン」帝ノトキニ於テ始メテ遺子タル者他人
ヨリ其遺產ヲ奪取セラレタル時ハ何時ニテモ之ヲ取戻スコトヲ得セシメ
又遺產ノ使用及ヒ横奪ヲ犯法トシ之ヲ罰セリ但シ罰金ハ適用セス

(二) 竊盜

竊盜ハ盜ム爲メニ竊カニ家内ニ忍ヒ込ミ或ハ階段ヲ上下シ又ハ好機ニ乘
シ盜ム爲メニ忍ヒ或ハ直チニ竊取スルヲ云ヒ其所業ノ狡猾ナルカ爲メ重
罰ヲ科ス未遂罪ハ侮辱罪ヲ科セリ其罰タル一時ノ公役身體ノ懲役或ハ一
時ノ追放(民權及ハス)一般ニ犯人ノ如何ト所業ノ如何ニ因テ法官酌量ヲ爲
スナリ尤モ貴族ニ於テハ追放平民ニ於テハ公役ヨリ重カル可カラヌ

(三) 家内ニ破入スル盜

「エフラクトレス」トハ貨財ヲ盜ム爲メニ家内ニ破入(門月ヲ破壞)スル盜ニシ

テ其目的ヲ有スルト否トヲ問ハス其所業ノ大膽ナルカ爲メ普通ノ竊盜ヨ
リ重ク罰シ又或ハ竊盜(見一)ト均シク罰スルト雖モ其破入ノ狀況ト時間
ニ隨ヒ夜間破入スルトキハ平民ハ身體ノ懲戒及ヒ鑛業使役貴族ハ終身追
放晝間破入スルトキハ平民ハ身體懲戒ノ外尙ホ終身或ハ一時ノ公役貴族
ハ只一時ノ追放ニ處セラルヘシ幫助人ハ貨財ヲ盜ムノ目的ナラサルモ竊
盜トシテ罰セラル可シ

(四) 追劔

追劔トハ人ヲ強壓シテ其衣類ヲ奪フ強盜ナリ其罰ハ平民ハ永年或ハ一時
ノ公役貴族ハ其官職ヲ褫奪シ或ハ追放ニ處セリ

(五) 拘模

此中ニハ巾着切リノ狡猾ナル所業ト嚴禁ノ魔術ニ依テ金錢ヲ奪取スルト
ノ所犯アリ其罰ハ竊盜ノ如ク公役一時身體ノ懲戒或ハ一時ノ追放トス

(六) 湯屋盜

此盜ハ重ク罰セリ是レ公ケナル湯浴場ノ看守ト浴者ノ自ラ防護シ得サル

トニ因ル此罰ハ一時ノ公役又ハ輕キ鑛業場使役ニ處セリ

(七) 夜盜及ヒ持兇器盜

夜間盜ハ一時ノ公役ニ至ルマテノ重キ罰ヲ科シ盜間盜ハ特別ナル罰ヲ科セス十二版法ニ於テ此ノ如キ夜間盜ヲ殺スコトハ正當ナル防禦ノ外禁セラレタルニ因リ益々夜間盜ニ對スルノ特別ナル刑罰ヲ要用トスルニ至レリ又兇器ヲ持スルノ竊盜ハ特別ニ罰スヘキモノトシ是ヲ殺シ得ルノ舊法繼續セリ(防衛トシテ殺ス)其罰ハ鑛業使役或ハ追放ニシテ又「コルネリア刺殺法ニ隨ヒ罰スルコトアリ

(八) 家畜盜賊

定所ニ駐マルノ家畜ヲ盜ムハ通常ノ竊盜ニシテ家畜竊盜ニ非ス十疋以上ノ羊ヲ盜ム者ハ家畜盜トナシ其以下ハ竊盜トシ家猪ハ四疋ト五疋ノ間ニテ區別シ牛並ニ馬ハ一疋ヲ以テ家畜盜トナシ身體ノ懲戒及ヒ一年ノ公役トス尤モ家猪及ヒ羊ヲ盜ム者ハ刑ヲ輕減シ又一疋ヲ盜ムト雖モ再犯ノ者ハ別段ナリ又伊太利西班牙ニ於テハ重キ罰ヲ科シ追放公役或ハ死刑ノコ

トモアリタリ

(九) 死屍及ヒ墳墓ニ屬スル物品ノ奪取

此刑モ亦重ク罰セリ末款宗教ニ對スル犯罪ノ部ヲ見ヨ此種類ノ外ナル竊盜ハ刑事告訴或ハ民事要償ノ訴ヘテ爲スハ被害者ノ隨意タルナリ(此九種ハ刑罰ニ屬スナリ)

強盜トハ舊時威力ヲ用ユル盜賊ト他人ノ物件ヲ毀損スルヲ云ヒ純粹ナル強盜ハ竊盜發見ノトキニ隨ヒ追捕サルル竊盜追捕サレサル竊盜トナスニ屬シ毀損トハ侮辱罪ト定メテ後チ其罰ヲ盜品並ニ毀損品ノ四倍ノ償金トナシ一ケ年内ニ訴ヘアルトキハ只一倍ノ償金且侮辱罪ニ當ルコトヲ廢セ

帝國時代ニ於テハ大ニ改正シ強盜トハ法ニ違ヒ他人ノ物件ヲ暴力ヲ以テ奪略シ自己ノ所有トスルモノトシ物品毀損ノ事ハ漸次此中ニ含まサルコトトナレリ尤モ羅馬法ニ於テ貨財所有人ノ身體ニ對シ暴力ヲ以テ侵襲スルコトハ強盜ノ所爲トナスニ要用ナラサルナリ

帝國時代前ニ於テ水火震災等人ノ不幸ニ乘シテ強奪スルモノハ暴力ヲ用
ユル強盜ノ如ク四倍ノ罰金タリ強盜ト竊盜ノ區別セララルル時ヨリ償金或
ハ物品ノ償却或ハ刑事ノ訴ヲ爲スハ願人ノ隨意タル固ヨリナリ
然レトモ強盜ノ重キ情狀アル者ハ公ケナル暴行私ニ對スルノ暴行トシテ
公ケニ罰ス尤モ其他ハ民事ノ訴ヘヲ爲シ得ルコトハ前ニ詳説セリ(訴訟部
ニテ)

帝國時代ニ於テ火災ニ因テ強奪スルモノニシテ其物最巨多ナルトキハ貴
族ハ身體ノ懲戒及ヒ三年ノ追放常人ハ三年ノ公役奴隸ハ身體ノ懲戒及ヒ
鑛業使役其物最寡少ナルトキハ一般ニ只身體ノ懲戒トナセリ

「コルネリア刺殺法ニ因ル人ヲ殺ス強盜及ヒ街上ノ強盜ハ殺害ノ部ヲ見ヨ
唐律

諸竊盜不得財笞五十一尺杖六十、一匹加一等、五匹徒一年、五匹加一等、五十四
加役流

諸山野之者已加功力刈伐積聚而輒取者各以盜論

諸盜總麻小功親財物者減凡人一等大功減二等期親減三等殺傷者各依本殺

傷(此謂固盜而俱殺者若有所現取而
故殺期親以下卑幼者按盜條準此)

諸同居卑幼將人盜已家財物者以私輒用財物論加二等他人減常盜罪一等若

有殺傷者各依本條(他人殺傷縱卑幼不知
情仍從本殺傷法坐之)

諸因盜而過失殺傷人者以鬪殺傷論至死者加役流(得財不得財準財主
等逐遇他死者非)

其共盜臨時有殺傷者強盜論同行人不知殺傷情者止依竊盜法

諸共謀強盜臨時不行而行者竊盜共謀者受更造意者爲竊盜首餘爲竊盜從若

不受分造意者爲竊盜從餘並笞五十

若共謀竊盜臨時不行而行者強盜其不行者造意受分知情不知情並爲竊盜

首造意者不受分及從者受分但爲竊盜從

諸盜公所竊取皆爲盜(器物之屬須移涉開鑿別之屬須離處放逐飛走之
屬須專制乃爲盜若畜產伴類隨之併計即得入已及盜其
母而子隨者
皆併計之)

諸盜官私馬牛而殺者徒二年半

諸同居卑幼私輒用財者十四笞十四加一等罪止杖一百而同居應分不均平

者計所侵坐贓論減三等

諸強盜不得財徒二年一尺徒三年二匹加一等十四及傷人者絞殺人者斬其持杖者雖不得財流三千里五匹絞傷人者斬

明律

凡竊盜已行而不得財笞五十免刺但得財者以一主為重併贓論罪為從者各減

一等（以一主為重謂如盜得二家財物從一家贓多者科罪）初犯並於右小臂膊上刺竊盜二字再犯刺左

小臂膊三犯者絞以曾經刺字為坐拘模者罪同若軍人為盜雖免刺字三犯一

體處絞

一貫以下杖六十一貫以上至一十貫杖七十二十貫杖八十三十貫杖九十四十貫杖一百五十貫杖六十徒一年六十貫杖七十徒一年半七十貫杖八十徒二年八十貫杖九十徒二年半九十貫杖一百徒三年一百貫杖一百流二千里一百一十貫杖一百流二千五百里一百二十貫罪止杖一百流三千里

凡盜田野穀麥菜果及無人看守器物者並計贓竊盜論免刺

若山野柴草木石之類他人已用工力斫伐積聚而擅取者罪亦如之

凡各居親屬相盜財物者期親減凡人五等大功減四等小功減三等總麻減二等

無服之親減一等並免刺若行強盜者尊長犯卑幼亦各依上減罪卑幼犯尊長

以凡人論若有殺傷者各依殺傷尊長卑幼本律從重論

若同居卑幼將引他人盜已家財物者卑幼依私擅用財物論加二等罪止杖一

百他人減凡盜罪一等免刺若有殺傷者自依殺傷尊長卑幼本律私罪他人縱

不知情亦依強盜論若他人殺傷人者卑幼縱不知情亦依殺傷尊長卑幼本律

從重論

其同居奴婢雇工人盜家長財物及自相盜者減凡盜罪一等免刺竊盜窩主造

意身雖不行但分贓者為首論若不行又不分贓者為從論以臨時主意上盜者

為首其為從者行而不分贓及分贓而不行仍為從論若不行又不分贓笞四十

若本不同謀相遇共盜以臨時主意上盜者為首餘為從論

凡共謀為強盜臨時不行而行者却為竊盜共謀者分贓造意者為竊盜首餘人並

為竊盜從若不分贓造意者為竊盜從餘人並笞五十以臨時主意上盜者為竊

盜首

其共謀為竊盜臨時不行而行者為強盜其不行之人造意者分贓知情不知情並為竊盜首造意者不分贓及余人分贓俱為竊盜從以臨時主意及共為強盜者不分首從論

凡盜公取竊取皆為盜器物錢帛之類須移涉已離盜所珠玉寶貨之類據入手隱藏縱未將行亦是其木石重器非人力所勝雖移本處未脫裁間猶未成盜馬牛駝贏之類須出關園應犬之類須專制在已乃成爲盜(併計馬一匹別有馬強不併計爲罪)

凡盜馬牛驢贏猪羊雞犬鵝鴨者竝計贓以竊盜論若盜官畜產者以常人盜官物論

若盜馬牛而殺者杖一百徒三年驢贏杖七十徒一年半若計贓重於本罪者各加盜罪一等

凡強盜已行而不得財者皆杖一百流三千里但得財者不分首從皆斬若以藥迷人圖財者罪同若竊盜臨時有拒捕及殺傷人者皆斬因盜而姦者罪亦如之共盜之人不會助

力不知拒捕殺傷人及姦情者止依竊盜論

其竊盜事主知覺棄財逃走事主追逐因而拒捕者自依罪人拒捕律科罪

凡白晝搶奪人財物者杖一百徒三年計贓重者加竊盜二等傷人者斬者為從各減一等竝於各小臂膊上刺搶奪二字若因失火及行船遭險着淺而乘時搶奪人財物折毀船隻者罪亦如之

凡強盜窩主造意身雖不行但分贓者斬若不行又不分贓者杖一百流三千里共謀者行而不分贓及分贓而行不行皆斬若不行又不分贓者杖一百

清律

凡竊盜已行而不得財笞五十免刺但得財以一主為重併贓論罪為從者各減一等(以一主為贓此盜得二家財物從一家贓多者科罪)初犯亦於右小臂膊上刺竊盜二字再犯刺左小臂

膊三犯者絞以曾經刺字為坐
拘模者罪同
餘與明律同

第三

釋義 舊刑法ハ本章ノ罪ヲ區別シ竊盜及ヒ強盜ト爲シ各之ニ關スル別

異ノ節目ヲ設クト雖モ此二種ノ罪ハ方法手段ヲ異ニスル外元來其性質ヲ同
フスルヲ以テ之ヲ一章ニ集ムルコト立法上便宜ナルヲ以テ本法ハ此區別ヲ
廢止シ舊刑法第三編第二章中其第一節及ヒ第二節ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタ
リ今其修正ノ主要ナル點ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 舊刑法第三百六十七條乃至第三百七十條及ヒ第三百七十二條乃至

第三百七十四條ハ共ニ皆竊盜ノ情狀ニ因リ設ケタル區別ニシテ少シモ

實益ナキノミナラス爲ニ却テ刑ノ範圍ヲ狹メ且區別細密ニ過クル爲メ

種々ノ議論ヲ生シ適用上不便少ナカラサルヲ以テ本法ハ此ノ如キ煩鎖

ナル規定ハ凡テ之ヲ廢棄シ汎ク竊盜ニ關スル規定ヲ設ケ其情狀ハ一ニ

、裁判所ノ認定ニ一任シタリ

第二 舊刑法第三百七十九條モ亦前項ト同一ノ理由ニ依リ之ヲ削除セリ

以下各本條ニ就キ説明スヘシ

第二百三十五條ハ舊刑法第三百六十六條乃至第三百七十條及ヒ第三百七十

二條乃至第三百七十四條ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノニシテ其要旨ハ

第三百六十七條以下ノ規定ハ前ニ擧ケタル如ク竊盜ノ情狀ニ因リ爲シタル
區別ニシテ適用上徒ラニ混雜ヲ來タスノミナラス細密ナル區分ノ爲メ刑ノ
範圍ヲ狹メ罪刑宜キニ適セサル結果ヲ生スルヲ以テ本法ハ總テ此等ノ情狀
ノ認定ヲ裁判所ニ一任シ刑期ヲ廣クスルト同時ニ汎博ナル法文ノ規定ヲ置
キ尙明治二十三年法律第九十九號屋外竊盜ニ關スル件モ是亦竊盜罪ニ外ナ
ラサレハ凡テ之ヲ本法ノ中ニ包含セシメタリ

舊刑法ニハ人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ云々トアリテ所有物ノ意義ニ付テ
ハ種々ノ議論アリト雖モ目下學者ノ唱道スル所ハ率ネ左ノ二說ニ歸著スル
モノノ如シ其第一說ハ所有物トハ民法ニ所謂有體物ニシテ他人カ其上ニ所
有權ヲ有スル物タラサルヘカラス而シテ法律ハ單ニ他人ノ所有物タルコト
ヲ要シ被害者若クハ被奪取者ノ所有物タルコトヲ要セサルカ故ニ苟モ犯人
以外ノ者カ所有スル物件則他人カ其上ニ所有權ヲ有スル物件ヲ奪取シタル
トキハ現在之ヲ奪取セラレタル者ハ假令所有權ヲ有セサルモ尙常ニ竊盜罪
ヲ構成スヘシト云ヒ其第二說ハ舊刑法第三百六十六條ハ單ニ人ノ所有物ヲ

竊取スト規定スレトモ行爲ノ點ニ於テ竊取即チ他人ノ所持ヨリ己レノ所持ニ移スコトヲ要素トシタル結果其物體ニハ有體物ナラサルヘカラサル結果ヲ生セリ然レトモ竊盜ノ目的物タル有體物ハ民法第八十五條ニ基ツクモノニ非スシテ竊取ト云フ所爲自身カ物ヲ現實ニ握取シテ他人ノ所持ヨリ自己ノ所持ニ移スヲ謂フニ基キタルモノナリ而シテ其結論ヨリスレハ同一ナリト雖モ民法ノ規定ヨリ生スト云ヘルト竊取ト云フ所爲ノ性質ヨリ來ルト論スルトハ他ノ問題ニ於テ其結果ヲ異ニスルモノアリ假令ハ民法ニ於テハ物ハ必スシモ動產物タルヲ要セスト雖モ竊取ノ場合ハ事實上動シ得ヘキモノナラサルヘカラサルカ如シ果テ然ラハ刑法上有體物トハ何ソヤ此問題ニ付テハ種々ノ學說アリト雖モ一定ノ空間ヲ充タシ且量定スルコトヲ得ヘキモノナラサルヘカラス若シ此觀念ヲ正當ナリトスレハ瓦斯水ノ如キハ有體物タルハ言ヲ俟タスト雖モ空間ヲ充タサス唯働キアルモノニシテ物質ヲ量定シ能ハサル電氣ノ如キハ物ニアラストノ說ハ正當ナリト云ハサルヘカラス己レノ所持ニ移スコトヲ得ル物ナラサルヘカラス民法上ノ動產不動産ノ區

別ニ關係ナシ土地家屋ト雖モ發掘破壞シテ己レノ所持ニ移スコトヲ得名稱ノ如何ハ問フ所ニ非ス但其物カ交換價格ヲ有セサルヘカラサルヤ否ヤニ付テハ議論分岐スト雖モ本罪ニ於ケル法律ノ趣旨ハ必スシモ價格ヲ保護スルモノニアラスシテ所持及ヒ其他ノ權利ヲ保護スルモノナレハ交換價格ヲ有スルト否トハ問フ所ニアラサルヘシ普通ノ見解ニ從ヘハ舊刑法第三百六十六條ニハ人ノ所有物云々ト云フ明文アリ他人カ所有權ヲ有スル物ニ對セザレハ竊盜罪成立セサルヲ原則トス故ニ竊取者自身カ所有權ヲ有スル物ニ付キ竊盜罪ノ成立スヘキハ例外ナリト云ハサルヘカラス是レ第三百七十一條ニ特別ノ規定アル所以ナリト云フニ在レトモ刑法ノ所有若クハ所有物ナル語ハ必スシモ所有權又ハ所有權ヲ有スル物ト云フニアラスシテ寧ロ單純ナル所持ノ意味ニ解スルコトヲ要スト云フニ在リ本法ハ舊刑法ノ人ノ所有物トアルヲ他人ノ財物ト修正シタル外他ニ異ナル所ナク從テ其趣旨ニ於テモ異ナル所ナシ唯所有物ト規定スルトキハ如上ノ議論ヲ生シ所有權アル物ニ對スルモノニアラサレハ犯罪ヲ構成セストノ論決ヲ生スルノ虞アルヲ以テ

寧ろ第二説ノ論旨ヲ採用シ廣ク之ヲ他人ノ財物ト規定シ此等ノ疑義ヲ避ケタルモノナルコトヲ疑ハス

竊取ノ意義ニモ左ノ數説アリ

第一説 竊取トハ物ノ他人ノ所持ヲ離シ自己ノ所持ニ移スノ意義ナレハ他人ノ所持ヲ侵害シテ犯人自身ニ之ヲ取得スルニ因リ完了ス

第二説 竊盜罪ハ他人ノ財産ヲ侵シテ自己ヲ富マスヲ其特色トス從テ單ニ自己ノ所持ニ移スノミナラス其物件カ自己ヲ富マスヘキ物タラサルヘカラス

第三説 物カ犯人ノ行爲ニ因リ現在ノ場所ヲ離レタルトキハ即竊取ニシテ自己ノ所持ニ移スト否トハ問フ所ニアラス

第四説 物カ犯人ノ實力内ニ入り犯人カ之ヲ獨占スルノ狀況ニ達シタルトキヲ以テ竊取ノ行爲ヲ完了シタル時期トス

第五説 犯人カ自己ノ物ノ如ク自由平穩ニ處分シ得ヘキ場所ニ置キタルトキヲ以テ完了ス

本法ハ實ニ第一説ノ趣旨ヲ採用シタルモノナルヘシ

第二百三十六條第一項ハ舊刑法第三百七十八條ト其趣旨ヲ同クシ唯文字ヲ修正シタルニ過キス第二項ハ新ニ設ケタル規定ナリ是レ強盜ノ場合ニ在テハ單ニ財物ヲ強取スルノミナラス其他ノ財産上ノ利益ヲモ取得スル場合アルヲ以テナリ又其刑期ヲ廣クシタルハ實際ノ必要ニ基クモノナリ

暴行トハ不正ノ腕力ヲ用ユル總テノ行爲ヲ意味シ脅迫トハ精神的ニ人ノ生命身體等ニ恐怖心ヲ起サシムル總テノ行爲ヲ意味ス一ハ直接ニ有形物ノ損害ヲ蒙ラシムルモノ一ハ無形ノ暴行ヲ以テ恐怖心ヲ惹起セシム共ニ暴行ノ一種タルヲ失ナハス

強取トハ暴行脅迫ヲ用ヒテ物ヲ不法ニ他人ノ手ヨリ奪取シテ自己ノ所持ニ移スノ行爲ニシテ竊取ト異ナル點ハ手段ニ暴行脅迫ノ加ハル一事ノミ

第二百三十七條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ強盜罪ノ準備行爲ヲ罰スルモノナリ其詳細ナル理由ハ第百十三條及ヒ第二百一條ニ付キ述ヘタル所ト同一ニシテ此種ノ犯罪ハ可成未然ニ之ヲ防止スルノ必要アリト云フノ外特殊ノ

理由アルニアラス

第二百三十八條ハ舊刑法第三百八十二條ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノニシテ其趣旨ハ別ニ異ナリタル點ナシ唯舊刑法ハ財物取還ヲ拒ク場合ノミヲ規定スト雖モ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル實例ナキニアラサルヲ以テ本法ハ之ヲ補修セリ

第二百三十九條ハ舊刑法第三百八十三條ト同一趣旨ノ規定ニシテ舊刑法ハ人ヲ昏醉セシムル方法ヲ記載スト雖モ如何ナル方法ヲ用ユルモ其結果昏醉ニ陥ラシムルトキハ本罪ヲ構成スルコト勿論ナルヲ以テ其方法ノ如キハ之ヲ例示スルノ必要ナキモノト認メ本法ハ之ヲ削除セリ

第二百四十條ハ舊刑法第三百八十條ト同一趣旨ノ規定ナリ
第二百四十一條モ亦舊刑法第三百八十一條ト同一趣旨ノ規定ニシテ強盜強姦ノ結果婦女ヲ死ニ致シタルトキハ其情狀極メテ重ク普通犯人ノ罪ト擇フ所ナキニ因リ特ニ刑ヲ重クシタル差異アルノミ
第二百四十二條ハ舊刑法第三百七十一條ニ該當ス然レトモ其趣旨ハ大ニ異

ナレリ即本法ハ横領ノ意思ヲ以テ他人ノ占有ヲ犯ス場合ハ占有セラレタル物カ自己ノ所有ニ屬スルトキト雖モ竊盜罪ヲ構成スヘキモノト爲シタリ畢竟本條ハ善意ノ占有ヲ保護スルノ規定ニシテ自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ單ニ所有權ヲ有スルニ止マリ處分權ハ全ク停止セラレタルモノハ一定ノ期間即占有ヲ解カルトカ看守ヲ解カルルマテハ全ク他人ノ財物ト異ナル所ナキヲ以テ之ヲ横領セントスルノ行爲ハ即チ權利ナクシテ物ヲ占領シ自己ノ所持ニ移スモノナレハ即チ竊盜罪ニ該當スルヲ以テナリ

第二百四十三條ハ未遂罪ヲ處罰スルノ規定ニシテ別ニ説明ヲ要セス
第二百四十四條ハ舊刑法第三百七十七條ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ノ刑ヲ免スヘキ範圍ハ祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同法ノ兄弟姉妹ニ限定スル爲メ一般ノ親族又ハ家族ニ及ホスコトヲ得ス故ニ本法ニ於テハ廣ク直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ト修正シ其範圍ヲ擴メタリ而シテ直系血族配偶者親族又ハ家族ノ何者タルヤハ民法ノ規定ニ依リ定マルヘ

キモノナレハ別ニ説明ノ要ヲ見フ

本規定ノ性質ニ付テハ從來二個ノ學說アリ

第一說 古代羅馬其他ノ諸國ニ於テハ凡ソ財産ハ家長ト家族トニ依リテ成立シタル家ニ屬シ其間專屬シタル特有ノ財産アルコトヲ認メス現今諸外國特ニ我國ノ刑法ニ於テ其間ニ於ケル竊盜ノ行爲ヲ罪トシテ論セサルハ獨ホ古代羅馬ニ於ケルカ如ク親族間ニ於テハ特種ノ財産ヲ有スル者ナク家中ノ財産ハ各處分權ヲ有スルノ結果之ヲ盜取スルノ行爲ハ恰モ自己ニ屬スル物ヲ竊取スルニ異ナラス盜罪ノ目的物ハ他人ノ物件タルコトヲ要スルノ結果根底ヨリ罪トナラサルカ故ニ親族相盜ハ其形式盜罪ニ類スルモ其實質ハ處分權ノ行使ニ外ナラス

第二說 古代ニ在テハ第一說所論ノ如ク親族間特有ノ財産ヲ有スルモノナカルヘシト雖モ文化漸ク進ミ所謂家族制度ナルモノ漸次個人制度ニ傾キタル今日ニ在テハ法律ハ現ニ親族間ニ於テ互ニ獨立シテ財産ヲ有スルコトヲ認メタリ此形勢ニ於テハ第一說ノ所論ハ法律ニ矛盾セルモ

ノニシテ正當ノ解釋ト云フコトヲ得ス畢竟親族相盜ヲ無罪トスルノ法制ハ道義若クハ公益ノ觀念ニ於テ親族間ノ平和ヲ維持スル爲メ罪アリト雖モ之ヲ罰セスト云フニ過キス

右二說果シテ何レノ說ヲ以テ本法ノ解釋ニ適スルモノト爲スヘキ乎舊刑法時代ニ於テハ他人共ニ犯スモ財物ヲ分タサルトキハ之ヲ無罪トシ財物ヲ分チタル場合ノミヲ以テ始メテ盜ヲ以テ論スル法制ナルヨリ若シ第二ノ主義ヲ執ルトキハ親族相盜ヲ無罪又ハ無刑トスルハ犯人ト被害者トノ間ニ個人的親族ノ關係アルカ故ニ換言スレハ其人ニノミ對シテ特種ノ身分アルカ故ニシテ之ト共ニ犯シタル他人ハ無罪又ハ無刑トセラルヘキ特種ノ身分ナキヲ以テ有罪タラサルヲ得ストノ論結ニ矛盾スヘシ又單ニ親族間ノ平和ヲ維持セルトスルニ在テハ同居ノ親族ニ限ルヘキ理由ナシト云フ二個ノ理由ニ基キ第一說ノ主義ヲ可トスルモノナキニアラサレトモ本法ニ於テ親族相盜ヲ罪トシテ論セサレハ一面ニ於テハ第二說ニ所謂親族ノ平和ヲ維持スル爲メ一面ニ於テハ同居ノ親族間ニ於ケル相盜ハ其害ノ及フ所一家ニ止マリ公

益ヲ害スル程度極メテ少ナキヲ以テナルヘク根底ニ於テハ罪ト爲ルヘキ所
爲ナルモ之ヲ科刑スルハ實益ナキノミナラス道義ノ上ニ於テモ忍ヒサル所
アルヲ以テナリ其同居ノ親族ニ限リタルハ由來犯罪行爲ニ對スル特種ノ例
外ナレハ極メテ一小部分ニ制限スルノ必要ニ基ツキタルモノナリ而シテ本
法ニ於テハ他人共犯ノ場合ハ財物ヲ分ツト否トニ關セズ總テ親族相盜ノ例
ヲ用ヒサルヲ以テ主義ニ於テハ一貫セリト云ハサルヘカラス

第二百四十五條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ通説ニ依レハ電氣ハ力ニシテ物
ニ非ストノコトナルヲ以テ其說ノ當否ハ姑ク措キ一切ノ疑義ヲ避クル爲メ
電氣ハ本章ノ罪ニ付テハ財物ト看做ス旨ヲ規定セリ是レ近時屢々起ル實例
ニシテ看過スヘカラサルモノアレハナリ

第四 疑問及説明

第一 債權證書ヲ竊取シタルトキハ債權ノ竊取ナリヤ證書ノ竊取ナリヤ
債權ハ無體物ナルカ故ニ現實ノ握取ヲ爲スコトヲ得ス債權ノ取得ハ一定
ノ方式ヲ要ス從テ竊取ノ行爲ニ因リ他人ノ所持ヨリ自己ノ所持ニ移スコ

トヲ得サルニ依リ單ニ證書ノ竊取ト爲ルヘシ

第二 同居ハ事實上ノ同居ノミニ限ル乎戶籍面ニ記載スル同居者ヲ包含ス
ル乎

同居ハ事實上ノ同居ニ限リ戶籍上ノ同居者ヲ包含セス

第三 婦女ヲ強姦シタル後強盜ヲ爲シタルトキハ第二百四十一條ニ依リ處
分スルヲ妨ケサルヤ

強姦罪ト強盜罪ノ併合ニシテ二罪ナリ

第四 第二百四十二條ノ公務所ノ命ニ因リトアル中ニハ公務員ノ命令ヲ合
ムヤ
然リ

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以
下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之

ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第一 沿革

第一案 第三百七十二條 自己又ハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ虚偽ノ事ヲ構造シ又ハ眞實ノ事ヲ變更、隱蔽シ其他詐欺ノ方略ヲ用ヒテ人ヲ錯誤ニ陷レ以テ不正ノ利益ヲ得タル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百七十三條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ不正ノ利益ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百七十四條 人ノ惡事、醜行其他ノ隱私ヲ摘發漏告セント脅迫シテ不正ノ利益ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百七十五條 前數條ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第三百七十六條 詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者再ヒ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ三犯以上ノ者亦同シ

第二案 第二百八十一條 人ヲ欺罔シテ動産ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十二條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者本人ニ損害ヲ加ヘ又ハ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ權限外ノ行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十三條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神耗弱ニ乘シテ其動産ヲ交付セシメ又ハ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシ

テ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十四條 第二百七十三條、第二百七十四條、第二百七十七條及ヒ第二百八十條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ第二百五十三條及ヒ第二百五十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十五條 直系血族及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テ第二百七十三條及ヒ第二百八十四條乃至第二百八十四條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百八十六條 自己ノ動産ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ占有ニ屬シ又ハ官署若クハ公署ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

第二百八十七條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但第二百七十五條ノ罪ハ此限ニ在ラス

第二百八十八條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スル

コトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案

第二百八十條 「動産ヲ財物」ト修正シタル外第二案ニ同シ

第二百八十一條 「權限外ノ行爲ヲ其任務ニ背キタル行爲」ト修正シタル外第二案ニ同シ

第二百八十二條 「動産ヲ財物」十年ヲ七年ト修正シタル外第二案ニ同シ

第二百八十三條 引用條數ヲ一條宛遞減シタル外第二案ニ同シ

第二百八十四條 「第二百七十三條及ヒ第二百八十條乃至第二百八十四條」ヲ「第二百七十二條又ハ前五條」ト修正シタル外第二案ニ同シ

第二百八十五條 「動産ヲ財物」ト「官署若クハ公署ノ命」ヲ「公務所ノ命」ト修正シタル外第二案ニ同シ

第二百八十六條 「第二百七十五條」ヲ「第二百七十四條」ト修正シタル外第二案ニ同シ

第二百八十七條 第二案ニ同シ

第二百七十九條 第三案ニ同シ

第二百八十條 第三案ニ同シ

第二百八十一條 第三案ニ同シ

第二百八十二條 引用法條數一條ツ、減下シタル外第三案ニ同シ

第二百八十三條 「第二百七十二條」ヲ「第二百七十一條」ト修正シタル外第三案ニ同シ

第二百八十四條 第三案ニ同シ

第二百八十五條 「第二百七十四條」ヲ「第二百七十三條」ト修正シタル外第三案ニ同シ

第二百八十六條 第三案ニ同シ

第二百八十七條 第三案ニ同シ

第二百八十八條 第三案ニ同シ

第二百八十九條 第三案ニ同シ

第二百九十條 第三案ニ同シ

第二百九十一條 第三案ニ同シ

第二百九十二條 第三案ニ同シ

第二百九十三條 第三案ニ同シ

第二百九十四條 第三案ニ同シ

第二百九十五條 第三案ニ同シ

第二 参照法律

刑法釋義 第二編 罪

佛蘭西刑法

第四百五條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 偽リノ姓名ヲ用ヒ或ハ偽リノ身分ヲ稱シ或ハ偽リノ起作無實ノ威權偽リノ信據ヲ人ニ證シ示ス可キ爲メ詐計ヲ用ヒ又ハ人ヲシテ無實ノ成功及ヒ無根ノ事故ヲ希望セシメ或ハ畏怖セシム可キ爲メ偽計ヲ用ヒテ人ノ所有スル金銀、動産義務ノ證書、契約書、手形、約定書、算還ノ證書ヲ己レニ渡サシメ或ハ渡サシメント試ミ爲シ且其偽計ヲ以テ人ノ産業ノ全部又ハ一部ヲ奪ヒ或ハ奪ハント試ミ爲シタル者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且五十フランクヨリ少カラス三千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

又其犯人ハ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ行フノ禁ヲ受ケシムルコトヲ得可シ但此規則ト其犯人ニ贋造、偽造ノ重罪アル時更ニ重キ刑ニ處ス可キ規則ト相觸ルルコトナカル可シ

第四百六條 幼者ノ窮乏、怯心、情慾ニ乘シ其損害トナルヘキ方法ヲ用ヒ其幼者ヲシテ金銀、動産、商業ノ手形又ハ其他ノ手形類ヲ貸借スル義務ノ證書又ハ算還證書ニ其姓名ヲ手署セシメシ者ハ其取引掛合ヲ爲ス方法ノ如何ナルヲ問ハス又口實ノ如何ナルヲ問ハス二月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且其罪犯ノ爲メ損害ヲ受ケタル者ニ償還ス可キ總高ノ四分ノ一ヨリ多カラス二十五フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ又其犯人ハ前條ト次項ニ記シタル刑ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第四百七條 人ノ姓名ヲ手署シタル白紙ヲ預リ詐偽ヲ以テ其白紙ニ借入ノ證又ハ算還ノ證ヲ記シ又ハ其他其白紙ニ姓名ヲ手署セシ者ノ身體又ハ産業ノ爲メ害トナル可キ證ヲ記シタル者ハ第四百五條ニ記シタル刑ニ處セラル可シ

若シ其白紙ヲ預リタルニ非サル者其罪ヲ犯シタル時ハ贋造ノ罪ノ訴ヲ受ケ贋造ノ刑ニ處セラル可シ

第四百二十三條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 金銀ノ性質眞物ナリト云ヒ販賣セシ贋造石類ノ性質諸般ノ商品ノ性質ニ付キ買主ヲ欺キシ者又ハ贋造シタル度量ノ具ヲ用ヒテ販賣ヲ爲ス品物ノ分量ヲ偽ハリシ者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償還高ノ四分一ヨリ多カラス五十「フランク」ヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

此輕罪ニ管シタル品物又ハ其代金尙ホ其賣主ニ屬スル時ハ之ヲ沒收シ且其贋造シタル度量ノ具モ亦沒收シテ之ヲ破毀ス可シ又裁判所ヨリ指示シタル場所ニ其刑ノ言渡書ヲ貼附シ且ツ其言渡書ノ摘報書又ハ其全文ヲ裁判所ヨリ指示シタル新聞紙ニ印ス可キコトヲ言渡シ其費用ヲ犯人ヨリ償ハシム可シ

獨乙刑法

第二百六十三條 自ラ不正ノ利ヲ得ントシ或ハ他人ニ得セシメントスルノ目的ニテ不實ナルコトヲ誓言シ又ハ實ヲ變シ或ハ之ヲ隱匿シテ他人

ノ迷惑ニ乘シ其財産ニ害ヲ爲シタル者ハ詐僞ノ罪ト爲シ禁獄ニ處シ其餘三千「マルク」ヨリ多カラサル罰金ニ處シ尙ホ公權ヲ行フコトヲ禁ス可シ
若シ酌量輕減アルトキハ其刑ヲ罰金ニ打算スルコトヲ得ヘシ既行未成モ亦罰ス可シ

若シ親族後見人教師又ハ傭主寄主ニ對シ詐僞ノ罪ヲ犯シタルトキハ其訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘシ又其解訴ヲ爲シ得ヘシ

第二百六十四條 獨乙裁判所ニ於テ詐欺犯罪ニヨリ處決セラレタル後再ヒ其同種ノ輕罪ニ因リテ處決セラレタルモノ更ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルトキハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ尙ホ五十「タール」ヨリ二千「タール」ニ至ル罰金ニ處ス可シ
若シ酌量輕減アルトキハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ其餘千「タール」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ
第二百四十五條ニ記シタル條々モ亦同シク通シテ用ユヘシ

第二百六十五條 詐欺取財ノ罪ヲ犯サントスル目的ニテ火災保險ヲ爲シタル物件ニ放火シ又ハ其同等ナル目的ニテ船又ハ其積荷及ヒ其運賃ニ付談合ヲ爲シタル船舶ヲ故ラニ淺瀬ニ傾膠シ又之ヲ没沈セシメタルモノハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ仍ホ五十「タ」レルヨリ二千「タ」レルニ至ル罰金ニ處スヘシ

若シ酌量輕減アルトキハ六月ヨリ短カラサル禁獄ニ處シ尙ホ千「タ」レルニ至ル罰金ニ處ス可シ

第二百六十六條

左ノ人ニハ信義ヲ背キタル罪トナシ禁獄ニ處シ仍ホ公權ヲ剝奪シ或ハ兩刑ノ内一ニ從ヒ唯禁獄ニ處スルコトヲ得可シ

第一 後見人、監察人、財産支配人、贓物預人、分散管財人、遺言狀施行人、創業支配人

若シ自ラ委託ヲ受ケ看守スヘキ人及ヒ其物件ニ付故ラニ害トナルヘキコトヲ爲シタル時

第二 人ヨリ委任狀ヲ受ケタル代理人委託シタル人ノ權利(貸金、銀等)及

ヒ財産ヲ故ラニ害トナルヘク資用シタル時

第三 檢地官、評價人、仲買人(官ヨリ和場會社)、運漕司、商用世話人(之レ仲買人ノ)、(附クタル)尺度官、檢査司(幣改役ノ大小)、試檢司(車ニ金銀)、船舶荷物支配人、其餘職業ニ付キ官廳ニ於テ誓詞ヲ爲シタル者若シ其媒介ヲ以テ爲スヘキ事件ニ付キ其委託シタル者ノ爲ニ故ラニ害ヲ爲シタル時

若シ己レニ利ヲ得ル爲メ或ハ他人ニ利ヲ得セシムルノ目的ニテ信義ニ背キタル事ヲ爲シタルトキハ禁獄ノ刑ノ外千「タ」レルニ至ル罰金ニ處スルコトヲ得ヘシ

奧太利刑法

第百九十七條 詐術ノ計略若クハ處行ヲ以テ他人ヲ誑惑シ該人ヲシテ國家若クハ一區或ハ一人其所有物ヲ害シ或ハ更ニ他人ノ權利ヲ犯サシムル者或ハ右ノ趣意ヲ挾ミ同上ノ詐術ヲ爲サントスルニ際シ他人ノ昏迷若クハ不覺ヲ利トシ故ラニ誣罔スル者ハ詐傷ノ罪トス之ヲ犯ス所以ノ起因ハ自己ノ利慾ヨリ出テ又ハ他人ヲ非法ヲ以テ扶助セント欲スル等

其ノ他何等ノ意思ヨリ生スルニモセヨ凡ソ斯ノ如キ類皆ナ然ルモノトス

第百九十八條

詐僞ノ重罪ト爲ルハ該所業ノ性質及ヒ損害多少ニ因テ然ルモノトス

第百九十九條 第百九十七條ノ規則ニ從ヒ詐僞ハ其處業ノ性質ニ從ヒ左

ノ場合ニ於テ之ヲ重罪トス

- (イ) 凡ソ自分ノ事ニ於テ訴訟ヲ爲スノ間誓詞ノ假造ヲ爲サント看守シ又ハ之ヲ爲シ或ハ訴訟ニ用フヘキ僞證ヲ設ケ假令該證書中ニ口實トシ辨解スヘキ事由有リト雖モ之ヲ裁判上ニ使用セシメシ者
- (ロ) 官吏官命若クハ臨時ニ官府ヨリ允許セル特權ト僞ル者
- (ハ) 職業上ニ使用ス可キ權量檢印ヲ有スルト有セサルニ關セス不正又ハ小形ノモノヲ使用セシ者
- (ニ) 公用筆記類又ハ官府ノ表點セル極印押印及ヒ品價印等ヲ假造スル者

(ホ) 經界ノ標柱ヲ斷除シ又ハ之ヲ遷移スル者

(ヘ) 無益ニ金貨ヲ投資シ終ニ償フ能ハサルノ狀ニ至リ又ハ僞計ヲ以テ信用ヲ増サント欲シ或ハ僞債主ヲ設ケ爾他凡ソ他人ト馴レ合ヒ又ハ財産ノ一部ヲ隱匿シテ其眞量ヲ僞ル者

第二百條 右ニ掲載スル者ノ外凡ソ詐僞ヲ以テ他人ニ加ヘシ損害或ハ其損害ヲ加ヘント企テシ高二十五グルデン以上ニ及フトキハ之ヲ重罪トス

第二百一條 詐僞ノ趣向ハ千様萬態極メテ夥多ナルヲ以テ悉ク之ヲ成例中ニ枚舉スル能ハス然レトモ前條ニ記載セル價額ヲ以テ重罪ト爲スモノ、分類殊ニ左ノ如シ

- (イ) 凡ソ人民私有ノ證書類ヲ僞造シ又ハ其正物ヲ變造セシ者及ヒ全ク關係ナキカ或ハ其獨權ニ屬セサル證書類ヲ他人ニ損害ヲ與フヘキ爲メ故ラニ沒失毀損磨滅セシ者或ハ假造ノ紙幣若クハ公債證書及ヒ貨幣等其主犯或ハ其犯者トノ協同ニ由ラスト雖モ假造物ナルヲ知テ之

ヲ流通セシメシ者

(ロ) 他人ノ愚暗ナルヲ利トシ欺惑若クハ詐術ヲ用ヒテ該人若クハ他人ノ害ヲ生セシムル者

(ハ) 拾物又ハ誤テ已レニ歸セシ物ヲ情ヲ知テ隠匿シテ私有ト爲ス者但シ本罪ハ自ラ掘出シ物秘收ト同シカラス

註ニ曰ク汽車及ヒ停車場内ノ遺失物ハ一千八百五十三年六月五日ノ司法省布達ヲ以テ見當リ物取扱ヒ規則ニ據ルコトト爲セリ

(ニ) 不正ノ利ヲ營ミ或ハ他人ノ財産若クハ權利ヲ害セン爲メ或ハ他人ヲ誑惑シテ損害ノ所業ヲ爲サシメン爲メ姓名身分風俗ヲ偽リ或ハ他人ノ財産ヲ自ラ掌領セル姿ヲ爲シ其他諸種ノ偽計ヲ用ユル者

第二百二條 詐僞ノ刑ハ大抵六月以上一年以下ノ徒刑トス然レトモ特ニ加等ノ情狀アルトキハ一年以上五年以下ニ及フコトヲ得

第二百三條 犯罪者詐僞ヲ以テ掠略シ得ルカ或ハ之ヲ掠略セント企テシ價額三百グルデン以上ニ及フカ或ハ詐僞ヲ行ハン爲メ特ニ慥僞計ヲ

用ヒ及ヒ詐僞ヲ以テ其常習ト爲セシ者ハ五年以上十年以下ノ重徒刑ニ處スヘシ

第二百四條 偽誓ヲ作り以テ詐僞ノ重罪ヲ犯ス者ハ(第九十九條イ號下ノ如キ第二百二條及ヒ第二百三條ニ掲ケタル時間重徒刑ニ處スヘシ然レトモ其偽誓ヲ以テ甚シキ巨害ヲ生セシムルニ於テハ二十年ノ重徒刑其情狀特ニ重キニ於テハ終身ノ重徒刑ニ處スルコト有ルヘシ

第二百五條 凡ソ詐僞ニシテ第九十九條及ヒ第二百三條ノ如キ情狀無キモノハ之ヲ違式罪トシテ該刑法第二編中ノ本罪條例ニ從テ之ヲ處分スヘシ

第四百六十一條 監守盜及ヒ詐僞モ亦第八十一條第八十三條第九十九條第二百條及ヒ第二百一條中ニ於テ重罪ト爲シ若シ甚シキ犯爲ニ非サルモノハ之ヲ違式罪トシ同上ノ刑ニ處スヘシ

那威刑法

第二百七十條 權限ナキ利得ヲ爲シ又ハ爲サシムル意向ヲ以テ錯誤ヲ惹

起又ハ増進セシメ違法ニ人ヲ誑誘シテ行爲者又ハ其代理スル他人ニ財産上ノ損失ヲ加フヘキ行爲ヲ爲サシメタル者又ハ其協力者ニハ欺罔ノ爲メ金刑又ハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百七十一條 左ノ場合ニ於テハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

一 假裝又ハ公ノ資格又ハ記號ノ濫稱又ハ妄用ニ依リ欺罔ヲ爲シタルトキ

二 營業上虚偽ノ尺度又ハ權衡ヲ使用シ又ハ金銀細工ニ付キ虚偽ノ極

印ヲ押捺シテ欺罔ヲ爲シタルトキ

三 傳染病ヲ疾ム家畜ノ讓渡ニ依リ欺罔ヲ爲シタルトキ

四 人又ハ家畜ノ健康ヲ害スヘキ材料ヲ配合シタル物品ノ讓渡ニ依リ

欺罔ヲ爲シタルトキ

五 損害一千クローンヲ超ヘタルトキ

第二百七十二條 錯誤ヲ惹起又ハ増進セシメ因リテ人ヲ誑誘シテ爾餘ノ場合ニ於テハ全然爲ササルヘキ保險又ハ他ノ條件ニ依リ爲スヘキ保證

ヲ爲サシメタル者又ハ其協力者ニハ金刑又ハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
保險者ノ出捐ニ依リ利得ヲ爲シ又ハ爲サシムル意向ヲ以テ被保險物ヲ毀壞損害又ハ隱匿シ又ハ保險ニ付セサル物件ニ對シ賠償請求ヲ爲シタル者又ハ其協力者ニハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百七十三條 物品有價券又ハ類似ノ物件ノ市價ニ影響セシムル目的ヲ以テ虚偽ノ報告ヲ流布シタル者又ハ其協力者ニハ金刑又ハ二年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

左ニ掲クル者ニハ同一ニ科刑ス

一 株式會社ノ設立又ハ私價ノ擔當又ハ類似ノ企業ノ爲メ招募者トシテ虚偽ノ指示又ハ眞實ノ隱蔽ニ依リ干與者ヲ募集セントスル者

二 株式會社又ハ類似ノ企業ニ於テ其營業狀況ニ付キ不正當ノ記入ヲ爲シ又ハ重要事項ヲ隱蔽シタル報告ニシテ人ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキモノヲ公示シ又ハ官廳又ハ他ノ利害關係人ニ對シ此種ノ報告ヲ爲シタル者

又ハ其協力者

第二百七十四條 虛偽ノ指示ニ依リ自己又ハ他人ニ貸貸又ハ同時ニ反對
給付ヲ爲ササル給付ヲ爲サシメ其結果財産上ノ損失ヲ惹起シタル者又
ハ其協力者ニハ金刑又ハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百七十五條 権限ナキ利得ヲ爲シ又ハ爲サシメ又ハ人ヲ損害スル意
向ヲ以テ自身指揮又ハ監視スヘキ他人ノ事務ヲ等閑ニ付シ又ハ此點ニ
付キ他人ノ不利益ヲ計リタル者ニハ金刑又ハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
行爲者一千クローン以上ノ損害ヲ加ヘタルトキ又ハ罪ヲ隠秘スル爲メ
計算書又ハ帳簿ニ不當ノ記入ヲ爲シ虚偽ノ文書ヲ作成シ又ハ準備シ又
ハ計算書帳簿又ハ其他ノ文書ヲ毀滅廢棄變造又ハ隠匿シタルトキハ之
ニ六年以下ノ禁錮ヲ科刑スルコトヲ得
誘誘又ハ激勵ニ依リ上述ノ行爲ニ協力シタル者ニハ同一ニ科刑ス
第二百七十六條 権限ナキ利得ヲ爲シ又ハ爲サシムル意向ヲ以テ他人ニ
所有權又ハ使用權ヲ讓渡シタル物件ヲ法律行爲ニ依リ違法ニ處分シタ

ル者又ハ其協力者ニハ金刑又ハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百七十七條 行爲者本章ノ罪ニ依リ情ヲ知リテ他人ノ生命又ハ健康
ニ對スル危険又ハ他人ノ所有權ノ甚大ノ防碍ヲ惹起シ又ハ他人ノ地位
ヲ動搖セシメタルトキハ第二百七十一條ノ場合ニ於テハ八年以下ノ禁
錮ヲ科刑シ爾餘ノ場合ニ於テハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
罪ノ結果人ヲ死去又ハ重大ノ身體障害又ハ健康損害ニ致シタルトキハ
三年以上ノ禁錮ヲ科ス

第二百七十八條 前掲ノ條項ニ依リ宣告ヲ受クヘキ者其前第十七章第十
八章、第二十四章、第二十五章又ハ第二十七章ニ依リ又ハ第八十八條、第百
四十七條、第二百四條、第二百六條又ハ第三百十八條ニ依リ禁錮ヲ科刑セ
ラレタルトキハ刑ハ法定ノ高度ニ其半ヲ加重スルコトヲ得
業務又ハ營業上第二百七十一條、第二百七十三條、第二百七十五條又ハ第
二百七十七條ニ對スル罪ヲ犯シタルトキハ行爲者ヨリ何等ノ場合ト雖
モ其業務又ハ營業ヲ續行スル權利ヲ否認スルコトヲ得

第二百七十九條 行爲者其親族ニ對シ第二百七十條、第二百七十一條第一號及ヒ第五號、第二百七十四條、第二百七十五條及ヒ第二百七十八條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テ被害者ノ申請ナキトキハ公ノ訴追ハ之ヲ爲サス然レトモ第二百六十五條第三項ハ之ヲ準用ス

和蘭刑法

第二百七十條、第二百七十四條、第二百七十五條及ヒ第二百七十六條ノ罪ハ被害者ノ申請ナキトキハ何レノ場合ト雖モ之ヲ訴追セス但行爲者公衆ノ信用又ハ輕信ヲ妄用シテ數多ノ人衆ニ對シ罪責ヲ有スルトキ又ハ爾餘ノ場合ニ於テ一般ノ福利上訴追ヲ必要トスルトキハ此限ニ在ラス

第三百二十六條 自己又ハ他人ノ爲メニ不法ノ利益ヲ獲得センコトヲ目的トシテ姓名身分ヲ詐稱シ又ハ僞計ヲ用ヒ或ハ虛僞ノ手段ヲ以テ人ヲシテ其物件ヲ交附シ或ル義務ヲ約シ又ハ或ル債權ヲ消滅スルノ決心ヲ爲サシメタル者ハ詐僞取財ヲ以テ論シ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百二十七條 僞計ヲ以テ保險人ヲシテ保險ニ關スル情狀ニ錯誤ヲ爲サシメ其保險物ノ真正ノ模樣ヲ知了セシトキニハ締結セサリシガ又ハ他ノ條件アルニ非サレハ締結セサリシ所ノ契約ヲ締結セシメタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百二十八條 保險人又ハ海上冒險貸借契約ノ適法ノ所持人ヲ害シテ自己又ハ他人ノ爲メニ不法ノ利益ヲ獲得セントノ目的ヲ以テ火災ニ對シ保險セラレタル物件ニ放火シ又ハ其物件ニ爆發ヲ生セシメ又ハ保險附ノ船舶積荷又ハ貸借ノ保險アル船舶或ハ冒險貸借ノ契約アル船舶ヲ覆沒、毀壞シ又ハ使用シ能ハサル景狀ニ至ラシメ又ハ之ニ損害ヲ被ラシメタル者ハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百二十九條 左ノ諸件ニ於テ買主ヲ欺罔シタル賣主ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

- 一 故意ヲ以テ確定物ノ買主ニ他ノ物件ヲ賣渡シタルトキ
- 二 賣渡シタル物件ノ元質、品質又ハ分量ヲ僞リタルトキ

第三百三十條 贗造ノ食物、飲料又ハ藥劑ナルコトヲ知了シ之ヲ陰祕シテ

販賣シ又ハ販賣ニ供シ或ハ其小賣ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

食物飲料又ハ藥劑中ニ他ノ物質ヲ調合シテ其價位品質ヲ劣等ナラシメタルトキハ賈造ヲ以テ論ス

第三百三十一條 或事業ノ起作者製造者又ハ建築材料ノ賣主其事業執行中又ハ其材料引渡ニ關シテ人或ハ財産ノ安全或ハ戰時ニ於ケル政府ノ安寧ヲ危險ニ陥ラシムヘキ詐僞ノ所爲ヲ爲シタルトキハ六年以下ノ禁錮ニ處ス

其事業又ハ其材料引渡ヲ監督スヘキ任アル者故意ヲ以テ詐僞ノ所爲ヲ成就セシメタルトキ亦同シ

第三百三十二條 艦隊又ハ軍隊ノ勤務上必要ナル物件ノ引渡ニ關シ詐僞ノ所爲ヲ爲シ因テ戰時ニ於テハ政府ノ安全ヲ危險ニ陥ラシムヘキコトアルヘキトキハ六年以下ノ禁錮ニ處ス
該物件ノ引渡ヲ監督スヘキ任アル者故意ヲ以テ詐僞ノ所爲ヲ成就セシ

メタルトキ亦同シ

第三百十七條 自己又ハ他人ニ不法ノ利益ヲ獲得セントノ目的ヲ以テ人ニ暴行又ハ暴行ヲ加ヘント脅迫シテ其人又ハ其他ノ人ニ全部若クハ一部ノ所有權アル物件ヲ己レニ交付セシメ若クハ或ル義務ヲ約セシメ又ハ或債權ヲ消滅セシメタル者ハ恐喝取財ノ罪ヲ以テ論シ九年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ本犯ニ之ヲ適用ス

第三百十八條 自己又ハ他人ニ不法ノ利益ヲ獲得セントノ目的ヲ以テ誹毀ニ係ル文書又ハ陰私漏告手段ヲ用ヒ人ヲ脅迫シ其人又ハ他ノ人ニ全部又ハ一部ノ所有權アル物件ヲ己レニ交付セシメ若クハ或債權ヲ消滅セシメタル者ハ強騙ノ罪ヲ以テ論シ三年以下ノ禁錮ニ處ス

本犯ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百十九條 第三百十六條ノ規定親屬ノ場合ハ親告罪ト爲ス規定ハ本章ニ掲ケタル犯罪ニ適用ス

第三百二十條 本章ニ指示シタル犯罪ニ付キ裁判言渡アリタルトキハ第二十八條第一項乃至第四項ニ列記シタル權利官職又ハ特定ノ官職ニ任命セラレル權、兵軍ニ從事スルノ權、選舉人、被選舉人ト爲ルノ權、司法上ノ補佐人又ハ管理人タルノ權、自分ノ子以外ノ幼者ノ後見人、後見監督人、管財人又ハ監督管財人ト爲ルノ權ノ剝奪ヲ命スルコトヲ得

瑞西刑法典

第八十一條 虛偽ノ事實ノ眩惑又ハ眞誠ノ事實ノ義務ニ違背シタル默秘ニ依リ他人ノ費用ヲ以テ自己又ハ他人ヲ利益スル爲メ之ヲ詐僞シタルトキハ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
左ノ場合ニ於テハ欺罔者ニ十年以下ノ懲役ヲ科刑ス
欺罔ヲ爲シタル日時欺罔ノ爲メ禁錮刑ヲ執行シタル日時又ハ欺罔ノ爲メ懲役刑ヲ執行シタル日時ヨリ尙五年ヲ經過セサルトキ又ハ無耻ノ方法ニ依リ欺罔ヲ爲シタルトキ又ハ企圖シ又ハ惹起セル損害甚大ナリシトキ

第八十二條 子又ハ孫及ヒ行爲者ト同居スル配偶者ニ對スル欺罔ニハ科刑セス
父母祖父母又ハ行爲者ト同居スル家族ニ對スル欺罔及ヒ行爲者ト同居セサル配偶者ニ對スル欺罔ニハ申請ニ依リテノミ科刑ス

第八十三條 詐欺ノ目的ヲ以テ物件ヲ偽造變造シ又ハ其價值ヲ減損シタル者

眞誠ノ物件變造セザル物件又ハ價值ヲ減損セザル物件トシテ偽造變造又ハ價值ヲ減損セル物件ヲ賣買シ又ハ取引シタル者
眞誠ノ物件又ハ變造セザル物件トシテ取引セラレヘキコトヲ知ラズシテ偽造又ハ變造ノ物件ヲ買取り賣拂ヒ又ハ積置キタル者ニハ禁錮又ハ一萬フランク以下ノ罰金又ハ禁錮及ヒ一萬フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス其罰金ノ額ハ少クトモ物件ノ最低價ノ五分ノ一ナルベシ
偽造又ハ變造ノ物件ハ之ヲ沒收スヘシ
宣告ヲ爲ス規定ハ之ヲ公示スヘシ

澳太利刑法草案

第二百七十四條 何人タリトモ不法ノ財産上ノ利益ヲ自己ニ得又ハ他人ニ得サシムルノ目的ヲ以テ狡猾ノ手段ヲ用ヒ人ニ錯誤ヲ誘起セシメ又ハ増進セシメテ其ノ財産ニ損害ヲ加ヘタル者ハ詐欺ヲ行フタルモノトス

第二百七十五條 詐欺ハ其損害カ千フロリシテ超ヘタルトキハ十年以下ノ懲役又ハ三月ヨリ少カラサル禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス

第二百七十六條 詐欺ハ左ノ場合ニアリテハ禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス

第一 損害カ五千フロリシテ超ヘタルトキ

第二 禁錮ヲ行フニ當リ不正又ハ小量ノ度量又ハ衡ヲ使用シテ詐欺ヲ行フタルトキ

第三 貴金屬金銀塊寶石又ハ眞珠ヲ賣買スル營業人摸造又ハ偽造品ヲ用ヒ又ハ眞實ノ刻印ヲ移押シ又ハ眞正ナラサル標記ヲ付シ又ハ重量

純分又ハ眞物ナルコトヲ偽ハリテ詐欺ヲ行ヒタルトキ

第四 官職上ノ性質又ハ依託ヲ僞示シテ詐欺ヲ行フタルトキ

第二百七十七條 何人タリトモ不法ノ財産上ノ利益ヲ自己ニ得又ハ他人ニ得サシムルノ目的ヲ以テ火災保險付ノ物件ヲ燒燬シ又ハ船體又ハ其積荷又ハ其ノ船貨ヲ保險シタル船舶ヲ沈没セシメ又ハ破壊シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ三月ヨリ少カラサル禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス

第二百七十八條 若シ前記ノ場合(第二百七十六條、第二百七十七條及ヒ第二百七十八條)ノ一モ存在セサルトキハ詐欺ハ六月以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セラルモノトス

第二百七十九條 犯罪者カ所爲ヲ行フ前既ニ數回内國ニ於テ詐欺ノ爲メニ處刑セラレ且最後ノ刑ヲ終リ又ハ免サレタル以來尙ホ五年ヲ經過セサルトキハ前ニ詐欺ノ爲メニ科シタル刑ノ中尤モ重キ刑ノ二倍ヲ言渡スヲ得ルモノトス但之ニ依テ十年ヨリ多キ懲役ヲ科スルヲ許ササルモ

ノトス

第二百八十條 第二百七十五條乃至第二百八十條ノ既遂ノ詐欺ノタメニ科シタル刑ト共ニ其ノ加ヘタル損害ノ三倍以下ノ罰金ヲ科スルヲ得ルモノトス

第二百八十一條 第二百六十六條及ヒ第二百六十七條ノ規定ハ詐欺ニモ亦適用セララルモノトス

第二百八十二條 何人タリトモ將來償却シ能ハサルニアラルサモ然モ不確實ナル狀況ニアル場合ニ於テ狡猾ノ手段ヲ以テ人ニ錯誤ヲ誘起セシメ又ハ増進セシメテ信用ヲ與ヘシメ又ハ其ノ與ヘラレタル信用ヲ延期セシメタル者ハ一年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス

第二百八十三條 何人タリトモ不法ノ財産上ノ利益ヲ自己ニ得又ハ他人ニ得サシムルノ目的アルニアラスシテ狡猾ノ手段ヲ以テ人ニ錯誤ヲ誘起セシメ又ハ増進セシメテ財産ニ損害ヲ加ヘタル者ハ六月以下ノ禁錮

又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ科シ若シ損害カ五百フロリンヲ超ヘタルトキハ二年以下ノ禁錮又ハ千フロリン以下ノ罰金ヲ科スルモノトス
糺罪ハ告訴ヲ待テ開始シ未遂ハ之ヲ糺罪セサルモノトス

第二百八十四條 何人タリトモ其管理ニ付セラレタル他人ノ財産權ヲ故意ニ其ノ損害ニ放任シタル者ハ破信ノ罪アルモノトシテ禁錮又ハ千フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス但便宜又ハ其他ノ必要ナル原因ヨリ正當ニ之ヲナシ得キコトヲ信スルニ足ル事情ノ存スルニアリテ之ヲナシタルトキハ此ノ限りニアラス
自己ノ利益ノタメ破信ノ罪ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處シ且之レト共ニ領得シタル利益ノ二倍以下ノ罰金ヲ科スルヲ得ルモノトス
被害者ノ請求ニ依リ處刑ト共ニ之ヲ拂フ可キ過怠金三千フロリン以下ヲ言渡スヲ得ルモノトス

羅馬法

詐偽取財トハ受ク可カラサル利益ヲ得他人ニ違法ノ損害ヲ爲サシムル爲

タノ惡意アル詐偽ヲ云フ此罪ハ第一惡意第二貨財ノ損害第三其損害ヲ
已ニ行フタルモノニ因テ罰ス

詐偽ノ種類ハ種々ニシテ羅馬法ニ於テ其種類ヲ一々列記セスト雖モ要
スルニ抵當シタルコトヲ隱匿シテ二重抵當トナシ或ハ販賣スルコト他
人ノ貨物ヲ抵當トスルコト等ニシテ只タ惡意トナスノ場合即チ詐言違
約ノ如キモノ等トハ區別スヘク尤モ此區別ハ詐偽ノ罪目判然タラサル
ヨリ甚タ困難トス又公安公益ニ對スル編中ノ詐偽トハ其財貨損害ノ如
何ニ因テ區別スヘシ

唐律

諸詐欺官私以取財物者準盜論詐欺百端皆若監主詐取者自
從盜法未得者減二等下條準此

明律

凡用計詐欺官私以取財物者竝計贓准竊盜論免刺若期親以下自相欺詐者亦

依親屬相盜律遞減科罪

凡欺隱田糧脫漏版籍者一畝至五畝笞四十每五畝加一等罪止杖一百其田入
官所隱稅糧依數懲納

若將田土移坵換刑那移等即以高作下減哺糧額及詭寄田糧影射差飯竝受
寄者罪亦如之其田改正收科當差
里長知而不舉與犯人同罪

清律

與明律同

第三 釋義

本章ハ舊刑法第五節中詐欺取財ニ關スル部分ニ該當ス
今其修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 舊刑法ハ欺罔取財ト恐喝取財ヲ同一ノ條ニ規定シタル爲メ或學者
ハ我刑法ニ恐喝取財罪ナルモノアリヤ否ヤニ付テハ少クトモ疑問ナリ
トノ說ヲ唱道スルニ至レリ今其理由ヲ討ヌルニ我刑法ニ於テ恐喝ナル
文字ヲ用ヒタル法條ハ第三百九十條アルノミ從テ之カ決定ハ該條審查

ノ結果如何ニ因ルモノトス同條ノ規定ニ依レハ或ハ之アリト謂フコトヲ得ヘク或ハ之ナシト云フコトヲ得ヘシ蓋シ第三百九十條ニ所謂騙取ナル文字ニ重ヲ置クトキハ恐喝ハ草案ニ所謂無根ノ事實ヲ恐怖セシメトアルヲ意譯シタルモノ即チ欺罔ノ手段ヲ掲ケタルモノト觀察セサルヲ得サルノ結果我刑法ニ於テハ歐洲諸國ノ刑法及ヒ我母法ノ一タル支那律ニ所謂恐喝取財罪ナルモノナシト謂ハサルヘカラス之ニ反シ第三百九十條前段欺罔ナル文字ニ重キヲ置クトキハ恐喝ハ騙取ノ手段ニシテ欺罔ノ手段ニアラスシテ騙取ノ總テノ手段ヲ網羅セルモノト觀察セサルヲ得サルノ結果恐喝ハ欺罔以外ノ手段ニ因ル特別ナル財産奪取ノ所爲ト解シ我法律ニ於テモ亦諸外國ノ法律ニ於ケルカ如ク恐喝取財罪ナルモノアリト謂ハサルヘカラス之ヲ要スルニ我法律ハ其レ自身紛亂錯綜明瞭ヲ缺クカ故ニ恐喝取財罪ナルモノアリヤ否ヤノ問題ハ終始不決ノ問題ナリト云フニ在リ畢竟其性質ヲ同フセサル二個ノ罪ヲ一條ニ規定シタル結果ニ外ナラサルハ本法ニ於テハ此等ノ議論ヲ避クル爲メ

之ヲ別條ニ規定セリ

第三 舊刑法第三百九十二條ハ本法第二百四十六條ニ包含シ第三百九十

五條末段ノ規定ハ次章橫領罪ノ中ニ規定シタルヲ以テ之ヲ削除セリ

以下各本條ニ付キ説明スヘシ

第二百四十六條ハ舊刑法第三百九十條中人ヲ欺罔シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル罪ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ニ於テハ本罪ノ目的物ヲ財物若クハ證書類ト爲スト雖モ本法ニ於テハ第一項ヲ以テ財物ニ關スル規定ヲ設ケ第二項ニ於テ其他ノ財産上ノ利益ニ關スル規定ヲ設ケタリ蓋シ詐僞ノ手段ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル場合ハ其結果ヨリ見ルトキハ財物ノ騙取ニ外ナラスト雖モ此場合ハ間接ノ關係ナルヲ以テ欺罔騙取ノ中ニ包含セシムルハ穩當ナラサルヲ以テナルヘシ

欺罔トハ學者ノ屢々唱道スル如ク有テ無無ヲ有ト僞ハリ人ノ確信ヲ誤マラシムルコトヲ云フモノニシテ行爲トシテノ欺罔ハ他人ニ虛僞ノ事實ヲ信セ

シメントスル故意的動作ニ外ナラス
騙取トハ欺罔ノ手段ノ結果錯誤ニ因リ他人ノ交付スルコトヲ同意シタル財物ノ收受ヲ云フ

第二百四十七條ハ新ニ設ケタル規定ナリ他人ノ爲メ事務ヲ處理スル者私利ヲ營ミ其他委託セラレタル任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ損害ヲ蒙ラシムルコト近時頻繁ニ見ル實例ナリ此等ノ場合ニ於テハ理論上民事訴訟ニ依リ損害賠償ヲ求ムル途ナキニアラスト雖モ其結果ハ所謂理ニ勝テ非ニ落ツルノ實益ナキ成蹟ヲ見ルコト多ク事實救済ノ途ナキト同一ニ歸ス而モ其行爲ノ公益ヲ害スルコト敢テ本章及ヒ次章ニ於テ規定スル罪ニ讓ラス故ニ本法ハ本條ノ規定ヲ設ケテ其弊ヲ防止センコトヲ企圖セリ

第二百四十八條ハ舊刑法第三百九十一條ヲ修正シタル規定ニシテ學者ノ所謂準詐僞取財罪ニ該當スルモノトス舊刑法ハ未成年者ノ外精神錯亂者ノ規定ヲ設クト雖モ此場合ハ竊盜若クハ詐欺取財ニ該當スルヲ以テ本法ハ之ヲ削除シタリ又第二百四十六條ト同シク財産上ノ利益ニ關スル規定ヲ加ヘタ

リ但舊刑法ハ本條ノ場合ヲ以テ一ノ詐欺取財ノ罪ト爲スト雖モ本條ノ罪ト第二百四十六條ノ罪トハ其性質同一ナラサルヲ以テ本法ハ別條トシテ規定セリ

第二百四十九條ハ舊刑法第三百九十條ニ定メタル恐喝取財罪ニ該當ス本條ニ於テモ第二百四十六條ト同シク第一項ヲ以テ財物ニ關スル規定ヲ設ケ第二項ヲ以テ其他ノ財産上ノ利益ニ關スル規定ヲ設ケタリ

恐喝取財ノ性質ニ付テハ學者ノ所說一定セスト雖モ人ノ身上ニ無形ノ害惡ヲ與フヘキ行爲ヲ爲スヘシト威嚇シ之ヲ爲ササルノ對價トシテ不正ニ財物ヲ獲得スルノ行爲ナリト云フ點ニ付テハ異ナル所ナキカ如ク本法ノ趣旨モ亦之ニ外ナラス

第二百五十條ハ未遂罪ヲ罰スルノ規定ニシテ別ニ說明ノ要ヲ見ス

第二百五十一條ハ本章ノ罪ニ付テモ他人ノ占有ニ係ル自己ノ物ヲ交付セシメタルトキハ第二百四十二條ノ例ニ從ヒ親族及ヒ家族間ノ詐欺又ハ恐喝ニ付テハ第二百四十四條ノ例ニ從ヒ電氣ニ關シテハ第二百四十六條ノ例ニ從

不ヘキコトヲ明ニシタルモノニシテ別ニ説明ノ要ヲ見ス

第四 疑問及説明

第一 法令ニ因リ所持ヲ禁セラレタル物件ヲ騙取シタルトキハ詐偽取財ノ罪ヲ構成スルヤ

第二百四十六條ニ規定スル財物ハ法ノ認ムル所ノ物ナラサルヘカラス故ニ禁制品ハ此中ニ包含セズ

第二 財物ハ金錢ニ見積リ得ルコトヲ必要トスルカ

本問ニハ積極消極ノ兩説アリ消極説ヲ採ル者ハ資産ノ一部ト爲ルコトヲ得ル物ハ總テ本罪ノ物體ト爲ルコトヲ得ト説ケリ本法ニハ別段ノ制限ナキヲ以テ財物ハ必ズ金錢ニ見積リ得ルコトヲ必要トセザルモ無價物ハ包含セザルヘシ

第三 債權ハ本罪ノ物體ト爲ルコトヲ得ル乎

欺罔ノ結果人ヲシテ債權ノ得喪移轉ヲ約セシメタルトキハ第二百四十六條第二項ニ該當スベシ

第四 單純ナル虚言ハ欺罔ノ中ニ包含スルヤ

本問ハ程度ノ問題ニ屬ス佛蘭西ノ學說判決例ハ消極説ニ一變シ別ニ之ヲ信セシムル偽計アルヲ要スト論セリ然レトモ單純ノ虚言ト雖モ人ヲシテ錯誤ニ陥ラシメタル事實アルニ於テハ固ヨリ欺罔ノ中ニ包含スヘシ

第五 服裝其他ノ方法ニ因リ特ニ金錢アルコトヲ信セシメ酒食ヲ供セシメタルトキハ詐偽取財ヲ以テ論スルコトヲ得ルヤ

然リ

第六 強取竊取ト騙取トノ間ニハ如何ナル差異アリヤ

其差ハ他人カ目的物ヲ授受スルト否トニ在ラスシテ錯誤ノ結果合意ヲ與ヘルト否トニ在リ

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第一 沿革

第一案 第三百七十七條 自己又ハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ貸貸、寄託、使用、貸借、質其他容假ノ名義ニテ交付セラレタル金穀、物件ヲ隱匿、消費

シタル者ハ背信ノ罪ト爲シ一月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百七十八條 自己ノ所有ニ屬スル物件ト雖モ裁判所ヨリ差押ヘ更ニ保管ヲ託セラレタルモノヲ隱匿消費シタル者ハ背信ヲ以テ論ス

第三百七十九條 寄託又ハ代理ノ名義ヲ以テ他人ノ印類又ハ捺印若クハ署名アル白紙ヲ預リ不正ニ寄託者又ハ委任者ノ利益ヲ害シ得ヘキ證書ヲ作りタル者ハ背信ヲ以テ論ス

第三百八十條 他人ノ所有ニ屬スル土地ノ全部若クハ一分ヲ占領スル爲メ又ハ其土地ノ利益ヲ得ル爲メ經界ヲ表シタル物件ヲ毀棄シ又ハ移轉シタル者ハ二月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十一條 此節ニ記載シタル罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第三百八十二條 此節ニ記載シタル罪親屬相犯ス者ハ第三百六十

條ノ例ニ同シ

第二案 第二百八十九條 他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領シタ

ル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ動産ト雖モ官署又ハ公署ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ

於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百九十條 業務上他人ノ爲メ占有スル動産又ハ不動産ヲ横領

シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二百九十一條 遺失物漂流物其他人ノ占有ヲ離レタル動産ヲ得

テ之ヲ横領シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十二條 本節ノ罪ニハ第二百八十五條ノ規定ヲ準用ス

第三案 第二百八十八條 第二案ニ同シ

第二百八十九條 「十年以下」上ニ「二年以上」ヲ加ヘ「本條ヲ」本項ト修

正シタル外第二案ニ同シ

第二百九十條 「三年以下ノ懲役」下ニ「又ハ百圓以下ノ罰金若クハ

科料」ヲ加ヘタル外第二案ニ同シ

第二百九十一條 本章ノ罪ニハ第二百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第四案 第二百八十七條 第三案ニ同シ

第二百八十八條 第三案ニ同シ

第二百八十九條 第三案ニ同シ

第二百九十條 本條ノ罪ニハ第二百八十三條ノ規定ヲ準用ス

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第四百條 三項

負債ノ爲メ自己ノ財産ヲ抵償トシテ差押ヘラレシ者其財産ヲ預リテ其

預リ中之ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ爲シタル時ハ

第四百六條ニ記シタル所ノ刑ニ處セラレ可シ

若シ負債ノ抵償トシテ差押ヘラレタル自レノ財産ヲ他人ノ預リタル時

刑法釋義 第二編 罪

其財産ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ爲シタル者ハ第四百一條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

負債者又ハ負債ノ保證人其質トシテ附與シタル品物ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ爲シタル時ハ亦第四百一條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

竊取シタル物ヲ故意ヲ以テ隱匿セシ者又ハ負債者或ハ負債ノ保證人其質トシテ附與シタル品物ヲ亡失或ハ竊取シ又ハ亡失或ハ竊取セント試ミ爲スヲ助ケタル其配偶者又ハ其尊屬及ヒ卑屬ノ親ハ其犯人ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

第四百八條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 借受、附託、質入、借用ノ爲メ或ハ雇賃ノ有無ヲ論セス人ノ用ヲ達スル爲メ人ヨリ動産、金銀、商品、手形、算還ノ證書又ハ其他借受或ハ算還ノ證書類ヲ受取リ後ニ之ヲ還シ又ハ示シ又ハ定マリタル用法ニ之ヲ用フ可キノ約ヲ爲シ其約ニ背キ此等ノ諸件ヲ盜取シ又ハ消費シテ其所有者ノ損害ヲ爲セシ者ハ第四百六

條記シタル刑ニ處セラル可シ詐欺取財ノ參照律參照
若シ行政又ハ裁判ニ管スル官吏前項ニ記セシ背信ノ罪ヲ犯シタル時又ハ奴婢、雇人、弟子、書記、家僮、工丁、年季弟子ノ其主人又ハ師ニ對シ其罪ヲ犯シテ害ヲ爲シタル時ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ
但シ此規則ト第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十六條ニ記セシ公ケノ預リ所ニ藏スル金銀、動産證書類ヲ盜取掠奪スル罪ヲ罰スル規則ト相解ルルコトナカル可シ

埃太利刑法

第八十三條 第八十一條ニ掲載セル罪情ノ外凡ソ委任ヲ受ケタル財貨ヲ五十、グルデン以上私藏スルニ於テハ之ヲ監守盜ノ重罪トス

凡ソ債主ヘ入質トシテ負債者之ヲ守護スル物モ亦負債者ノ監守物トシテ論スヘシ

註ニ曰ク第八十一條、第八十三條及ヒ第二百條ニ掲載セル總計ヲ算定スルニ方テハ第七十三條ノ規則ニ準據スヘシ

那威刑法

第二百五十五條 權限ナキ利得ヲ爲シ又ハ爲サシムル意向ヲ以テ其全部又ハ一部他人ニ屬スル動産ヲ領得シ又ハ信託セラレタル動産ノ占有ヲ否認シ又ハ違法ニ之ヲ讓渡又ハ消費シタル者又ハ其協力者ハ横領盜ノ罪責ヲ有ス

第二百五十六條 横領盜ニハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
罪責者情ヲ知リテ他人ノ生命又ハ健康ニ對スル危險又ハ他人ノ所有權ヲ重大ニ防碍スル危險ヲ惹起シ又ハ人ノ地位ヲ動搖セシメ又ハ價格一「クローン」以上ノ物件ヲ横領シタルトキハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ罪ノ結果人ヲ死去ニ致シ又ハ重大ノ身體障害又ハ健康損害ニ致シタルトキハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
横領盜ノ目的物輕微ノ價格ヲ有スルトキ又ハ爾餘ノ特ニ輕減スヘキ事由存在スルトキハ刑ハ之ヲ金刑ニ降スコトヲ得
發見物ノ横領盜ニハ金刑又ハ六月以下ノ禁錮ヲ科刑ス。一個又ハ數個

ノ行爲ニ依リ横領シタル物件ノ價格五「クローン」ヲ超ヘサルトキハ此種ノ横領盜ハ違當トシテ第三百九十四條ニ依リ之ヲ處分ス

瑞西刑法典案

第七十二條 物件ノ所有者トシテ又ハ所有者ノ爲メ利益權者動産質取主使用權者又ハ留置權者ノ權利行使ヲ不能トシ又ハ制限スル目的ヲ以テ其處分權ヲ剝奪シタル者ニハ申請ニ依リ禁錮又ハ一千「フランク」以下ノ罰金ヲ科刑ス

第七十三條 不法ニ自己又ハ第三者ヲ利益スル爲メ信託セラレタル物件ヲ領得シタル者
他人ノ爲メ受領シタル物件ヲ不法ニ自己又ハ第三者ノ利益ニ轉用シタル者ニハ申請ニ依リ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス行爲者官吏公務員後見人附添人財産管理人又ハ公ノ信用ヲ有スル被授權者トシテ行爲ヲ爲シタルトキハ職權ニ依リ十年以下ノ懲役ヲ科刑ス受託物ノ價格重大ナラサリシトキハ六月以上ノ禁錮ヲ科刑スルコトヲ得

第七十四條 子又ハ孫及ヒ行爲者ト同居スル配偶者ニ不利益ナル背信ハ科刑セス父母祖父母又ハ行爲者ト同居ノ家族タル者ニ不利益ナル背信及ヒ行爲者ト同居スル配偶者ニ不利益ナル背信ニハ申請ニ依リ之ニ科刑ス
第七十五條 不法ニ自己又ハ第三者ヲ利益スル爲メ其發見シタル物件又ハ特別ノ事由例之事變又ハ錯誤ニ依リ其勢力内ニ在ル物件ヲ領得シタル者ニハ申請ニ依リ禁錮又ハ千フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス

和蘭刑法

第三百二十一條 他人ニ全部又ハ一部ノ所有權アル物件又ハ犯罪外ノ理由ニ依リ自ラ所持スル他人ノ物件ヲ不法ニ自己ノ有ニ歸シタル者ハ曲取ノ罪ヲ以テ論シ三年以下ノ禁錮又ハ六十フランク以下ノ罰金ニ處ス
第三百二十二條 自己ノ使役スル職業ニ關シテ他人ノ物件ヲ所持スル者又ハ謝金外ニ之ヲ所持スル者其物件ニ付キ曲取財ヲ犯シタルトキハ四年以下ノ禁錮ニ處ス
第三百二十三條 必要ナル附託ノ名義ヲ以テ委託セラレタル物件ノ所持

者後見人管財人管理人遺囑ノ執行者慈惠院院長又ハ建設所長各其名義ニ由テ所持スル物件ニ付キ曲取財ヲ犯シタルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百二十四條 第三百十六條ノ規定ハ親族ノ犯罪ハ親告罪ト爲ス規定ハ本章ニ特示シタル犯罪ニ之ヲ適用ス
第三百二十五條 本章ニ特示シタル犯罪ニ付キ處刑アリタルトキハ判事ハ其判決ヲ公示セシメ且第二十八條第一項乃至第四項ニ列記シタル權利官職又ハ特定ノ官職ニ任命セラルルノ權兵軍ニ從事スルノ權選舉人被選舉人ト爲ルノ權司法上ノ補佐人又ハ管理人タルノ權自身ノ子以外ノ幼者ノ後見人後見監督人管財人又ハ監督管財人タルノ權ノ剝奪ヲ宣告スルコトヲ得本犯自己ノ職業執行中ニ罪ヲ犯シタルトキハ其職業執行ノ權利ヲ剝奪スルコトヲ得

澳太利刑法草案

第二百六十二條 何人タリトモ其現有スル他人ノ動産ヲ不法ニ領得スル

者ハ受寄盜ノ罪アル者トシテ禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス
物件ノ價額千「フロリン」ヲ超ヘタルトキハ十年以下ノ懲役ヲ言渡スコト
ヲ得ルモノトス

物件ノ價額五十「フロリン」以下ナルトキハ六月以下ノ禁錮ニ處スルモノ
トス

第二百六十三條 受寄盜ニ係ル物件カ發見シタル又ハ錯誤ニ依テ得タル
物件ナルトキハ懲役ヲ科セサルモノトス又此ノ場合ニ於テ若シ其價額
カ五十「フロリン」以下ナルトキハ單ニ五百「フロリン」以下ノ罰金ヲ科スル
ヲ得ルモノトス

第二百六十四條 凡テ既遂ノ竊盜又ハ既遂ノ受寄盜ノタメニ科スル自由
刑ト共ニ竊盜シ又ハ受寄盜シタル物件ノ二倍以下ノ罰金ヲ科スルヲ得
ルモノトス

第二百六十五條 竊盜又ハ受寄盜シタル又ハ此等ノ所爲ノ未遂ニ依テ侵
害シタル物件ノ價額ハ其ノ物件カ所爲ノアリタル當時保チタル普通價

額法律第三百五條甲乙ニ依テ算定スヘキモノトス

第二百六十六條 夫婦トシテ共同生活スル間ニ配偶者相互間ニ於テ爲シ
タル又ハ上系及ヒ下系ノ親屬又ハ姻族間選擇父母若クハ養父母ト其兒
子間又ハ其ノ他一家内ニ生活スル親屬又ハ姻族間ニ於テナシタル又ハ
未丁年者カ其ノ後見人又ハ教育人ニ對シテナシタル竊盜及ヒ受寄盜ハ
止タ告訴アリタル場合ニ於テノミ糺罪ス可キモノトス
這般ノ場合ニ於テハ懲役ヲ科スルヲ得サルモノトス

唐律

諸受寄財物而輒費用者坐贓論減一等詐言死者因詐欺取財物論減一等

明律

若冒認及誣賺局騙拐帶人財物者亦計贓准竊盜論免刺

凡盜賣換易及冒認若虛錢寶契典買及侵占他人田宅者田一畝屋一間以下笞

五十每田五畝屋三間加一等罪止杖八十徒二年係官者各加二等

若強占官民山場湖泊茶園蘆蕩及金銀銅場鐵冶者杖一百流三千里

若將互爭及他人田產妄作已業朦朧投獻官豪勢要之人與者受者各杖一百徒三年

田產及盜賣過田價竝遞年所得花利各還官給主

凡典買田宅不稅契者笞五十仍追田宅價錢一半入官不過割者一畝至五畝笞四十每五畝加一等罪止杖一百其田入官

若將已典賣與人田宅朦朧重復典賣者以所得價錢計贓准竊盜論免刺追價還主田宅從元典買主爲業若重復典買之人及牙保知情者與犯人同罪追價入官不知者不坐

其所典田宅園林碾磨等物年限已滿業主備價取贖若典主托故不肯放贖者笞四十限外遞年所得花利追徵給主依價取贖其年限雖滿業主無力取贖者不拘此律

凡受寄人財物畜產而輒費用者坐贓論減一等詐言死失者准竊盜論減一等竝追物還主其被水火盜賊費失及畜產病死有顯跡者勿論

清律

與明律同

第三 釋義 本章ハ舊刑法第三編第二章第三節ニ第五節中ノ受寄財物ニ關スル罪ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ今其主要ナル點ヲ列舉スルハ左ノ如シ

第一 舊刑法ハ受寄財物ヲ費消スルカ又ハ騙取拐帶等ノ行爲ヲ爲スニ非サレハ罪ト爲ササルヲ以テ單ニ受寄ノ財物ヲ自己ノ物ト爲シタル場合ニ在テハ何等ノ罪ヲモ構成セス故ニ被害者ハ唯民事上ノ救済ヲ求ムルノ外ナク而シテ其害ノ及フ所ハ受寄財物ノ費消ト毫モ異ナル所ナキヲ以テ本法ハ改メテ費消又ハ拐帶スルニ至ラスト雖モ既ニ橫領ノ行爲アリタル場合ニハ之ヲ罪ト爲シ以テ此弊害ヲ濟ヘリ

第二 舊刑法ハ受寄財物ニ關シ業務上他人ノ爲メニ占有スル場合ト否ラサルモノトノ區別ヲ爲サスト雖モ業務ニ因リ他人ノ爲メニ物ヲ占有スル場合ハ通常ノ場合ト異ナリ自ラ保管ノ責アルノミナラス一方ニハ交通取引ヲ妨ケ社會ノ信用ヲ害スルコト甚大ナルヲ以テ本法ハ此二者ヲ

區別シ各別ノ規定ヲ設ケタリ

以下各本條ニ付キ説明ヲ爲スヘシ
第二百五十二條第一項ハ舊刑法第三百九十五條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ他人ノ爲メ占有スル物ヲ不法ニ横領シタル場合ノ規定ナリ但舊刑法第三百九十五條ハ特ニ法文ノ規定ヲ要セスシテ明瞭ナルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ削除セリ第二項ハ舊刑法第三百九十六條ニ該當ス舊刑法ハ官署ヨリ差押ヲ受ケタル自己ノ所有物ヲ藏匿又ハ脱漏シタル場合ノ規定ヲ設クト雖モ藏匿又ハ脱漏ナル語ハ其意義尙ホ狭キコト前述ノ費消又ハ拐帶ナル語句ニ同シキヲ以テ本法ハ之ヲ改メテ横領ト爲シ以テ權利ナクシテ占有中ノ他人ノ物ヲ自己ノ所有ニ移シタルモノハ一切包含セシメタリ同條但書ヲ削除シタルハ他ノ特別法ノ規定ニ讓リタルモノナリ
第二百五十三條ハ新ニ設ケタル所ニシテ業務上他人ノ物ヲ占有スル者カ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル場合ハ前已ニ述フル如ク其罪狀重キヲ以テ特ニ本條ニ於テ之ヲ規定シ其刑ヲ重クシタリ舊刑法ノ監守盜ノ如キハ當然本條ノ

中ニ包含セラルヘキモノトス

第二百五十四條ハ舊刑法第三百八十五條及ヒ第三百八十六條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ハ遺失物漂流物及ヒ埋藏物ニ付テノミ規定スト雖モ本法ハ汎ク他人ノ占有ヲ離レタル物ヲ取得シ之ヲ横領シタル場合ニ付キ規定ヲ設ケタリ

第二百五十五條ハ舊刑法第三百八十七條ト全ク同一趣旨ノ規定ニシテ別ニ説明ノ要ヲ見ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此

等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第一 沿革

第一案 第三百八十三條 前四節及ヒ第二百八條ニ記載シタル罪ニ關スル

贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏、故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

犯人常業トシテ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十四條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第二案 第二百九十三條 贓物ヲ收受シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ五

百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百九十四條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二百五十九條 直系血族同居ノ親族間及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ第二百九十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三案 第二百九十二條 第二案ニ同シ

第二百九十三條 第二案ニ同シ

第二百九十四條 「第二百九十三條」第二百九十二條ト修正シ第二項ニ「親族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス」ヲ加ヘタル外第二案ニ同シ

第四案 第二百九十一條 第三案ニ同シ

第二百九十二條 第三案ニ同シ

第二百九十三條 「第二百九十二條」第二百九十一條ト修正シタル外第三案ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第六十二條 重罪及ヒ輕罪ヲ犯シテ盜奪竊取シタル品物ノ全部又ハ一
ヲ故ラニ隱匿シタル者ハ其重罪及ヒ輕罪ノ附從トシテ罰ス可シ

第六十三條 然モ重罪ノ首謀ヲ死刑ニ處ス可キ時ハ其贓物ヲ隱匿セシ者
ヲ無期ノ徒刑ニ處ス可シ

何レノ場合ニ於テモ贓物ヲ隱匿セシ者其事ヲ爲セシ時ニ當リ犯罪ノ首
謀ノ死刑又ハ無期ノ徒刑又ハ流刑ニ處セラル可キ模様アルヲ知リタル
證據ノ分明ナル時ニ非サレハ其隱匿者ヲ無期ノ徒刑又ハ流刑ニ處ス可
カラス若シ然カラサレハ之ヲ有期ノ徒刑ニ處ス可シ

白耳義刑法

第五百五條 輕重罪ヲ犯シテ強奪若クハ私利セル物品ノ全部又ハ一部ヲ
藏匿スル者ハ十五日ヨリ五年マテノ獄ニ處シ二十六「フランク」ヨリ五百
「フランク」迄ノ罰金ヲ科ス可シ

此等ノ犯人ハ尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處シ且ツ二年ヨリ五年マテノ監
察ヲ受ケシムルコトアリ

第五百六條 本犯死刑若クハ終身懲役ニ該ルヘキノ情ヲ知り其財物ヲ藏
匿スル者ハ監役ニ處スヘシ

獨逸刑法

第二百五十九條 犯罪ニヨリ得タル物件ト其景況ニ循ヒ知ルヲ得ヘキ又
ハ之レト思料ス可キ物件ヲ自己ノ利益ノ爲メニ隱藏シ又ハ買受又ハ之
ヲ典物トシテ請取り又ハ之ヲ預リ置キ又ハ賣却ノ媒介ヲ爲シタル者ハ
窩主ノ罪トナシ禁獄ニ處スヘシ

第二百六十條 窩主ヲ業トシ又ハ平生之レヲ隱藏スル者ハ十年ヨリ長カ
ラサル徒刑ニ處ス可シ

英吉利刑法典

一 財物ヲ受ケ因テ事主ノ爲メニ其盜マルル所ノ贓物ヲ搜索スル後其本
犯ヲ訪究シ官司ニ告知捕致セサル者ハ重罪ニ坐シ二年ニ止ル入獄ニ處

シ若クハ苦役監牢ヲ加ヘ或ハ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ處斷ス若シ男子年十六以下ノ者犯セハ更ニ打背罪ヲ加フ但タ判事ノ適意ニ依テ處斷ス

一 重罪ニ該ル盜贓ナルコトヲ知テ受クル者ハ重罪ノ後從ト爲シ首盜未タ捕獲セスト雖モ五年ヨリ十四年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ二年ニ過キサ
ル入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ若シ年十六以下ノ者犯セハ判事ノ適意ニ依テ且ツ打背罪ヲ加フ

若シ贓輕罪ニ該ル者ハ其贓ヲ受ル者モ亦輕罪ニ坐シ七年ニ止ル徒罪ニ處シ或ハ入獄ニ處斷ス其法上ニ同シ

魯西亞刑法

第二百二十四條 盜贓ヲ隱藏セシ者若シ重罪ノ所行ヲ犯スニ當リ加功ヲ要セシテ之ヲ爲シ得可キ罪犯(第二百一十一條)ニ就キ加功セシニ於テハ事後加功ノ重罪ノ刑ヲ擬決ス可シト雖モ其一等ヲ減ス可シ

第一千百六十六條 竊盜或ハ其未遂犯罪ニ就テ加功ヲ爲ス者竝ニ其障礙ヲ

爲スヘキコトヲ怠リシ者及ヒ竊盜者ヲ藏匿シ或ハ竊取セシ物品ヲ隱藏スル者ハ左ノ刑ニ處ス可シ

重罪ノ從犯ニ就テ此刑法書中某條例ニ論セシ制定ノ本旨ニ基キ處決スルモノトス

埃太利刑法

第八十五條 竊盜物若クハ監守盜物ヲ情ヲ知リテ陰匿受收若クハ爲メ

ニ其賣却ヲ爲ス者ハ竊盜或ハ監守盜共犯ノ罪トス

第八十六條 (甲) 共犯者竊盜物若クハ監守盜物ノ價額及ヒ其犯爲ノ形狀ニ依テ該竊盜若クハ監守盜ノ所業タルヤ重罪ニ係ルヘキコトヲ熟知セルトキ或ハ

(乙) 凡ソ竊盜若クハ監守盜物ヲ數回隱匿シ或ハ受收シ又ハ賣却セルトキ其竊盜物ニ在テハ價額ヲ合計シテ二十五「グルデン」其監守盜物ニ在リテハ五十「グルデン」以上ニ及フトキハ該共犯ハ六月以上一年以下ノ重徒刑ニ處セラル可シ但其價額及ヒ計略竝ニ其犯爲ヨリ致セル損害ノ甚シキ

ニ從ヒ或ハ五年ノ期ニ及フコト有ルヘシ
第九十六條 設ヒ其價額僅瑣ノ物ト雖モ強盜物ニ係ル情ヲ知テ之ヲ陰匿シ若クハ爲メニ賣却或ハ收領スル者ハ強盜共犯ノ重罪トシ一年以上五年以下ノ重徒刑ニ處ス可シ

和蘭刑法

第四百十六條 故意ヲ以テ且利益ヲ得ンカ爲メ犯罪ニテ得タル物件ヲ買得シ交換又ハ質物トシテ收受シ若クハ贈與物トシテ受諾シ或ハ之ヲ藏匿セシ者ハ贓物隱匿ノ罪ヲ以テ論シ三年以下ノ禁錮ニ處ス
犯罪ニテ獲得シタル物件ヨリ故意ヲ以テ利益ヲ得タル者亦同シ
第四百十七條 犯罪ニテ獲得シタル物件ヲ平常買得シ交換又ハ質物トシテ收受シ或ハ藏匿セシ者ハ六年以下ノ禁錮ニ處ス
本犯ニ對シテハ第二十八條第一項乃至第四項ニ列記シタル權利ヲ剝奪シ且其ノ因テ罪ヲ犯スニ至リシ職業ヲ營ムコトノ不能力者タルヲ宣告スルコトヲ得

澳太利刑法草案

第二百七十一條 何人タリトモ自己ノ利益ノタメ左ノコトヲ爲シタル者ハ隱私ノ罪アル者トシテ禁錮及ヒ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第一 竊盜、受寄盜、強盜、強盜ニ均シキ脅嚇、圖利又ハ第七條ニ記載セル犯罪ニ依テ得タル物件ナルコトヲ知リ又ハ情狀ニ依リ之ヲ知ラサル可カラサル物件ヲ隱私シ買得シ交換シ質取シ又ハ其他己レニ領得シ又ハ他人ニ販賣シ又ハ其販賣ニ共力シタル者

第二 其他ノ方法ヲ以テ前記ノ罰金可キ所爲ヲ庇護シタルノ罪アル者隱私シタル物件ノ價額カ五千フロリン以下ニシテ且ツ此物件タル犯罪ニ依テ得タル物第一號ニ非サルトキハ六月以下ノ禁錮ヲ科ス可キモノトス又隱私シタル物件カ發見又ハ錯誤ニ依テ得タル物ニシテ同一條件存スルトキハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ科ス可キモノトス
犯罪者カ隱私ヲ常業トシテ營ムトキハ二年以上五年以下ノ懲役及ヒ千

「フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑シ隠私ヲ甚ク盛大ニ營ムトキハ二年以
上十年以下ノ懲役及ヒ三千「フロリン以下ノ罰金ヲ以テ罰セラルルモノ
トス

行爲前ニ約束ヲ爲シタル場合ニ於テハ第五十二條及ヒ第五十三條ノ規
定ヲ適用ス但該條ニ依リ科ス可キ刑カ本章ノ規定ニ從テ科スヘキ刑ヨ
リ重キトキニ限ル

第二百七十二條 隠私ノ有罪判決ト共ニ監視ニ附スルノ言渡ヲナスコト
ヲ得ルモノトス

第二百七十三條 第二百六十一條ノ規定ハ又隠私ノ有罪判決ニモ適用セ
ラルルモノトス

唐律

諸知略和誘及強盜竊盜而受分者各計所受贓準竊盜論減一等知盜贓而故買
者坐贓論減一等知而爲藏者又減一等

明律

其知人略賣私誘人及強竊盜後而分贓者計所分贓準竊盜爲從論免刺
若知強竊盜贓而故買者計所買物坐贓論知而寄藏者減一等各罪止杖一百其
不知情誤買及受寄者俱不坐

清律

與明律同

瑞西刑法典案

第七十八條 罪ニ依リ得タル物件ナルコトヲ知リ又ハ知ラサルヘカラサ
ル場合ナルニ拘ハラヌ之ヲ取得シ質權ヲ設定シ隠匿シ又ハ幫助シテ隔
離シタル者ニハ禁錮又ハ三年以下ノ懲役ヲ科刑ス隠秘ヲ爲シタル日時
隠秘ノ爲メ刑ヲ執行シタル日時ヨリ五年ヲ經過セサリシトキハ五年以
上ノ懲役ヲ科刑ス
行爲者隠秘ヲ常業トスルトキハ其刑ハ五年以下ノ懲役及ヒ二萬フラン
ク以下ノ罰金トス
罰金ハ少クトモ隠秘者ノ利得ト同額ナルヘシ

那威刑法

第三百十七條 受寄盜竊盜小盜又ハ強盜ノ贓物ナルコトヲ知了シ又ハ知了セサルヘカラサルニ拘ハラス自己又ハ他人ニ權利ナキ利得ヲ歸スル意向ヲ以テ其所有權質權又ハ使用權ヲ取得シ之ヲ隱匿シ保管シ消費シ又ハ讓渡又ハ質入ヲ爲サントシタル者又ハ其協力者ハ贓物隱秘ノ罪責ヲ有ス

第三百十八條 贓物隱秘ニハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
贓物隱秘ノ目的物輕微ノ價格ヲ有スル物又ハ横領シタル發見物ナルトキ又ハ爾餘ノ特別ノ減輕事由存スルトキハ刑ハ之ヲ金刑ニ降スコトヲ得
行爲者慣行的ニ贓物隱秘ヲ爲シタルトキハ六月乃至六年ノ禁錮ヲ科ス
行爲者其前既ニ贓物隱秘又ハ第十七章第十八章第二十四章乃至第二十七章ニ對スル罪又ハ第八十八條、第四百十七條、第二百四條又ハ第二百六條ノ爲メ科刑セラレタルトキハ刑ハ其半ハ以下ヲ加重シ若シ其前既ニ

數回此種ノ方法ニ依リ科刑セラレタルトキハ刑ハ其二倍ニ之ヲ加重スルコトヲ得

第三百十九條 贓物隱秘ノ刑ハ不法ニ取得シタル物ヲ自己又ハ他人ノ活計又ハ扶養ノ爲メ其義務者ヨリ受領シタル者ニハ其適用ヲ有セス
第三百二十條 罪責者ニ對シ其罪ニ依リ希圖シタル利益ヲ確保スル爲メ罪ノ犯行後幫助ヲ爲シタル者ニハ金刑又ハ二年以下ノ禁錮ヲ科刑ス但何ノ場合ト雖モ罪自體ニ付キテノ協力ニ對スル刑ヨリ嚴峻ナルヘカラス

第三百二十一條 贓物隱秘及ヒ庇護ノ訴追ニ付キテハ贓物隱秘又ハ庇護ノ前提タルヘキ罪ニ付キテノ協力ニ適用スヘキ規則ニ從フ

第三 釋義 本章ハ舊刑法第三編第二章第六節ノ規定ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ

以下各本條ニ付キ説明スヘシ

第二百五十六條ハ舊刑法第三百三十九條及ヒ第四百條ヲ合シ少シク之ニ修

正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ハ強竊盜ノ贓物ト其他ノ罪ニ關スル物件ト
ヲ區別シ其刑ヲ異ニスト雖モ如此區別ハ實際ノ適用上何等ノ實益ナキヲ以
テ之ヲ總合シテ總テノ罪ニ關スル贓物ニ付キ同一ノ規定ヲ設ケタリ單ニ贓
物ヲ收受シタル者ト運搬寄藏故買又ハ牙保ヲ爲シタル者トハ其罪狀大ニ異
ナル所アルヲ以テ之ヲ區別シ其刑ヲ異ニシタリ即チ本條第一項ハ單ニ贓物
ヲ收受シタル罪ニ關スル規定ニシテ第二項ハ贓物ノ運搬寄藏故買又ハ牙保
ヲ爲シタル罪ニ關スル規定ナリ

第二百五十八條ハ新ニ設ケタル規定ナリ直系血族配偶者又ハ同居ノ親族又
ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯ストキハ其情狀ニ於
テハ頗ル宥恕スヘキモノアリ故ニ罪人藏匿及ヒ證據湮滅罪ニ付キ特別ノ取
扱ヲ爲スカ如ク其刑ヲ免除スルコトト爲シタリ

第四 疑問及説明

第一 第二百五十六條ノ收受シタル者トアル中ニハ「交換ヲ爲シタル者」ヲ含
ムヤ

普通ノ場合ニ於テハ交換ハ收受ノ中ニ包含スヘシト雖モ一概ニ交換ト云
フモ假令ヘハ互ニ價額ヲ定メ殆ント賣買ノ如キ姿ニテ交換シタルトキハ
收受ノ中ニハ包含セサルヘシ

第二 贓物トハ如何ナルモノヲ云フヤ

贓物トハ犯罪ニ因テ不正ニ獲得シタル物件ヲ云フ

第三 無形ノ權利ヲ含ムヤ

犯罪行為ニ因テ獲得シタル有體物ニ限り無形ノ權利ヲ含マズ

第四 訴追又ハ處罰ノ條件ヲ缺クカ爲メニ主犯者カ刑ヲ受ケサル場合ニ於
テモ其獲得シタル物件ハ贓物ト云フヲ得ヘキヤ

贓物ニ關スル罪ハ犯罪行為ニ因ル有體物ノ占有又ハ保存ヲ處罰スルノ精
神ニ出テタルモノナレハ縱シ訴追又ハ處罰ノ條件ヲ缺キタル爲メ主犯者
カ刑ヲ受ケサルモ其有體物ヲ目シテ贓物ト云フヲ妨ケサルヘシ

第五 果シテ然ラハ責任行為ノ中故意ヲ缺ケル無罪ノ行為ニ伴フ贓物アリ

ヤ

故意ヲ缺ケル無罪ノ行爲ニ贓物ノアルヘキ理ナシ

一三七四

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ船舶ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス
第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第一 沿革

第一案 第三百八十五條 自己ヲ利シ又ハ人ヲ害スルノ意ヲ以テ人ノ所有ニ屬スル動産、不動産ヲ毀壞シ殘害シ消滅セシメ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追スルコトヲ得ス

第三百八十六條 自己ノ所有ニ屬スト雖モ裁判所ヨリ差押ヘラレ又ハ抵當若クハ質ト爲シ其他他人ノ爲メニ物權ヲ設定シ又ハ保險ニ付シタル動産不動産ハ他人ノ所有ニ屬スル動産不動産ト同シク論ス

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタルトキハ第二百四十二條(毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス)ノ例ニ從フ

第二案 第二百九十六條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十七條 權利義務ニ關スル人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百九十八條 人ノ建造物又ハ船舶ヲ毀壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ妨害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷

ス

第二百九十九條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ毀損又ハ傷害シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ毀損又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二案 第二百九十五條 第二案ニ同シ

第二百九十六條 第二案ニ同シ

第二百九十七條 他人ノ建造物又ハ船舶ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十八條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處

ス但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

一三七八

第二百九十九條 第二案ニ同シ

第四案 第二百九十四條 第三案ニ同シ

第二百九十五條 第三案ニ同シ

第二百九十六條 第三案ニ同シ

第二百九十七條 第三案ニ同シ

第二百九十八條 第三案ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第二百五十七條 公ケノ資産又ハ粧飾ト爲スヘキ爲メ官署ニ於テ造立シ或ハ官署ノ允許ヲ得テ造立シタル記念ノ標識立像又ハ其他ノ物ヲ破壊シ打倒シ毀損シタル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第四百三十七條 何レノ方法ヲ論セス人ニ屬スルコトヲ知リタル建造物橋堤ノ全部又ハ一部ヲ故意ヲ以テ滅盡シ及ヒ崩潰セシメタル者又ハ蒸汽器械ヲ破裂セシメタル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分ノ一ヨリ多カラス百フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ(千八百六十三年五月十三日改正)

若シ此罪犯ニ因リ人ヲ殺シ及ヒ傷スルコトアルトキハ其犯人ヲ殺スニ於テハ死刑ニ處セラレ人ヲ傷スルニ於テハ有期ノ徒刑ニ處セラレヘシ

第四百三十九條 官署ノ簿冊及ヒ證書類又ハ義務契約算還ノ證スル商業或ハ銀行ノ紙券手形爲替手形證票ヲ故意ヲ以テ焚燬シ又ハ如何ナル方法ヲ論セス之ヲ滅盡セシメタル者ハ左ノ刑ニ處セラレヘシ
若シ官署ノ證書類又ハ商業或ハ銀行ノ證票ヲ滅盡セシメタルトキハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラレヘシ

若シ其他ノ證書類ヲ滅盡セシメタルトキハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ

多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラス三百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第四百四十條 群集ヲ爲シ且顯然ノ暴行ヲ以テ品物、商品、證券、動産類ヲ掠奪毀損セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラレヘク且其各犯人ハ二百フランクヨリ少カラス五千フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第四百四十二條 前ニ記スル所ノ暴行ニ因テ穀物、粗惡ノ穀物、穀粉、諸般ノ粉ト爲スヘキ物、麵包、葡萄酒又ハ其他ノ飲料ヲ掠奪損敗セシトキハ其暴行ノ首謀及ヒ挑唆鼓舞ヲ爲シタル者ヲ至重ノ有期ノ徒刑ニ處シ且第四百四十條ニ記載シタル至重ノ罰金ヲ言渡スヘシ

第四百四十三條 物ヲ腐爛セシムヘキ流動物ヲ用ヒ及ハ其他ノ方法ニ因テ故意ニ商品又ハ製造ヲ爲スヘキ品物或ハ器具ヲ損敗シタル者ハ一月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且損失償高ノ四分ノ一ヨリ多カラス十六フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

若シ製造所ノ工丁又ハ商家ノ使用ヲ受クル者其罪ヲ犯シタルトキハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレヘシ但此規則ト其犯人前項ニ記載シタル罰金ノ言渡ヲ受クヘキ規則ト相觸ルルコトルナカヘシ

第四百四十四條 未タ刈收セサル穀類又ハ天生人工ノ草木類ヲ荒殘セシ者ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレヘシ

又其犯人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ

第四百四十五條 他人ニ屬スルコトヲ知リタル樹木一根又ハ數根ヲ斫伐セシ者ハ其斫伐セシ者ハ其斫伐シタル樹木ノ每根ニ付キ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレヘシ但其斫伐シタル樹木ノ數ノ如何ニ多キトキト雖モ其犯人ヲ五年以上禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四百四十六條 樹木ヲ枯死セシムヘク之ヲ傷ケ又ハ斫リ又ハ其皮ヲ剝去セシ者ハ其樹木ノ每根ニ付キ前條ニ同シキ刑ニ處セラルヘシ

第四百四十七條 接木一根又ハ數根ヲ損害シタル者ハ其接木ノ每根ニ付キ六日ヨリ少カラス二月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ但其損害セシ數如何ニ多キトキト雖モ其犯人ヲ二年以上禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四百四十八條 若シ街衢道路市街往還小路傍徑ニ植タル樹木ヲ斫伐シ又ハ損害シタルトキハ第四百四十五條及ヒ第四百四十六條ニ記載セシ場合ニ於テハ其犯人ヲ禁錮スル至輕ノ刑二十日ヨリ少カラス第四百四十七條ニ記載セシ場合ニ於テハ其至輕ノ刑十日ヨリ少カラサルヘシ
第四百五十一條 農業ノ器具獸園看守人ノ小舎ヲ破壊セシ者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ

第四百五十二條 馬又ハ其他車ヲ挽カシメ或ハ騎行ノ用ニ供シ或ハ物ヲ載スル用ニ供スヘキ獸類又ハ牛羊山羊豚又ハ池沼ニ養フ魚ニ毒物ヲ與

ヘシ者ハ一年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六「フ」ランク「ヨ」リ少カラス三百「フ」ランク「ヨ」リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ又其犯人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ

第四百五十三條 已ムヲ得サルニアラスシテ前條ニ記載シタル獸類ノ一ヲ殺セシ者ハ左ノ刑ニ處セラルヘシ

若シ其獸類ヲ蓄ヒ置キシ者ノ所有シ又ハ借受ケン家屋又ハ繞圍ヲ爲シタル場所又ハ其所屬ノ場所又ハ土地内ニ於テ此輕罪ヲ犯シタル時ハ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ
若シ犯人ノ所有シ又ハ借受ケン場所ニ於テ此輕罪ヲ犯シタルトキハ六月ヨリ少カラス一月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ
若シ前ノ二項ニ記載シタル以外ノ場所ニ於テ此輕罪ヲ犯シタルトキハ十五日ヨリ少カラス六週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ
何レノ場合ニ於テモ塀牆ヲ破壊シテ此輕罪ヲ犯セシトキハ其刑中ノ至

重ノ刑ニ處セラルヘシ

第四百五十四條 已ムヲ得サルニアラスシテ家畜獸類ヲ蓄ヒ置キシ者ノ所有シ又ハ借受ケシ場所ニ於テ其獸類ヲ殺セシ者ハ六日ヨリ少カラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ

若シ塀牆ヲ破壊シテ此輕罪ヲ犯セシ者ハ其刑中ノ至重ノ刑ニ處セラルヘシ

第四百五十五條 第四百四十四條ヨリ前條ニ至ルマテノ各條ニ記載セシ

場合ニ於テハ其犯人損失償高ノ四分ノ一ヨリ多カラス十六フランクヨリ少カラサル罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第四百五十六條 溝渠ヲ填メ又ハ塀牆ノ何物ヲ以テ造リタルヲ論セス之ヲ破壊シ又ハ植籬或ハ編臚ヲ斫リ毀テ或ハ抜キ採リシ者又ハ土地ノ經界ヲ定ムル爲メ置キタル物或ハ石或ハ其經界ヲ定ムル爲メ植タル樹木或ハ其經界ノ限定ヲ爲スヲ衆庶ノ通知シタル樹木ヲ移動シ又ハ毀棄シタル者ハ一月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ

レ且損失償高ノ四分ノ一ニ當ルヘキ罰金ノ言渡ヲ受クヘシ但其罰金ハ何レノ場合ニ於テモ五十フランクヨリ少ナキントナカルヘシ

埃太利刑法

第三百二十條 何人タリトモ他人ノ物件ヲ毀損シ破壊シ及ヒ其他所有者

ニ對シテ無價格ニ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千フランク以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルモノトス

第三百二十一條 何人タリトモ故意ヲ以テ國內ニ存立スル教會ノ尊敬スル物件又ハ禮拜ニ捧ケタル物件又ハ墓碑又ハ公ケノ記念碑又ハ公ケノ博物館ニ保存シ又ハ公然陳列シタル技藝學術又ハ營業上ノ物件又ハ公ケノ培樹又ハ公ケノ道路場所又ハ設置ノ公益又ハ裝飾ニ供シタル物件ヲ毀損シ又ハ破壊シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ二千フランク以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルヘシ

第三百二十二條 第三百二十一條及ヒ第三百二十二條ノ場合ニ於テ損害カ五十フランクヲ超ヘサルトキハ六月ヨリ長カラサル禁錮又ハ五百フ

ロリンヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サルヘシ

第三百二十三條 建造物、船舶、橋梁、堤防、築造市街、鐵道又ハ他人ノ所有ニ係ル其他ノ建造物ヲ全部又ハ一部破壊シタル者ハ一月ヨリ少カラサル禁錮ヲ以テ處刑セラレヘシ

第三百二十四條 物件毀損ニ關スル糺罪ハ告訴ヲ待テ開始スヘキモノトス但第三百二十二條及ヒ第三百二十四條ニ記載セル物件ニ關スル場合ハ此限ニ在ラス

和蘭刑法

第三百五十條 他人ニ全部又ハ一部ノ所有權アル物件ヲ故意ヲ以テ且不法ニ毀壞殘害シ又ハ使用シ能ハサル景狀ト爲シ若クハ喪失セシメタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

他人ニ全部又ハ一部ノ所有權アル獸類ヲ故意ヲ以テ且不法ニ撲殺殘害シ又ハ使用シ能ハサル景狀ト爲シ若クハ喪失セシメタル者亦同シ

第三百五十一條 故意ヲ以テ且不法ニ鐵道、電信ノ工事又ハ瓦斯管、水道受

滴樋ノ水ヲ抑留又ハ流出セシムル工事ヲ毀損殘害シ又ハ使用シ能ハサル景狀ト爲シ而シテ此等ノ工事公益ノ爲メニ施行スルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百五十二條 他人ニ全部又ハ一部ノ所有權アル建設物又ハ船舶ヲ故意ヲ以テ且不法ニ毀壞シ又ハ使用シ能ハサル景狀ト爲シタル者ハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

第三百五十三條 第三百十六條ノ規定ハ本章ニ特示シタル犯罪ニ之ヲ適用ス

第三百五十四條 本章ニ特示シタル罪ヲ二人以上ニテ犯シタルトキハ各刑ノ三分ノ一ヲ加フ

那威刑法

第二百九十一條 全部又ハ一部他人ニ屬スル物ヲ違法ニ毀滅損害廢棄又ハ其他ノ方法ニ依リ滅却シタル者又ハ其協力者ニハ金刑又ハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

公ノ訴追ハ被害者ノ申請ナキトキハ之ヲ爲サス但一般ノ福利上訴追ヲ必要トスルトキハ此限ニ在ラス

第二百九十二條 公ノ記念碑又ハ公ノ職務ニ信託セラレ又ハ公ノ團體ニ屬シ又ハ一般ノ利益又ハ公ノ場所ノ粧飾ニ供スル物ニ對シ第二百九十一條ノ行爲ヲ爲シタル者又ハ同條ノ行爲ニ依リテ一千クローン以上ノ損害ヲ惹起シタル者ニハ金刑又ハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第二百九十一條ノ行爲ニ依リ五千クローン以上ノ損害又ハ他人ノ生命又ハ健康ニ對スル危險ヲ惹起シタル者ニハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス罪ノ結果人ヲ死去又ハ重大ノ身體傷害又ハ健康損害ニ致シタルトキ又ハ犯意ニ依リ惹起セル損害五萬クローンヲ超過シタルトキハ十年以下ノ禁錮ヲ裁定スルコトヲ得

第二百九十三條 第二百九十二條第二項及ヒ第三項ニ豫見シタル種類ノ物件ノ過失的損壞ニハ金刑又ハ六月以下ノ禁錮ヲ科刑ス
公ノ訴追ハ被害者ノ申請アルニアラサレハ之ヲ爲サス但一般ノ福利上

獨逸刑法

訴追ヲ必要トスルトキハ此限ニ在ラス

第二百七十四條 左ノ件々ニ於テハ禁獄又ハ千「ターレル」ヨリ多カラサル罰金ニ處シ或ハ其兩刑ノ内一ニ循ヒ禁獄ニ處スルコトヲ得ヘシ

第一 他人ニ害ヲナスノ目的ニテ所有者ニアラス又ハ全ク己レニ屬セサル文書ヲ破毀損害隱匿シタル時

第二 他人ニ害ヲ爲スノ目的ニテ兩地ノ疆界ヲ定メ或ハ水平ヲ表スル爲メニ設ケタル標柱又ハ其餘ノ物件ヲ毀棄破壞變換那移又ハ偽テ之ヲ建置シタル時

第三百三條 自己ニ屬セサル物件ヲ故ラニ又ハ不正ニ破毀シ又ハ之ヲ損壞シタル者ハ一千「マルク」ヨリ多カラサル罰金又ハ二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ
訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ

第三百四條 國內ニ設置シタル法敎社中ノ尊敬スヘキ目的ト爲リタル物件或ハ其禮拜堂ニ供シタル物件墓所ニアル石碑公碑(圖ナ市ノ塔ニ爲ニ設置シタル塔其他各種云フ)博覽場ニ寄集シタル百工學術又ハ製造ノ物件ハ一般ノ利益及ヒ街衢公園等ノ粧飾トナルヘキ物件ナルヲ故サラニ又ハ不正ニ損壞シ又ハ之ヲ破毀シタルモノハ三年ヨリ長カラサル禁獄又ハ五百ターレルヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

禁獄ノ外仍ホ公權ヲ剝奪スヘシ

之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰スヘシ

第三百五條 建造物船舶橋梁堤防市街鐵道其餘他人ニ屬スル建物ノ全部又ハ一部ヲ故ラニ又ハ不正ニ損害シタルモノハ一月ヨリ短カラサル禁獄ニ處ス可シ

之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ

第三 釋義 本章ハ舊刑法第三編第二章第十節ノ規定ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ今其主要ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 舊刑法ハ官文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ官文書偽造罪中ニ置クト雖モ毀棄ト偽造ハ全然其性質ヲ異ニシ法文排列ノ場所宜シキヲ得サルヲ以テ本法ハ之ヲ本章ニ移シ汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第二 舊刑法ニハ自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權若クハ賃借權ノ目的物ト爲リタル場合ニ於テ其物ヲ毀棄シタル行爲ニ關スル規定ヲ缺クヲ以テ本法ハ之ヲ補充セリ

第三 舊刑法ニハ他人ノ信書ヲ隱匿シタル場合ノ規定缺如セルヲ以テ之ヲ補充セリ

以下各本條ニ付キ説明スヘシ

第二百五十八條ハ舊刑法第二百二條後半、第二百三條第二項及ヒ第二百五條第二項ノ規定ノ趣旨ヲ擴張シ官文書ノミナラス汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ設ケタルモノナリ

第二百五十九條ハ舊刑法第四百二十四條ノ規定ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ